

反別確定無之分ハ何不定地凡反別何程ト相記シ地價相定規則ノ通收稅可致事〇第九則
 總テ舊來大繩受ノ地所ハ現步調査ノ上地價相定規則ノ通收稅可致事(但舊來大繩受ノ地
 所トハ一トモ不定地ノ分ハ第八則ノ通收稅可致事)〇第十則 運テ年季ヲ定メ無稅ノ積
 開屆置候荒地ノ儀ハ損害ノ厚薄ニ寄リ更ニ起返スヘキ難易ヲ量リ年季ノ長短ヲ定メ年季
 中無代價ノ地券可相渡事〇第十一則 池沼等ニテ持主有之水草其他ノ利潤アルモノハ相
 當ノ池沼代價ヲ定メ規則ノ通收稅可致事〇第十二則 新開場嶽下年季中無稅ノ積相心得
 新開試作地反別何程ト相記無代價ノ券狀可相渡事(但非常永年季ノ分ハ地盤作付出來ノ
 年ヨリ三十年ヲ度トシ引直スヘキ事)〇第十三則 地價調査ノ儀ハ各廳ニ於テ適宜人員
 相定實地ニ派出致シ可取調事〇第十四則 官員派出ノ上實地點檢可致就テハ持主銘々所
 持ノ地所一筆毎ニ反別并番號持主姓名相記畝杭可建置事〇第十五則 村方ヨリ差出候一
 筆限地價相當ナルキハ兼テ相渡置候券狀爲差出更正ノ反別并地價ヲ券狀ノ裏ニ相記可
 下渡事(但券狀裏書ノ上相渡候ニ付テハ別段手数料等收入ニ不及候事)〇第十六則 地
 券調査相濟候ハ別紙離形通地稅表ヲ製シ施行以前租稅察ニ可差出事

右之通相達候事

大藏省事務總裁

地租改正條例 (條例ノ部ニ在リ)

六年十二月大藏省布達第百八十二號

先般致布達候地租改正施行規則第十七則ニ追而可相達旨書載候地稅表離形相達候條地分
 調査相濟候ハ甲印離形ニ照準一郡限并管内總計之稅額比較表ヲ作り券狀渡方以前租稅
 察ニ差出地租改正之儀可伺出改正相濟候ハ乙印離形ニ照準國郡村限及別地價表取調差
 出管内一般改正濟ノ上總計表ヲ取調可差出此旨相達候事
 但先般相達候一郡村限甲地地表并國郡村限地稅表ノ儀ハ不及差出候事(地稅表離形界)

五ヶ年間地價据置

十三年五月御布告第二十五號

第一條 明治七年第五十三號ヲ以テ地租改正後五ヶ年間ハ當初定メタル地價ニ據リ收稅
 致スヘキ旨布告及ヒ置シ處仍ホ明治十八年迄据置收稅スヘシ但府知事縣令ニ於テ當初定
 メタル地價不適當ナリト思量シ其事由ヲ具申スルキハ大藏卿ハ檢査員ヲ派遣シ實地調査
 ノ上一町村又ハ一郡區限リ特別修正ヲ聽許スルコト可シ 〇第二條 改租以來地目變
 換(田ヲ畑ニ畑ヲ田宅地ニ爲スノ類)セルモノハ五ヶ年滿期ニ際シ總テ現地目ニ組換地
 價ヲ修正シ爾後變換スル者ハ其年々修正スヘシ 〇第三條 第一條第二條ニ依リ修正
 加フル時ハ明治六年第二百七十二號布告ノ地租改正條例及ヒ同年七月大藏省事務總裁布
 達ノ地租改正施行規則ニ依ルヘシ且其費用ハ官吏ノ旅費日給ヲ除クノ外悉皆修正ニ該ル
 郡區町村若シハ所有者ヨリ支出スヘキモノトス 〇第四條 地價修正ノ後租額ノ増減ハ
 其修正聽許ノ年ヨリ改定スヘキモノトス 右布告候事

八年八月御布告第百三十三號

府縣市街地等是迄地價百分一收稅致來候處明治六年七月第二百七十三號布告ノ通地租改
 正法各管内一般ニ施行候節ハ右改正法ニ準據シ地價百分三ノ稅ニ改正候條此旨布告候事

八年十月御布告第百五十六號

市街地收稅ノ儀ニ付本年八月第百三十三號ヲ以テ布告候ニ付テハ各管内一般地租改正法
 施行ノ上地所ニ賦課スル區費ハ市街地ノ儀モ明治六年七月第二百七十二號布告之通地租
 三分ノ一ヨリ超過不相成候條此旨布告候事

九年九月地租改正局布達第三號

市街地租ノ儀ニ付明治八年八月第百三十三號ヲ以テ公布有之候ニ付テハ市街地一般明治
 六年七月第二百七十二號及其以後地租改正ニ關シタル諸布告ニ可準據儀ニ付改正後賣買
 ノ間地價ノ増減生シ候共改正ノ年ヨリ五ヶ年間ハ最初取定置候地價ニ據リ收稅候儀ト

市街地ノ收稅

市街地收稅

府縣市街地收稅

北海道ノ地租

地租減額ノ部

假定租額ノ決算

地租徵收期限

可相此得此旨相達候事

九年十二月御布告第六十二號

北海道地租ノ儀當分地價百分ノ一ニ相定候條此旨布告候事

十年一月御布告第一號

今般地租ノ儀別紙詔書ノ通被仰出候ニ付テハ明治十年ヨリ地價百分ノ二分五厘ト被定候條此旨布告候事

詔書(詔勅ノ部ニ在リ)

十二年一月内務省達乙第四號

客年三月當省乙第二十五號ヲ以テ地租改正未済ノ土地ハ假定ノ租額ニ據リ五分ノ一賦課致シ其消費候民費ハ改正濟ニ至リ租額ニ照シ指引精算ニ及ハサル旨相達置候處地方稅施行ノ府縣ハ其施行ノ日ヨリ客年第十九號公布ノ制限ニ照準シ追テ改租濟之上決算指引可致儀ト可心得此旨相達候事

十四年二月御布告第十四號

明治十年七月第五十三號布告地租徵收期限ノ儀明治十四年分ヨリ左ノ通改定候條此旨布告候事

但市街宅地地租ノ儀ハ該年七月翌年一月兩期ニ其五分宛テ收納スヘシ(但書十五年五月改正ニ係ル)

地租徵收期限

一期 該年七月一日ヨリ同八月三十一日限

畑方及宅地山林原野牧場

五分

二期 同 九月一日ヨリ同十月三十一日限

五分

凶歲租稅延納規則

田方代米納

代米納取扱規則

三期 同十一月一日ヨリ同十二月十五日限

田方

五分

四期 翌年二月一日ヨリ同三月三十一日限

五分

(此項十六年十一月二十六號布告ニ改正)

十年九月御布告第六十二號
改正ノ租額ハ年ノ豐凶ニ拘ラス上納可致等ニ付人民ニ於テ豫テ凶歲ノ備ヘテ爲スヘキハ勿論ナリト雖也改正後日尙ホ淺キニ依リ萬一非常ノ天災ニ罹リ事實難澁ノ村方ハ特別ノ詮議ヲ以テ別紙規則ノ通り當分割賦延納被差許候條此旨布告候事

十年十二月御布告第八十號

凶歲租稅延納規則(略之)
地租金ノ内田方ニ限リ當分人民ノ情願ニ任セ半額從前實納石代平均相場ノ方法ヲ用ヒ該年ノ相場ヲ以テ代米納差許候條此旨布告候事

十年十一月御達第八十五號

今般地租金代米納差許候旨第八十號ヲ以テ布告候ニ付右取扱ノ義ハ左ノ規則ニ照シ處分可致此旨相達候事

代米納取扱規則

- 一 人民ノ情願ニヨリ金ニ換ルニ米ヲ以テスレハ是ヲ許可シ左ノ順序ヲ以テ取扱フヘシ
- 一 地方官ハ毎年十月一日ヨリ十一月三十日迄六十一日間管内平均相場確實取調十二月十五日限大藏省租稅局ヘ届出ヘシ
- 一 代米納運シテ十二月十五日迄ニ爲願出許可セシモノニ限ルヘシ右許可セル上ハ金納ニ復スルヲ請フニ許スヘカラス
- 一 代米納テ許可セシ分ハ其金額及代米石高納所共仕譯書ヲ以テ十二月中大藏省ニ届出ヘシ

○租稅

一 代米納去願出ルアラハ其納ムル金額ナ前條平均相場ニテ算出シ得ル所ノ米額ヲ納入セシム(假令ハ本行金額百圓ナラハ平均相場五圓ヲ以テ除之此米二十石ヲ得ル)尤俵拾及合米差入方其他川附運賃官民ノ區別概廻シ檢量ノ方法共總テ從前ノ貢納規則ニヨル

一米納之分納所へ輸送濟ノ上ハ其地方租稅課官員ハ貢米納方規則ノ順序ヲ以テ納入爲請取而シテ后是ヲ預米金ノ方法ニ倣ヒ其米額ハ假ニ出納課へ引渡置大藏省租稅局へハ普通通ノ上納證書ニ金額ヲ本行ニ立此代米若干ト記載上納スヘシ

但米納藏數其他ノ諸費ハ納人ヨリ請取濟出納課へ引渡時限ヲ分テ官民ノ區別ヲ立ツ

十年十一月御布告第七十九號

租稅未納ノ者ハ從來念納金ヲ徵シ本人身代限ヲ以テ取立ル等ノ處分モ有之處自今右處分ヲ廢止シ更ニ左ノ通區分相立處分致スヘシ此旨布告候事

第一條 徵收期限(每期ヲ云)ヲ過テ尙國稅ヲ上納セサル片ハ之ヲ賦課シタル財產ヲ公賣シテ徵收スヘシ若シ其財產他人へ賣買讓與シタル片ハ之ヲ買受讓受タル者ヨリ完納セシムヘシ(但賣入買入(地所買入)ハ其規則ニ從テ)ノ財產ニ米納稅アル片其債主ニ於テ辨納スルシテ申立ル者ハ其意ニ任ゼ公賣ヲ行ハス

第二條 營業稅ヲ上納セサル片ハ其營業ヲ停止ス其製造品アル者ハ之ヲ公賣シ次ニ其器物及酒類造石稅モ前項ニ依テ處分ス但酒類并酒造用諸器物ハ自他ノ所有テ間ハス現在品ノ一部又ハ全部ヲ公賣シテ徵收ス(十一年廿五號布告ニテ改正)

第三條 府縣稅民費モ此規則ニ準シテ處分スヘシ(但各別ニ財產ヲ指定メテ賦課稅セサル民費徵收ニ付テハ土地家屋ヲ除キ他ノ財產ニ付先取特權アリトス)

忘納金取立
區分

課稅處分不
服ニ付法新
土地欺隱者
罰則
買上地拂下
地等收稅除
稅ノ區分

第四條 凡租稅不納ニ付財產ヲ公賣セシムル片ハ地方官ニ於テ處分シ先ツ公賣ニ關スル入費ヲ引去リ而後國稅府縣稅民費ヲ徵シ剩餘アル片ハ之ヲ本人ニ還付ス若シ不足アル片國稅府縣稅官ノ損失ニ歸ス民費ハ該區ノ損失ニ歸ス(但該財產ニ付テ區戶長役所ノ帳簿ニ記載セザル債主アル片ハ其殘金ヲ順次其債主ニ給付ス)

第五條 (十四年十五號布告ニテ削除)

第六條 財產公賣ノ際買請望人無之節該財產ハ之ヲ官沒スヘシ(此條十二年十月追加)

此布告ニ矛盾スル布告布達ハ廢止トス

十五年五月御布告第二十二號

課稅ニ關スル處分ヲ就キ不服アリテ出訴セントスル者ハ先ツ其旨ヲ申立課額ヲ上納シ領收證書ヲ添ヘ其翌日ヨリ六十日內ニ訴出スヘシ

但納稅期限前ニ訴出テ訴訟中ト雖モ其期限ニ至レハ課額ヲ上納スヘシ

右奉勅旨布告候事

十五年七月御布告第三十四號

既稅ノメニ土地ヲ欺隱スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ租稅ヲ追徵ス但地租改正以前ニ遡ルコト得ス

其罪ヲ犯シ自首スル者ハ罰金ヲ免ス其追徵スヘキ租稅ハ仍ホ之ヲ納メシム

右奉勅旨布告候事

十年二月御布告第十八號

地租改正後買上地拂下地濱地等收稅區分左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條 民有地ヲ買上ル時其年分ノ稅ハ買上タル前日分迄月割ヲ以テ收入スヘシ

第二條 官有地ヲ拂下ル時其年分ノ稅ハ拂下タル翌月分ヨリ月割ヲ以テ收入スヘシ

○租稅

國役金廢止

正租五分ノ
一ノ民費

氏費賦課規
行期日

正租五分ノ
民費ノ解

國稅府課金
ノ区分

第三條 民有地ノ官ノ許可ヲ得テ川溝池道路堤塘敷其他漬シ地トナス時ハ工事着手ノ月ヨリ除稅スヘシ一旦着手スルモ若シ工事中止シテ六ヶ月ニ及ブモノハ工事ヲ施シテ其部分ヲ除キ其中止間ハ除稅ノ限ニアラス 但七ヶ月以上ニシテハ六ヶ月毎ニ其工程ヲ量リ除稅ノ區域ヲ定ムルモノトス (十五年七月第三十五號布告ニテ此條改正)

八年二月御布告第二十五號
舊幕府以來川々堤防費トシテ取立來候國役金ノ儀明治七年十二月三十一日限り廢止候條此旨布告候事

十年一月御布告第二號
今般地租減額費用節省被仰出候ニ付テハ明治六年七月第二百七十二號布告民費賦課ノ儀明治十年ヨリ正租五分ノ一ヨリ超過スヘカラス此旨布告候事

十年二月御布告第三十三號
本年一月第二號ヲ以テ民費賦課ノ儀布告候處右ハ會計年度ノ都合モ有之ニ付本年七月ヨリ施行候儀ト可相心得此旨布告候事

十一年三月內務省達乙第廿五號
十年一月第二號ヲ以テ民費ハ正租五分ノ一ヲ超過スヘカラス旨布告相成候處右ハ地租改正濟地價相定候土地ニ限候儀ト可相心得事

但改正未濟ノ土地ハ假定ノ租額ニ據リ五分ノ一賦課致シ其消費候民費ハ改正濟ニ至リ租額ニ照シ指引精算ニ及ハサル儀ニ候事

八年九月御布告第四百十號
從來ノ租稅賦金ヲ國稅府課稅ノ二款ニ分テ左ノ通處分候條此旨布告候事

國稅
全國一般ノ賦課スヘキ分ニシテ大藏省ニ收入シ國費ニ供スルモノト云

地方稅規則

府縣稅

現今賦金ト稱シ收入スル諸稅及本年二月第二十三號布告地方收稅ノ類ニシテ其地方ノ費用ニ供スルモノト云

但賦課ノ方法ハ地方官ニ於テ取調大藏省ノ許可ヲ得費途ノ方法ハ內務省ノ許可ヲ得テ施行スルモノトス

十三年四月八日御布告第十六號
明治十一年(七月)第十九號布告地方稅規則左ノ通改正候條此旨布告候事

第一條 地方稅ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス

一 地租五分一以內 一 營業稅并雜種稅 一 戶數割

第二條 營業稅雜種稅ノ種類ハ別段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ

○ 警察費 ○ 警察廳舍建築修繕費 ○ 土木費 ○ 區町村土木補助費 ○ 府縣會議諸費 ○ 衛生及病院費 ○ 教育費 ○ 區町村教育補助費 ○ 郡區廳舍建築修繕費 ○ 郡區吏員給料費及廳中諸費 ○ 教育費 ○ 浦役場及難波船諸費 ○ 諸達書及揭示諸費 ○ 勸業費 ○ 戶長以下給料及戶長職務取扱諸費 ○ 地方稅取扱費 (府縣廳ニ屬スル爲換給料爲換手數料現金遞送金等費用) ○ 府縣廳舍建築修繕費 ○ 府縣監獄費 ○ 府縣監獄建築修繕費 (以上費目中互ニ流用スルコトヲ許サス) ○ 豫備費 (豫算外ニ生シタル事件ノ費途ニ充ツヘキモノ)

右ノ外特ニ費目ノ增加ヲ要スルキハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ裁可ヲ受クヘシ (此費目十五年一月改正)

第四條 其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ一周年度トナシ府知事縣令ハ其年二月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算并地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ

○ 租稅

地方稅增減

議決ヲ取り其年五月ヲ以テ内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ

第五條 非常ノ費用ハ一豫算ニ立ツルヲ得サル天災時變ノ費用豫算費ヲ以テ給足セサルモノヲ云)別ニ賦課スルヲ得ルト雖モ其府縣會ノ議決ヲ取り内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ(此條以下ノ文字十四年二月五号布告ニテ削除)

第六條 地方稅徵收ノ期限ハ府知事縣令適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第七條 府知事縣令一周年度間ノ出納ヲ計查シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會議ノ初メニ於テ之ヲ府縣會ニ報告シ然ル後内務卿大藏卿ニ報告スヘシ(同上改正)

第八條 刪除(同上削除)

第九條 島嶼ノ地方稅ニ係ル經費ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀シ其裁定ヲ得テ本屬府縣ノ經費ト之ヲ分別スルヲ得

十三年十一月御布告第四十八號

今般歲計ヲ節約シ紙幣銷却ノ元資ヲ增加シ併セテ地方ノ政務ヲ改良スルノ要用ナルヲ察シ左ノ通制定布告候事

第一條 本年(四月)第十六號布告第一條地方稅目中「地租五分一以内」トアルヲ「地租三分一以内」ト改定ス ○第二條 同上布告第三條地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目中左ノ三項ヲ增加ス 一府縣廳舍建築修繕費 一府縣監獄費 一府縣監獄建築修繕費 ○第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ府縣土木(即チ河港道路堤防橋梁建築修繕)費中官費下渡金ハ來ル十四年度ヨリ廢止ス(第三條中刪除後葉ニ出ス)

十五年十二月御布告第六十九號

明治十三年(四月)第十六號布告地方稅規則中左ノ通追加改正ス

第三條二十項 一豫備費(豫算外ニ生シタル事件ノ費途及豫算ノ臨時不足ニ充ル者)

第四條二項 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事件數年ヲ期シテ施行スルモノハ初年ニ於テ其年

地方稅中追加

地方稅規則

地方稅規則

營業稅雜種稅規則

期間各年度ノ經費豫算ヲ定メ府縣會ノ議決ヲ取り府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀シ認可ヲ得テ其年期間之ヲ施行スルヲ得

第五條二項 前年度經費決算ノ場合ニ於テ已ムヲ得サル事故アリテ費目中不足ヲ生スルモノアルトキハ府知事縣令ハ府縣會ノ議決ヲ取り其補充費ヲ徵收スルヲ得

十一年十一月内務省達乙第七十二號

本年第十九號布告中左ノ條々處分力心得ノ爲メ相達候事

第三條 第十二項 戶長ニ附屬スル用掛筆生等手傳人等ヲ雇フキハ郡區長ノ許可ヲ得戶長ニ於テ申付ヘシ(但給料等ハ府知事縣令適宜決定スヘシ)

十一年十一月内務省達乙第七十九號

本年第十九號布告中左ノ條々處分方心得ノ爲メ相達候事

一 地方稅ヲ不納スルモノ十年第七十九號布告ニ據リ財產公賣徵收スルモ猶不足スル片ハ其欠額ハ管内一般損失トシ賦課スヘシ(租稅未納規則前ニ出ツ)

一 地方稅年度尾ニ至リ其一年度間ノ出納實費ニ就キ殘額アル片ハ之ヲ翌年度ニ繰越スヘシ若シ一年度間ノ出納實費ニ就キ不足ヲ生スル片ハ翌年度分ヲ以テ其欠ヲ補フヘシ

十三年四月八日御布告第十七號

明治十一年(十二月)第三十九號布告地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限左ノ通改正候條此旨布告候事

第一條 營業稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ但國稅アルモノハ課稅ノ限ニアラス

商業 工業

第二條 雜種稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ 料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店ノ類 湯屋 理髮人 傭人受宿 遊藝師匠遊藝稼人相撲俳優間藝妓ノ類 市場 演劇其他 興行遊覽所 遊技場(玉突大弓揚弓射的吹矢ノ類) 人寄席 船(舢舨船川船及五十

○租稅

附各業鑑札下

石未滿海船) 車(馬車人力車荷積馬車荷積大七六八車荷積中小車荷積牛車ノ類) 但國稅ノ額ヲ超過スヘカラス 水車 乘馬 屠畜 漁業採藻ノ類 但漁業採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其慣例ヲ改正シ又ハ新稅ヲ賦課セントスルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第三條 削除

第四條 府知事縣令ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第一條第二條類目中ニ於テ賦課スル者ヲ取捨スルコトヲ得

第五條 府知事縣令ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ視察シ府縣會ノ決議ヲ以テ各國ノ稅額ヲ査定スヘシ

第六條 削除

第七條 削除

第八條 第四條第五條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ報告スヘシ

第九條 第一條第二條課稅種類ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

(此營業稅雜稅規則中第一條第二條第三條第五條第六條第七條第九條ハ明治十二年四月內務省達乙第十七號
客年第三十九號公布中各業ノ者ヘ鑑札下附候儀ハ不苦ト雖ヒ鑑札料手数料等ハ收入不致儀ト可相心得此旨相達候事(但シ鑑札下附ノ費用ハ警察上ヨリ下附スルモノハ警察費ヨリ支辨シ收稅上ヨリ下附スルモノハ地方稅廳中費ヨリ支辨可致儀ト可相心得事
五年一月御布告第三號ニテ改正)

營業稅不納ノ處分

酒造稅則

十六年九月大藏省達第五十九號
諸營業免許ノ者納稅期限前旅行又ハ失踪シ右期限ヲ過キ歸籍セス税金不納ノモノハ明治十一年當省乙第七號達第六項ニ據リ處分スヘキノ處其財產ノ所在不分明ニシテ公賣處分ヲ爲シ能ハサルモノハ右期限後四十五日內ニ一旦勘定除却ノ義稟申シ他日本人歸籍又ハ所在發見シタルトキ毎期ニ係ル不納稅ヲ追徵候儀ト可相心得此旨相達候事 但當初勘定除却ノ後ヲ三ケ年ヲ經過シ尙完結セサルトキハ其際更ニ處分方稟申スヘシ
十三年九月御布告第四十號
今般酒造稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行シ從前ノ酒類稅則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告候事

第一章 免許鑑札 稅率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出酒造場一個所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ
一類釀造酒(清酒濁酒其他釀造シタルモノヲ云フ)
二類蒸溜酒(燒酎酒精再溜酒精其他蒸溜シタルモノヲ云フ)
三類再製酒(銘酒味淋白酒等釀造蒸溜ノ酒類ヲ調和シ又ハ之ヲ元トシテ製造シタルモノヲ云フ)

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及造石稅ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ
(酒造免許稅) 酒造場一個所ニ付金三十圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス
(酒類造石稅) 一類壹石ニ付金二圓 二類壹石ニ付金三圓 三類壹石ニ付金四圓

○租稅

第五條 刪除(十五年三月)

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ
第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシキハ其旨管廳ニ願出再度又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章 納税 造石検査

第八條 免許税ハ鑑札申受ケタル時之テ納ムヘシ

第九條 造石税ハ左ノ三期ニ納ムヘシ(十五年三月改正)

第一期 四月三十日限十月一日ヨリ二月中検査済石数ニ係ル税額ノ半数

第二期 七月三十一日限三月一日ヨリ六月中検査済石数ニ係ル税額ノ半数

第三期 九月三十日限七月一日ヨリ皆造検査済石数ニ係ル税額并前納額ノ殘數

第十條 造酒ノ石数ハ總テ管廳へ申出検査ヲ受クヘシ

第十一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ検査ヲ受ケ其造石税ヲ納ムヘシ

第十三條 検査未済ノ酒類へ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石税ハ總石数ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條 検査済ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製(第一章第二條中一類ノ酒ヲ二類ニ

二類ヲ三類ニ變製スル類)スル時ハ造石税ハ其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石数ニ係ル造石税ヲ納

メ更ニ變製ノ石数ニ就テ造石税ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳へ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ檢

査ヲ受クヘシ

第十六條 皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管廳へ申出検査ヲ受クヘシ

第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石数ニ應シ造石税ヲ納ムヘシ其製成

スルヲ得サル者及ヒ廢棄シタル者ハ其石数ニ係ル造石税ヲ免除ス

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許税ヲ納ムヘシト雖モ造石税ハ之ヲ免

除ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕込タル酒もト

其他仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ検査ヲ受クヘシ

第二十條 酒桶瓶類ハ新製修繕ヲ問ハス使用以前管廳へ申出其容量ノ検査ヲ受クヘシ

但賣買等ハ其時々管廳へ届出スヘシ

第三章 禁令 雜令

第二十一條 酢及ヒ酒もトヲ販賣スルヲ許サズ

但事故アリテ酒もトノ不用ニ屬シタルモノハ同業ノモノニ限り賣渡スハ此限ニアラ

ス(十五年三月此但書追加)

第二十二條 都テ他ノ依托ヲ受ケ酒類ヲ代造スルヲ許サズ

第二十三條 検査未済ノ酒類ヲ販賣シ又ハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サズ

第二十四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サズ

第二十五條 造酒(搾リ蒸溜)器械ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置き使用スルキハ其旨

申出開封ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトハ直ニ管廳へ届出再封ヲ請フヘシ

第二十六條 免許ヲ受ケタル者ハ其節管廳へ該一期造酒見込ノ種目石数並ニ其造り方法

共届出ヘシ 但種目變換並見込石数ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

○租税

第二十七條 酒造ニ属スル倉庫納屋並ニ諸器械共豫テ管應ヘ届出ヘシ増減ハ其時々届出

第二十八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載シ

第四章 罰令

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ没收シ免

許税額二倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ併

セ科スヘシ

但シ本文酒類並ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徴スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第廿九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタルモノハ

其鑑札ヲ取揚ケ免許税相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 造酒石數ノ檢査ヲ受ケスシテ賣捌キタル時ハ其代價ヲ追徴シ其酒類ノ石數

ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ科スヘシ

第三十二條 檢査ノ際酒類ヲ隠蔽シタル者ハ其酒類ヲ没收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造

石税三倍ノ金額ヲ科スヘシ(此條但書十五年三月刪除)

第三十三條 檢査未済ノ酒類ヲ自用ニ消費シタル者ハ其石數ニ係ル造石税ニ相當スル金

額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 前條々ニ明記スルモノ、外第三章中ノ正條ニ違犯スル者ハ一圓ヨリ少ナカ

附則

一酒造營業者ニアラスシテ自家飲料ノタメ酒類ヲ製造スルモノハ一ケ年一石(各種製造

スルトキハ其總數ヲ合算ス)ニ超ユヘカラス若シ一石ヲ超ルトキハ總テ本則ニ從フヘ

酒造稅則中
改正

十五年十二月御布告第六十一號

明治十三年(九月)第四十號布告酒造稅則左ノ通改正追加ス

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及造石稅ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ 酒造免許稅 酒

造場一箇所ニ付 金三十圓 酒類造石稅 一類壹石ニ付 金四圓 二類壹石ニ付 金五

圓 三類壹石ニ付 金六圓 ○第四條二項三項 酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限

以上ニアラザラハ免許セズ 清酒 百石 濁酒 拾石 一類(清酒濁酒ヲ除ク)二類三

類 五石 新ニ酒造營業ヲサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘ

シ ○第五條 酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ

辨セシム可シ ○第十條二項 廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管應ヘ申出檢

査ヲ受ケ現石數ニ付納稅スヘシ 但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許

ノ者其一箇所以上ヲ廢シ尙存セル酒造場ヘ其酒類ヲ移ス時ハ管應ヘ届出且製成ノ上檢査

ヲ受クヘシ ○第二十二條 他ノ依託ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ニ

酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒造場ヲ貸スヲ許サス ○第二十三條 檢査未済ノ酒類ヲ賣

捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス 檢査既済ノ酒類ヘ檢査未済ノ酒類

ヲ混和スルヲ許サス ○第三十一條 酒類石數ノ檢査ヲ受ケスシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與

讓與シタル者ハ其代價ヲ追徴シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス ○第三十二條 酒類ヲ隠蔽シタル者ハ

其酒類ヲ没收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ ○第三十四條

第十四條又ハ第二十條ノ届出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ壹圓

以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス ○第三十五條 第六條第二十五條第二十六條第二

十七條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス 第二十條ヲ犯シテ檢査ヲ受ケ

○租稅

サハ者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス ○第三十六條 第十條
 第二項第二十一條第二十二條第二十三條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰
 金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ 但第二十三條第
 二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス ○第三十七條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不倫罪及
 ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス
 ○第三十八條 酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其
 營業者ヲ處罰ス

酒造稅則附則

第一條 自家用料ノ酒類(飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ及ヒ其他ノ用ニ供スルモノ)ヲ製
 造スル者ハ管廳へ届出製造免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ム可シ ○第二條 免許
 ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス ○第三條 自家用料ノ酒類ハ一
 家内ニ於テ一期製造高壹石(二種以上製造スル者ハ其總石數ヲ合算ス)ヲ超ユルヲ得ス
 若シ之ヲ超ユル時ハ總テ本則ニ從フ可シ ○第四條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家
 ノ外ニ於テ之ヲ製造スルヲ得ス ○第五條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌
 クヲ得ス ○第六條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替
 改名轉居セシ時ハ管廳ニ申出再渡又ハ書換ヲ請フ可シ ○第七條 自家用料ノ酒類ヲ製
 造スル者ハ主任官隨時之ヲ檢査スヘシ ○第八條 第一條第三條第四條第五條ヲ犯シタ
 ル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌
 キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ ○第九條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及
 ヒ第三十八條ヲ適用ス

酒造稅則中
改正

十六年八月御布告第二十六號
 明治十三年(九月)第四拾號布告酒造稅則中左ノ通改正ス

酒造石高減
却ノ處分

酒類卸賣小
賣區別

飲食店酒類
鑑札

醸造ノ爲メ
醸造スル酒
類

第二十條 酒造用諸器械ハ使用以前管廳へ申出檢査ヲ受ケ其賣買讓渡貸借ハ其時々管廳
 へ届出ツ可シ 造酒着手後造石稅完納以前ニ於テハ管廳ノ許可ヲ得スシテ諸器械ヲ酒造
 場外へ移スコトヲ許サス 酒造用諸器械ヲ賣買讓渡貸與及所持主へ返却スルトキハ第九
 條ノ納期ニ拘ハラズ檢査濟ニ係ル造石稅ヲ完納スヘシ ○第三十四條 「又ハ第二十條」
 ノ六字ヲ削除ス ○第三十五條 第二項 第二十條一項ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以
 下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス

十六年十月大藏省達第六拾九號

酒造規則第四條第二項ニ據リ酒類製造免許ヲ受タル後非常ノ災害ニ罹リ酒類釀造元米諸
 器械ヲ減損スルノ類ニシテ實際止ヲ得サルノ事故アルモノヲ除クノ外徒ラニ種々ノ口實
 ヲ設ケ制限石高ヨリ減却セシモノハ翌年營業ノ免許ヲ與へサル儀モ可有之候條詳細其事
 由ヲ具シ見込相立稟議スヘシ此旨相達候事

十一年十二月大藏省達乙第六十七號

酒類受賣營業ノ者卸小賣ノ區分各府縣ニ於テ取扱方區々相成居候趣ニ相問候條爾後ハ酒
 類營業人ニ賣渡スモノヲ御賣トシ自用入ノミニ賣渡スモノヲ小賣ト相定メ可申此旨相達
 候事

十二年一月大藏省達乙第四號

明治十一年三月第八十一號公布中酒類受賣ノ儀ニ付同月當省乙第四十五號ヲ以テ飲食店
 等ニテ酒類ヲ買入レ置キ云々相達候處自今ハ來客ノ自ラ提携セルノ外酒類ヲ來客ニ供ス
 ル飲食店等ハ總テ酒類受賣鑑札爲相受可申此旨相達候事

十六年十二月御布告第四十二號

醸造營業者釀元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造稅則中第三條免許稅第四條第二項
 第三項ヲ除クノ外該稅則ニ準據スヘシ

○租稅

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ檢査未済ノ酒類ヲ以テ酢ヲ製造スルヲ許サズ犯ス者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收ス其已ニ賣捌キタル者ハ代價ヲ追徴ス

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘシ違フ者ハ壹圓以上壹圓九十五錢ノ科料ニ處ス

十三年九月御布告第四十一號

酒類營業稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

酒類營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 凡ソ酒類(釀造酒類ノモト)ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管轄廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

酒類營業稅 金五十圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受ケルモ營業稅ハ直ニ管轄廳ヘ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管轄廳ヘ届出スヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數並ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管轄廳ヘ差出シ檢査ヲ受ケヘシ

酒類及ヒ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

(此項十五年十二月第六十二號布告ニテ追加)

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ書換テ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居ヒシ時ハ管轄廳ニ願出再渡又ハ書換テ請フヘシ

○租稅

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ酒類賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令 罰令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サズ

第十條 免許鑑札ヲ受ケス酒類營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徴スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數並ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ忘ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ一圓ヨリ少ナカラズ五十圓ヨリ多カラサル金額ヲ徴スヘシ

(以下各條十五年十二月第六十二號布告ニテ改正)

第十二條 酒類營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣酒類受賣酢造營業ヲ爲シ又ハ酒類(酒類ヲ除ク)ヲ製造スルヲ許サズ

第十三條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ

第十四條 此規則ヲ犯シタル者ハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒ

第十五條 酒類營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

十五年十二月御布告第六十三號

明治八年(十月)第百五拾號布告烟草稅則別紙之通改定シ來十六年七月一日ヨリ施行ス

但明治十年(二月)第十四號布告第一項ハ廢止ス 右奉勅旨布告候事

烟草稅則

第一章 烟草營業

第一條 烟草營業者ヲ分テ左ノ三種トス 烟草製造人 烟草仲買人 烟草小賣人 ○第一條 刻烟草又ハ卷烟草等ヲ製造スル者ヲ烟草製造人トス但賃錢ヲ受ケテ他ノ製造人ノ烟草ヲ製造スル者ハ此限ニ在ラス ○第三條 未製造ノ烟草ヲ買入レ之ヲ製造人又ハ同業者へ賣渡シ及製造烟草ヲ買入レ之ヲ小賣人又ハ同業者へ賣渡ス者ヲ烟草仲買人トス ○第四條 製造烟草ヲ自用者へ賣捌ク者ヲ烟草小賣人トス

第二章 營業鑑札

第五條 烟草營業者ハ管轄廳へ願出營業鑑札ヲ受ク可シ但製造仲買及小賣ヲ兼業スル者ハ各其營業鑑札ヲ受ク可シ ○第六條 烟草營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲ストキハ管轄廳ニ願出仕入又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帶ス可シ ○第七條 烟草營業者ハ鑑札ヲ受クルトキ左ノ通鑑札料ヲ納ム可シ 烟草營業鑑札料 壹枚ニ付金二拾錢 烟草仕入鑑札料 壹枚ニ付金拾錢 烟草出賣鑑札料 壹枚ニ付金拾錢 ○第八條 鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セシトキハ之ヲ管轄廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フ可シ但前條ノ通鑑札料ヲ納ム可シ ○第九條 營業人廢業スルトキハ管轄廳へ届出鑑札ヲ還納ス可シ ○第十條 鑑札ハ貸借賣買及讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三章 營業稅

第十一條 烟草營業者ハ左ノ通營業稅ヲ納ム可シ但兼業スル者ハ各其營業稅ヲ納ム可シ 烟草製造營業稅 壹個年金拾五圓 烟草仲買營業稅 壹個年金拾五圓 烟草小賣營業稅 壹個年金五圓 ○第十二條 烟草營業稅ハ年々兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限管轄廳ニ納ム可シ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受ル節其半年分ノ營業稅ヲ納ム可シ

第四章 印稅

第十三條 烟草製造人刻烟草ヲ製造スルトキハ左ノ量目ニ從ヒ玉造紙包又ハ箱詰ニ裝置

シ相當ノ印紙ヲ用フ可シ

量目	印稅 卸賣定價百匁ニ付	同 卸賣定價百匁ニ付二十五錢以上五十錢未滿ノ分	同 卸賣定價百匁ニ付五十錢以上ノ分
五匁	二厘	三厘	四厘
十匁	四厘	六厘	八厘
十五匁	六厘	九厘	一錢二厘
二十匁	八厘	一錢二厘	一錢六厘
三十匁	一錢二厘	一錢八厘	二錢四厘
五十匁	二錢	三錢	四錢
百匁	四錢	六錢	八錢

第十四條 刻烟草ヲ玉造ニ爲ストキハ帶印紙ヲ以テ結束シ其封緘ノ箇所及印紙ノ彩紋ヘカケ製造人ノ印章ヲ以テ消印シ箱詰又ハ紙包ハ封緘ノ要部ニ印紙ヲ貼用シ製造人ノ印章ヲ以テ之ニ消印ス可シ ○第十五條 刻烟草ヲ五匁以下册シ賣ニ爲ストキハ帶印紙ノ外他ノ紙類ヲ以テ之ヲ結束スルトコトヲ得ス ○第十七條 外國へ輸出スル烟草ニ限リ輸出ノ節稅關ニ於テ戻稅トシテ印稅相當ノ金額ヲ輸出人へ下付ス可シ ○第十八條 烟草印紙ノ種類價格左ノ如シ

○租稅

帶印紙 黑色	一枚	二厘	同 淡赭色	同	三厘	同 黃色	同	四厘
同 赭色	同	六厘	同 萌黃色	同	八厘	同 淡青色	同	九厘
同 茶褐色	同	一錢二厘	同 淡紅色	同	一錢六厘	同 粘梗色	同	一錢八厘
同 橙黃色	同	二錢	同 老綠色	同	二錢四厘	同 濃青色	同	三錢
同 黃綠色	同	四錢	同 紫色	同	六錢	同 赤色	同	八錢

第十九條 烟草印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ得ス ○第二十條 印紙貼用ノ細則ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第五章 雜則

第二十一條 刻烟草ハ每個必ラス製造人ノ氏名住所ヲ附記スヘシ ○第二十二條 烟草營業者ハ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ所持スルコトヲ得ス仕入出賣ヲ爲ス者モ亦同シ
○第二十三條 烟草營業者ハ左ノ帳簿ヲ調製ス可シ其記載方ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ 烟草製造帳 烟草仲買帳 烟草買入帳 烟草賣渡帳 烟草小賣帳 烟草買入帳
○第二十四條 烟草營業者ハ管轄廳ニ願出印紙買入鑑札ヲ受ケ印紙買入ヲ爲ス毎ニ其鑑札ヲ携帶シ印紙賣捌人ニ示ス可シ ○第二十五條 印紙賣捌人ハ印紙買受人ノ鑑札ヲ照査シテ其賣渡高及ヒ買受人ノ氏名住所賣渡ノ年月日ヲ帳簿ニ登記ス可シ ○第二十六條 烟草營業者ハ烟草印紙ノ買受高其買入場所及使用高ヲ帳簿ニ登記ス可シ ○第二十七條 烟草營業者ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ烟草買入高賣捌高ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出ツ可シ ○第二十八條 印紙賣捌人ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ印紙賣捌高並買受人ノ氏名住所ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出ツ可シ ○第二十九條 烟草營業者ハ營業ノ標札ヲ戶外ニ掲出ス可シ但書式ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ ○第三十條 印紙買入鑑札ハ貸借賣買及讓渡ヲ爲スコトヲ得ス ○第三十一條 未製造ノ烟草ハ烟草營業者ニアラサル者ニ賣渡スコトヲ得ス

第六章 檢査

第三十二條 烟草營業者ノ帳簿及其所持ノ烟草ハ主任官隨時之ヲ檢査スヘシ ○第三十三條 檢査官吏ハ檢査ノ時官ノ印章ヲ携帶シ營業者ノ求ニ應ジテ之ヲ示ス可シ

第七章 罰則

第三十四條 營業鑑札ヲ受ケスシテ烟草營業ヲ爲ス者ハ營業稅違賦ニ係ル金高三倍ノ罰

金ニ處シ仍ホ現在ノ烟草ヲ沒収シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス ○第三十五條 烟草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ所持シ又ハ賣渡シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其賣渡代價ヲ追徴ス之ヲ貸與讓與シタル者モ同シ其罪ヲ論ス
○第三十六條 帳簿ノ登記ヲ詐テ脫稅ヲ謀リ若クハ脫稅ノ便ヲ與ヘタル者又ハ屆書ニ詐僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス ○第三十七條 烟草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ買受ケタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス之ヲ借受讓受ケタル者モ同シ其罪ヲ論ス ○第三十八條 第六條第十四條第十五條第二十一條第二十四條ニ違犯シタル者及第二十三條ニ違犯シテ帳簿ノ調製ヲ怠ル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル烟草ハ之ヲ沒収シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス ○第三十九條 管轄廳ノ許可ヲ得スシテ印紙ヲ發賣スル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其印紙ヲ沒収ス之ヲ買受ケタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス ○第四十條 未製造ノ烟草ヲ烟草營業者ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス ○第四十一條 第十三條ノ烟草裝置區分ニ違フ者ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス ○第四十二條 印紙買入鑑札ヲ賣買貸借又ハ讓受讓渡シタル者及第二十五條第二十六條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス ○第四十三條 烟草自用者ニシテ未製造ノ烟草又ハ無印紙ノ刻烟草ヲ買受ケタル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス ○第四十四條 第八條第九條第二十七條第二十八條ノ届出ヲ怠リタル者及第二十九條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス ○第四十五條 第二十條第二十三條第二十九條ニ依リ定メタル布達ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス ○第四十六條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス ○第四十七條 烟草營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○租稅

十六年十二月御布告第四拾壹號
明治十五年(十二月)第六十三號布告烟草稅則中左ノ通追加ス
第十三條

- 三十匁ノ次〜 一錢六厘
- 四十匁 一錢四厘
- 五十匁ノ次〜 三錢二厘
- 八十匁 三錢二厘
- 四錢八厘
- 六錢四厘

- 第十八條
- 同濃青色ノ次〜
- 同淡黑色 同三錢二厘
- 同淡黑色ノ次〜
- 同嬌栗色 同四錢八厘
- 同紫色ノ次〜
- 同朱色 同六錢四厘

十年二月御布告第十四號
一製造烟草ノ儀ハ自用ノ人ハ賣渡ス節印紙貼用可致成規ニ有之候處爾來自用ノ購求ニ宛テ候製造烟草ハ前以テ印紙貼用致シ可置尤臨時官員派出調査候儀可有之事
一證券印稅規則中賣買品ニ關スル證書類ハ諸帳簿調査ノ振合ニ準シ官員巡回調査候儀可有之事(但第一項ハ改定烟草規則發行ニ付消滅ス)
右布告候事

八年(二月)御布告第二十七號
明治六年(二月)第三十一號布告候馬車人力車駕籠乘馬遊船諸稅規則昨七年十二月三十

一日限り相慮シ尤遊船ノ儀ハ本年一月一日ヨリ昨七年(二月)第二十一號布告船海并海川小廻船等船稅規則ニ照準收稅シ車類ノ儀ハ改テ車稅規則左ノ通相定同月同日ヨリ施行候條此旨布告候事

車稅規則

- 第一則 馬車二匹立以上 一箇年稅金三圓 同一人乘
- 同 一匹立 一箇年稅金貳圓 牛車
- 荷積馬車 一箇年稅金壹圓 荷積大八六七車
- 人力車二人乘 一箇年稅金貳圓 荷積中小車(但大六以下) 一箇年稅金五拾錢
- 第二則 新調ノ車ハ總テ其區戶長へ届出檢印可申受事
- 但從來所持ノ分ニテ檢印無之牛馬荷積車等ハ更ニ檢印可申受事
- 第三則 新調ノモノハ六月以前ハ前年分七月以後ハ半年分納稅シ破解ノ者ハ七月以後ハ前年分六月以前ハ半年分納稅候儀ト可相心得事
- 第四則 右稅金上納ハ年々兩度ニ區別シ半箇年宛區戶長へ取集メ其管轄處へ可相納事
- 但前半年分ハ其年七月卅一日限り後半年分ハ翌年一月卅一日限り其管轄處へ可相納事
- 第五則 荷積車等ノ内耕作一途ニ相用候分ハ免稅タルヘキ事
- 第六則 諸車數無届ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其脫稅高ノ五倍科料タルヘキ事
- 十一年二月御布告第四號
- 船車賣藥牛馬賣買等稅金納期左ノ通明治十一年ヨリ施行候條此旨布告候事
- 一船(商船船等)車、賣藥、牛車賣買等ノ稅金前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限其管轄處へ可相納事
- 但船稅ノ内新規合船六月以前ニ係ル者ハ一年分七月以後ハ半年分解船破船六月以前

○租稅

農車々稅免
 除
 船車修繕七
 シトキ稅金
 徵收方
 自轉車課稅
 廢止
 人力車ノ區
 別
 同上十五年
 稅一月ヨリ課
 稅
 船稅規則

ニ係ル者ハ半年分七月以後ハ一年分納稅スヘキ事
 八年三月大藏省乙第四十號達
 本年第二十七號公布車稅規則中第五則荷積車ノ内耕作一途ニ相用候車類ハ車稅免除ノ檢
 印(免稅)ヲ爲取締一車毎ニ燒記候上免稅致シ候儀ト可相心得此旨相達候事
 十三年六月大藏省乙第二十三號達
 船(商船船漁船)車等へ修繕ヲ加ヘ爲ニ稅額ニ増減ヲ生シタル片ハ新調ト認メ更ニ該期
 ヨリ相當ノ稅金徵收候儀ト可相心得此旨相達候事
 十六年八月大藏省達第五十四號
 明治十三年當省乙第三十五號達(自轉車課稅)自今廢止ス
 十四年九月大藏省乙第三十二號達
 八年第二十七號公布車稅規則中人力車ノ儀橫巾内法曲尺二尺未滿ヲ以テ壹人乗トシ右以
 上ヲ以テ二人乗ト相定區別可致此旨相達候事
 十四年十一月大藏省乙第四十二號達
 本年九月乙第三十二號ヲ以テ人力車壹人乗二人乘區別ノ儀相達候ニ付テハ更正ニヨリ稅
 金ニ増減ヲ生スルモ既納ノ分ニ限り其儘据置明治十五年一月ヨリ更正稅金徵收候儀ト可
 心得此旨相達候事
 十六年四月御布告第十三號
 船稅規則別冊ノ通制定シ明治十六年七月一日ヨリ施行ス 右奉 勅旨布告候事

船稅規則

第一章 鑑札 稅率 免稅

第一條 凡ソ船舶ハ此規則ニ依リ課稅スルモノトス ○第二條 船舶所有主ハ其定繫場
 ヲ定メ定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ヲ乞フ可シ ○第三條 新規造船シタ

ル者其造船場所在ノ府縣管内ニ定繫場ヲ定メサル時ハ該廳ニ願出檢査ヲ受ケ假鑑札ヲ乞
 ヒ定繫場ニ回漕ノ上其地方廳ニ願出本鑑札ト引換ヲ乞フヘシ ○第四條 船體ヲ變更シ
 積量若クハ間數ニ増減ヲ生スル時ハ其定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ノ引換
 ヲ乞フヘシ ○第五條 船舶ヲ賣買讓與シタル者ハ双方連署ノ上買受讓受主ノ定ムル定
 繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ引換ヲ乞フ可シ ○第六條 船舶ノ稅率ハ左ノ如シ
 西洋形蒸氣船 百噸ニ付一年金拾五圓
 同 風帆船 同 金拾圓
 同 日本形船積石五拾石以上 同 金拾圓
 同積石五十石未滿船小廻船(積石ニ拘ラス) 長 自軸梁 三間迄ハ一年金三拾錢
 但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金拾五錢ヲ增加ス 至 自軸梁 三間迄ハ一年金五拾錢
 遊船 但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金二拾五錢ヲ增加ス
 第七條 本鑑札又ハ假鑑札ハ航行若クハ回漕ノ時之ヲ本船ニ所持スヘシ 但日本形積石
 五拾石未滿ノ船並舢舨船小廻船遊船ノ本鑑札ハ其船ニ釘付スヘシ ○第八條 解船破船
 又ハ水火盜難等ニ因リ船舶ヲ失ヒタル者ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ届出鑑札ヲ還納ス
 ヘシ ○第九條 鑑札ヲ亡失毀損シタル時或ハ改名代替ノ時或ハ船ヲ改メ若クハ定繫
 場ヲ變換シタル時ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ再渡若クハ引換ヲ乞フヘシ
 ○第十條 左ニ掲クル船舶ハ其稅ヲ免除ス其所有主ハ地方廳ニ届出免稅ノ簿印ヲ乞フヘ
 シ 倉庫船 水田ノ耕作ニ用フル船 水災ノ爲メ陸地ニ備ヘ置ク船 橋梁ニ換ヘ渡場ノ
 ミニ用フル船 船橋ノ組成ニ用フル船 航海中本船ニ掲ケ置ク傳馬船「ハツテ」ノ船
 ノ類

第二章 納稅

○租稅

第十一條 税金ハ一年ヲ二期ニ分チ一月一日七月一日現在ノ船舶ヨリ徴収スル者トス其
前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ定繫場所在ノ地方廳ニ上納ス
ヘシ ○第十二條 新規造船シタル者ハ鑑札ヲ受ケル時該期ニ係ル税金ヲ上納スヘシ
○第十三條 船体ヲ變更シ積量若シハ間敷ニ増減ヲ生シタル時ハ次期ヨリ其積量又ハ間
敷ニ隨ヒ税金ヲ納ム可シ ○第十四條 他管下ニ定繫場ヲ定ムル者ハ該地ニ代人ヲ定メ
連署ノ上其定繫場所在ノ地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシム可シ ○第十五條 本籍管内ニ定
繫場ヲ定メタル者ハ不在ノ時ハ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシム可シ ○第十
六條 假鑑札ヲ受ケタル船舶定繫場ニ回漕中納稅期限ニ係ル時ハ豫メ定繫場所在ノ地ニ
代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシム可シ ○第十七條 此規則ヲ犯シ脱稅ニ係ル
者ハ處罰ノ後其税金ヲ追徴ス

第三章 罰則

第十八條 此規則ヲ犯シ脱稅ニ係ル者ハ其脱稅高五倍ノ料若シハ罰金ニ處ス ○第二十
九條 免稅船舶ヲ有稅船舶ノ用ニ充テタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス ○第二十
條 第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及第十條ノ免稅
船ニ烙印ヲ受ケタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ料料ニ處ス ○第二十一條 此規
則ニ依リ罰金若シハ料料ニ處スル者ハ刑法ノ不罰罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用
ヒス但刑法第七十五條第七十六條ノ場合ハ此限ニアラス
十年(八月)御布告第五十六號

明治八年(二月)第拾四號布告北海道諸產物出港規則并各港船政所規則別冊之通改正本年
九月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

○第一條 北海道諸產物出港規則并各港船政所規則
鐵屬穀類酒類麻卵紙生糸器具ヲ除ク各府縣ニ輸送ノ節ハ官

北海道諸
產物出港
規則并各
港船政所
規則

私用(陸海軍用品ヲ除ク)ノ別ナク出港稅トシテ其原價百分ノ四ヲ貨主ヨリ下條ニ掲載
スル一ノ船政所ニ納ムヘシ(但本文ノ税金ハ船長ニ於テ取繼テ外國船ヲ以輸送ノ節ハ貨
主納人ノ手續ヲ爲スヘシ)

○第二條 船政所有之各港(十三年七月同年十一月十四年十二月改正)
渡島國龜田郡函館港 同國松前郡福山港 同國檜山郡江差港 膽振國室蘭郡室蘭港
後志國小樽郡小樽港 同國壽都郡壽都港 釧路國厚岸郡厚岸港
左ノ拾壹ヶ所ニ於テ毎年五月ヨリ十月マテノ間船政派出所ヲ置キ船政所同條ノ事務ヲ
取扱フヘシ

渡島國福島郡吉岡 同國上磯郡石別 同國松前郡江良町 同國爾志郡熊切
後志國古平郡古平 同國若內郡若內 石狩國石狩郡石狩 日高國浦河郡浦河
釧路國厚岸郡厚岸 千島國振別郡振別 天鹽國増毛郡増毛

○第三條 諸產物ノ原價ハ右各港ニ於テ毎月上中下旬三度賣買相場ヲ蒐集シ之ヲ査定ス
ヘシ(但相場詳ナラサル物品ハ賣買仕切狀ヲ檢査シテ之ヲ定ムヘシ) ○第四條 諸船舶各
府縣下ヨリ北海道へ入船スルルハ船稅鑑札ヲ添へ第一號書式ノ通其港津船政
所或ハ地方役所(又ハ區戶長役場以下同シ)へ速ニ届出ヘシ(但北海道產物ニ類似ノ物品
ヲ青森秋田兩縣下等ヨリ廻漕スルルハ其品名數量ヲ詳記シタル仕出場ノ送狀或ハ賣買仕
切狀ヲ添届出ヘシ) ○第五條 北海道各港津ヲ回漕スル諸船舶ハ出帆ノ節甲港船政所或
ハ地方役所へ申出改所役所ニ於テハ第二號書式ニ法リタル檢印帳ヲ附與シテ回漕セシム
ヘシ其船乙港へ入津セハ乙ノ船政所或ハ役所へ速ニ檢印帳ヲ納メ置キ出帆ノ節乙港ノ檢
印ヲ乞フテ携帶スヘシ(丙丁港ノ出入モ亦之ニ準ス)但回漕數月ニ渉ル船モ該年中ハ一
ノ檢印帳ヲ用ヒシノ翌年ハ更ニ之ヲ付與スヘシ ○第六條 諸船舶北海道内ヨリ各府縣へ
向ケ回漕ノ節ハ第二條ニ掲ケル各港ノ内何レカ一港へ入船シテ其船政所へ檢印帳ヲ還納

○租稅

第三號甲ノ書式ニ法リタル出港稅納目錄式通テ差出シ產物積載セサル節ハ第四號甲ノ書式ノ出帆屆式通テ差出スヘシ改所ニ於テハ審查ノ上產物積載セサルハ定則ノ稅金ヲ領收シ第三號乙ノ書式ニ法リ產物積載セサルハ第四號乙ノ書式ニ法リ與書シテ壹通ハ留置キ一通テ下附シテ出帆差許スヘシ(但許可ヲ得タル後都合ニ依リ三日以内ニ出帆セサル船ハ更ニ其旨ヲ届ケ出ツヘシ)○第七條 船改所ナキ地方ヨリ產物積取直ニ各府縣へ輪送セント欲スルモノハ其積受ノ地へ航行ノ節第二條ニ掲ケル各港ノ内何レカ一港へ入津シ豫メ其積取ルヘキ產物ノ高ヲ計算シ第三號甲ノ書式ニ法リタル出帆稅前納目錄式通テ差出シ船改所ニ於テハ前納目錄ノ高ニ從ヒ定則ノ稅金ヲ領收シ同號乙ノ書式ニ法リ與書シテ壹通ハ留置キ壹通テ下附シテ直屬差許スヘシ(但本條許可ヲ得テ其他ニ到リ產物積取ノ節ハ其地方役所ニ申立檢査ヲ受クヘシ役所ニ於テハ出港稅前納目錄ニ照樣シテ之ヲ檢査シ若シ產物不足ノ節ハ其由ヲ詳記セル書面ヲ右目錄ニ添ヘテ船長へ下附シ船長之ヲ翌年七月迄ニ發キニ納稅ノ船改所へ差出スニ於テハ過納ノ金額下戻スヘシ)○第八條 出港稅納濟ノ諸產物都合ニ依リ第二條ニ掲ケル各港ノ内へ揚陸スルハ該港船改所へ願出ヘシ改所ニ於テハ現品審查ノ上納稅濟ノ目錄ヲ引上ケ稅金下戻スヘシ(但出港稅ヲ収納シタル港内ニ於テ難破ノ災ニ罹リ稅納濟ノ產物流沒シタル分ハ實際檢査ノ上稅金下戻スヘシ)○第九條 各港船改所及役所ハ休日ヲ除クノ外毎日午前九時ヨリ午後四時迄船舶出入ノ事務取扱フヘシ尤諸貨物船積卸ハ日出ヨリ日沒迄ヲ限リトス(但臨時出入港ノ手數ヲ請ヒ或ハ時限外ニ貨物ヲ積卸セント欲スルモノハ其事由ヲ具シ船改所或ハ役所へ願出ヘシ)○第十條 諸船舶出港稅未納或ハ稅納目錄外ノ產物ヲ竊ニ積載府縣へ輸送セント謀リ又ハ府縣下ニ於テ陸揚スルモノハ科料トシ船長ヨリ其物品原價(其發露スル地方賣買ノ價格ヲ以テコレヲ定ム)拾分ノ貳及出港稅ヲ徵收スヘシ○第十一條 各港船改所及役所ニ於テハ每船ノ出入ヲ審查シ若シ此規則ニ循ハサルモノアリテ其踪跡詳

鳥獸獵規則

ナテサル時ハ開拓使ヨリ直ニ其船主ノ本管廳へ通報シ本管廳ニ於テハ出港稅及科料ヲ徵收シ其事由ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ同使館支廳へ送附スヘシ(但北海道回漕中暴風雨等ノ難ニ罹リ止テ得スシテ直ニ府縣下へ入船スルモノハ本條ノ限ニアラサル故其事由ヲ具シ檢印帳ヲ添ヘ速ニ其地方廳へ届出ヘシ地方廳ハ事實篤ト取札ノ上疑ナキニ於テハ其現存スル物品ノ出港稅(原價ハ其入船シタル地方賣買ノ價格ヨリ其運賃ヲ除キ之ヲ定ム)ヲ徵收シテ本文同様送附スヘシ)○第十二條 出入稅ノ届及檢査帳ノ納受ヲ等閑ニスルモノ或ハ許可ヲ得ズシテ時限外ニ荷物ヲ積卸シタルモノハ左ノ算則ニ從ヒ船長ヨリ科料ヲ徵收スヘシ

日本形船	五拾石マテ	金拾五錢	(五拾壹石以上拾石コトニ壹錢ヲ加フ)
外國形漁船	三拾噸マテ	金五拾錢	(三拾壹噸以上拾噸コトニ拾五錢ヲ加フ)
同 風帆船	三拾噸マテ	金三拾錢	(三拾壹噸以上拾噸コトニ拾錢ヲ加フ)

○第十三條 總テ犯則ノ者テ他ヨリ訴出ル時ハ犯人科料ノ半額ヲ賞トシテ與フヘシ(書式零之)

十年(一月)御布告第十一號
鳥獸獵規則別紙ノ通改正候條此旨布告候事 (十四年四十三號ニテ內務省テ)
農商務省ト改正

○第一條 小銃ヲ用テ鳥獸ヲ獵シ生業トスル者ヲ職獵トシ遊樂ノタメニスルヲ遊獵トス
○第二條 銃獵免許ナキモノハ總テ銃獵スルヲ禁ス但シ有害ノ鳥獸ヲ除クタメニハ地方官ノ便宜ヲ以テ臨時ノ免許ヲ與フヘシ○第三條 銃獵免許ヲ得ント欲スル者ハ願書ニ族籍職分住所姓名年齢ヲ詳記シ東京府下ニ於テハ農商務省其他ハ該地方官廳へ差出スヘシ
○第四條 免狀ハ其効一期限ニ止ルモノトス免狀ハ貸借シ賣買シ若シハ授與スルヲ禁
○第五條 免狀ヲ願受ル者ハ左ノ通免許稅ヲ納ムヘシ

○租稅

職獵稅 金壹圓 遊獵稅 金拾圓

○第六條 水火盜難其他ノ事故ニヨリ免狀ヲ毀失スル時ハ速カニ東京府下ニ於テハ警視廳其他ハ該地方官廳ニ届出ヘシ再ヒ免狀ヲ願受ル者ハ更ニ税金ヲ納ムルニ及ハスト雖モ手數料トシテ金貳拾五錢ヲ納ムヘシ○第七條 左ニ列記シタル者ニハ免狀付與セサルヘシ○拾六歳未滿ノ者○白痴瘋癲等ノ者○故ナク弓箭銃砲ヲ發ツノ刑ヲ受ケシ者

○第八條 左ニ列記シタル場所ニ於テハ銃獵ヲナスヲ禁ス
○都府市街ハ勿論衆人群集ノ場所○銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ場所○禁獵制札ノ場所但シ制札ハ獵銃武挺ヲ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置クヘシ○作物植付ケアル田畑内或ハ社寺人家等ノ構内但該主又ハ管守人許諾ヲ得タル者ハ此限ニ非ス

○第九條 獵銃ハ和銃玉目四匁八分以下并ニ西洋獵銃ニ限ルヘシ軍銃ヲ用フルヲ禁ス但開拓使管内ニ限リ和銃玉目拾匁以下ヲ用フルヲ得ヘシ○第十條 銃獵期限ハ十月十五日ヨリ四月十五日迄ヲ以テ一期トス是時限ノ外ハ銃獵ヲ禁ス(但地方ノ景況ニヨリ已ムヲ得ス此期限ヲ伸縮スル時ハ其理由ヲ農商務省ヘ届出ヘシ)○第十一條 日没ヨリ日出迄ノ時限ハ銃獵ヲ禁ス○第十二條 凡ソ出獵スル者ハ必ス其免狀ヲ携帯スヘシ出獵中警察官吏區戸長村役人等免狀ヲ看ント請フ者アル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ○第十三條 地主其所有地内ニ於テ他人ノ銃獵スルヲ有害トスル時ハ第八條所示ノ如キ制札ヲ建テ其周圍ニ繩張又ハ假圍ヲナスヘシ○第十四條 凡ソ一期内再犯以上ノ者ハ其罰金ヲ倍科スヘシ○第十五條 銃獵ヲ生業トスル者ニアラスシテ職獵ノ免狀ヲ受ケ遊獵スル者ハ五拾圓ノ罰金ヲ科シ免狀取上ケ其期内銃獵ヲ禁スヘシ○第十六條 總テ犯則ノ者ヲ他ヨリ証跡ヲ取リ訴出ル時ハ犯人罰金ノ半ヲ賞トシ與フヘシ○第十七條 第十四條第十五條ノ外此諸規則ヲ犯ス者ハ三圓ヨリ少ナカラス貳拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ○第十八條 開

區戸長等職獵ノ禁

則證券印稅規

拓使管内ニ入り鹿獵ヲ爲ス者ハ該使施行ノ規則ニ從フヘシ
十年一月内務省達乙第三號

區戸長ト雖モ奉職中職獵ノ儀不相成候條爲心得此旨相違候事
但神官教導職郵便取扱役學區取締等都テ職務有之者本條ノ通可相心得事
七年(七月)御布告第八十一號

明治(六年)二月第五十六號以下追々及布告候證券印紙規則總テ相廢シ更ニ別冊ノ通相定メ本年九月一日ヨリ施行候條此旨布告候事
但諸帳簿規則ハ來ル明治八年一月一日ヨリ施行候儀ト可相心得事

證券印稅規則

第一則 綱領

○第一條 凡ソ人民財産ノ受授并ニ交際上相用候證書帳簿類ハ都テ此規則ノ通證券(印紙)(界紙)ヲ相用フヘキ事○第二條 總テ規則ノ通證券(印紙)(界紙)ヲ用ヒサル者ハ後日如何弊ノ故障差起出訴ニ及ヒ候共其書類ハ一切取揚ケ裁判不相成候事○第三條 證券(印紙)(界紙)ハ買取差支無之様各府縣管下適宜ノ場所ヘ賣捌所相設置候條下條ニ掲載セル定價ヲ以買取ルヘキ事○第四條 賣捌所ハ證券印紙賣捌所ト大書シ官ノ燒印アル看板ヲ掲クル家ニ限ルヘシ其外ニ於テハ一切賣買禁示ノ事

- 第五條 印紙ノ種類定價左ノ通候事
 - 淡黑色印紙 定價壹錢
 - 薄赭色全 同五錢
 - 青色全 同拾錢
 - 大判界紙 定價七厘
- 第六條 證券界紙ノ定價左ノ通候事
 - 淡黄色全 同廿五錢
 - 淡黄色全 同五拾錢
 - 紅色全 同壹圓
 - 中判界紙 同五厘
 - 小判界紙 同三厘

○租稅

右ノ界紙ハ大中小判ノ三種アリト雖モ其證書ノ文義長短ニ因リ便宜ニ任セ何種ヲ相用フルモ適宜タルヘキ事

第二則 諸證書

○第一條 諸證書ヲ分テ三類トス

第一類諸證書

一賣品并職業ニ關スル金錢受取書

右ノ受取書ハ金高拾圓以上總テ壹錢ノ印稅拾圓未滿ハ印紙界紙ヲ用フルニ及ハス

一預リ金(證文)(手形)

一耕地小作證文 一遺金證文

右證書類ハ金高拾圓以上ハ總テ一錢ノ印稅拾圓未滿ハ界紙ヲ用フヘシ

一質物(預リ書)(小札)

右ノ證書ハ金高拾圓以上ハ壹錢ノ印稅拾圓未滿ハ印紙界紙ヲ用ルコト及ハス

一諸會社株手形 一荷物送り狀

一荷物預リ證書 一(地所)(建家)讓與證書

一物品讓與證書 一公債證書讓與證書 一跡式讓狀

右ノ證書類ハ金高ニ拘ハラズ總テ一錢ノ印稅

一預リ米(證文)(手形) 一預リ雜穀(證文)(手形)

右ノ證書ハ(米高五石)(雜穀高拾石)以上ハ總テ壹錢ノ印稅(米高五石)(雜穀高拾石)未滿ハ界紙ヲ用フヘシ

第二類諸證書

一借用金證文

一預リ金(證文)(手形)但使チ爲サ、ルノ明文無之分

一地所并建家賣渡證文

一(地所)并建家(質入)(書入)證文 一公債證書類賣買證文

一諸品(質入)(書入)證文

一諸請負證文 一金錢約定證文 一金錢約定爲取換證文

一米穀并諸品賣買約定證文

一米借用證文 一借家證文 一金拾圓以上記載雇入請狀

○租稅

一諸賣買證據金預リ手形 一諸數金證文

一預リ(米)(雜穀)證文又手形(但使用チ爲サ、ル明文無之分)

(爲換手形并置手形及荷爲換手形ノ二項七年十二月刪除但第二則第三類中ニ加フ)

右ノ證書類ハ

金高 拾圓未滿

書面米高 五石未滿ハ 界紙ヲ用フヘシ

雜穀高拾石未滿

金高拾圓以上貳拾圓未滿

書面米高 五石以上 拾石未滿ハ 印稅壹錢

雜穀高拾石以上貳拾石未滿

金高 貳拾圓以上三拾圓未滿

書面米高 拾石以上拾五石未滿ハ 印稅貳錢

雜穀高貳拾石以上三拾石未滿

金高 三拾圓以上四拾圓未滿

書面米高 拾五石以上廿石未滿ハ 印稅三錢

雜穀高三拾石以上四拾石未滿

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加イタスヘシ

一諸品賣買仕切書

右ノ仕切書ハ

書面金高 拾圓未滿ハ 界紙ニモ及ハス

同斷金高 拾圓以上貳拾圓未滿ハ 印稅壹錢

同斷金高 廿圓以上三拾圓未滿ハ 同 貳錢

同斷金高三拾圓以上四拾圓未滿ハ 同 三錢
同斷金高四拾圓以上五拾圓未滿ハ 同 四錢
以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加イタスヘシ
第三類諸証書

一 諸酒切手

右ノ切手ハ樹目壹升未滿ハ 界紙ニ及ハス 同 壹升以上壹斗未滿ハ 印稅壹錢
同壹斗以上貳斗未滿ハ 印稅貳錢 同 貳斗以上三斗未滿ハ 同 三錢
右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加イタスヘシ

一 食物切手

代金高貳拾五錢未滿ハ 界紙ニ及ハス 同廿五錢以上貳圓五十錢未滿ハ 印稅壹錢
同貳圓五十錢以上五圓未滿ハ 印稅貳錢 同五圓以上拾圓未滿ハ 同 三錢
右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加イタスヘシ

一 米油醬油其外諸品賣買切手

右ノ切手ハ

代金高貳拾五錢未滿ハ 界紙ニ及ハス 同廿五錢以上五圓未滿ハ 印稅壹錢
同五圓以上拾圓未滿ハ 印稅貳錢 同拾圓以上貳拾圓未滿ハ 同 三錢
右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加イタスヘシ

一 荷物受取書

右ノ受取書ハ送狀附添ハサル分ハ界紙ニ及ハス送狀附添ノ分ハ界紙ヲ用フル歟又ハ印
紙貼用ノ荷物判取帳ニ記スヘシ

一 金高記載無之(約定証書)(雇人請狀)類

右ノ証書類ハ總テ界紙ヲ用フヘシ

一 爲換手形 一 荷爲換手形
右ノ手形ハ

書而金高 五拾圓未滿ハ 界紙ニモ及ハス
同斷金高 五拾圓以上百圓未滿ハ 印稅壹錢
同斷金高 百圓以上百五拾圓未滿ハ 同 貳錢
同斷金高 百五拾圓以上貳百圓未滿ハ 同 三錢
同斷金高貳百圓以上貳百五拾圓未滿ハ 同 四錢
右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加イタスヘシ

○第二條 証書ハ總テ證書渡主ニテ印紙貼用ノ上必ス實印ヲ以テ其印紙ノ全面滅却セサ
ル様第一號圖ノ通調印致スヘキ事○第三條 院省使府縣ノ官印或ハ諸官吏ノ公務ニ依リ
調印セル受取書証書類ハ印紙界紙ヲ用フルニ及ハサル事○第四條 租稅並ニ賦金及區入
費取立ノ節區戶長ユリ相渡候受取書ハ界紙ヲモ用フルニ及ハサル事○第五條 官祿家祿
賞典救助受取書又ハ裁判請書及訴訟濟口書証文等ハ都テ印紙界紙ヲ用フルニ及ハサル事
○院省使府縣ニ於テ銀行又ハ爲替方等へ貢金其他官金相預ケ候節預リ金証文并ニ預リ金
通帳ハ印紙界紙ヲ用フルニ及ハサル事

第三則 諸帳簿

○第一條 諸帳簿分テ三類トス

第一類 諸帳簿

一金錢判取帳 一 質物通帳 一 金錢當座預リ通帳
右ノ帳簿類ハ
附込見積金高百圓未滿ハ 印紙貼用ニ及ハス
同斷金高百圓以上貳百圓未滿ハ 印稅壹錢

○租稅

同斷金高貳百圓以上三百圓未滿ハ 同 貳錢

同斷金高三百圓以上四百圓未滿ハ 同 三錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加イマスヘシ

第二類諸帳簿

一 質物臺帳 一金錢一時(貸)(借)通帳 一 諸品捐料帳

一 商賣品當座(貸)(借)通帳 一金錢預リ通帳但使用ヲ爲サ、ルノ明文無之

右ノ帳簿類ハ

附込見積金高百圓未滿ハ 印紙貼用ニ及ハス

同斷金高 一百圓以上貳百圓未滿ハ 印稅五錢

同斷金高貳百圓以上三百圓未滿ハ 同 拾錢

同斷金高三百圓以上四百圓未滿ハ 同 拾五錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加イマスヘシ

第三類諸帳簿

一 荷物判取帳 一 諸品判取帳

右ノ帳簿ハ附込ノ箇數ニ拘ラス壹ケ年ニ付印稅貳拾錢

○第二條 (第一類)(第二類)ノ諸帳簿ハ印紙貼用ノ儀ハ壹ケ年以上附込ヘキ見積金高ヲ以第三號書式ノ通帳簿ノ初丁ヘ自身ニ相記シ其金高ニ應シタル印紙貼用ノ上必ス實印ヲ以調印致スヘキ事(但帳簿初丁ヘ記シタル附込見積金高相滿候迄ハ何ケ年相用候モ若シカラサル事)○第三條 第三類ノ帳簿ハ印紙貼用ノ儀ハ其帳簿可相用年限ヲ見積リ第四號書式ノ通帳簿ノ初丁ヘ自身ニ相記シ其年限ニ應シタル印紙貼用ノ上必ス實印ヲ以調印致スヘキ事(但帳簿ノ初丁ヘ記シタル年限相滿候迄ハ何箇數附込候トモ若シカラサル事)○第四條 一 日印紙貼用ノ(第一類)(第二類)帳簿附込見積金高相滿候歟又ハ第三類帳簿

年限相滿餘白ノ紙數有リテ再用セント欲スル者ハ尙其帳簿ニ應シ(第三號)(第四號)書式ノ通改テ書記シ印紙貼用致スヘキ事○第五條 第二類ノ證書ヲ若シ便利ノ爲帳簿ニ相綴リ書載候儀不苦候得共其帳簿ハ其附込ノ廉毎ニ第二條第一條ノ通印紙貼用致スヘキ事○第六條 印紙貼用ノ諸帳簿ハ其掛リ官員巡廻調査ヲ遂ケ候儀モ可有之尤其節ハ巡廻日限前以可相達候條印紙貼用ノ帳簿ハ無遺漏調査ヲ受クヘキ事○第七條 (第一類)(第二類)附込見積金高相滿候歟又ハ第三類帳簿ノ期限相滿候節ハ其帳末ニ第五號書式ノ通與書ノ上調印致シ置前條官員巡廻ノ節差出檢印ヲ受クヘキ事

第四則 賞罰例

○第一條 證券界紙相用フヘキ証書類ニ證券界紙ヲ用ヒサル者ハ脫稅高(界紙定價三種平均五厘)ノ貳拾倍(則拾錢)其證書ヲ受取タル者ハ脫稅高ノ拾倍(則五錢)過料タルヘキ事○第二條 (第一類)(第二類)(第三類)ノ證書類ニ證券界紙ヲ貼用セサル者ハ脫稅高ノ貳拾倍其證書ヲ受取タル者ハ脫稅高ノ拾倍過料タルヘキ事○第三條 (第一類)(第二類)ノ諸帳簿ハ證券界紙ヲ貼用セサル者ハ脫稅高ノ貳拾倍過料タルヘキ事○第四條 (第一類)(第二類)證券界紙貼用ノ帳簿見積金高附込相濟餘白ノ紙數之レアルトテ第三條則第四條ヲ犯シ更ニ證券界紙ヲ貼用セサル者ハ脫稅高ノ拾倍過料タルヘキ事○第五條 第三類ノ諸帳簿ハ證券界紙ヲ貼用セサル者ハ脫稅高(營ヘハ無印紙ニテ一箇年未滿相用フル者ハ則貳拾錢ノ脫稅ニケ年未滿相用フル者ハ則四拾錢ノ脫稅ニ當ル類ナリ以上之ニ準シ一箇年內貳拾錢ツ、ノ割合チモツテ之レヲ算ス)ノ六倍過料タルヘキ事○第六條 第三類證券界紙貼用ノ帳簿期限相滿餘白ノ紙數之レアルトテ第三條則第四條ヲ犯シ更ニ證券界紙ヲ貼用セサル者ハ脫稅高(營書上同斷)四倍過料タルヘキ事○第七條 諸證券帳簿ニ證券界紙不足ニ貼用セシ者ハ其減稅高ノ拾倍其證書受取タル者ハ減稅高五倍ノ過料タルヘキ事○第八條 規則ニ從テ貼用セシ諸證書帳簿ノ證券界紙ニ調印セサル者

○租稅

ハ三拾圓以下ノ過料タルヘキ事(但シ其調印セサル證書ヲ受取タル者ハ渡主ニ科スル半高ノ過料タルヘキ事)○第九條 證券印紙ヲ貼用セサル紙或ハ印紙不足ナル紙或ハ貼用ノ印紙ニ調印セザル紙或ハ界紙ヲ用ヒサル證書ニ證人ニ相立又ハ與書等致シ候者ハ貳拾五圓以下ノ過料タルヘキ事○第十條 官許賣捌所ノ外ニ於テ第一則第四條ニ背キ證券(印紙)(界紙)ヲ賣捌致シ候者ハ其品取上ケ既ニ賣捌タル(印紙)(界紙)代ノ百倍又ハ其情ヲ知テ之ヲ買フ者ハ其品取上ケ(印紙)(界紙)代ノ五十倍過料タルヘキ事○第十一條 證券印紙貼用致スヘクシテ全ク貼用無之諸帳簿ニ調印イタシ候者ハ其人毎ニ帳簿主ヨリ取立候過料高百分ノ一ツ、各過料タルヘキ事○第十二條 一旦相用ヒ調印セシ證券印紙ヲ再用セントシテ之ヲ剥取り調印ヲ洗滅スル者或ハ洗滅シタルモノト知テ之ヲ再用スル者又ハ之ヲ賣買スル者ハ六拾圓以下ノ過料タルヘキ事○第十三條 證券(印紙)(界紙)ヲ賣造スル者又ハ賣造セシ品ト知テ是ヲ賣買スル者ハ都テ九拾圓以下ノ過料タルヘキ事○第十四條 前數條ニ掲クル處ノ犯人ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其實トシテ其過料金ノ半高ヲ下サルヘキ事○第十五條 證券印紙ヲ貼用スヘキ事界紙ニ認メ渡ス者ハ減稅高ノ十倍其證書受取タル者ハ減稅高五倍ノ過料タルヘキ事

第五則 附錄

○第一條 諸證書ニ外國貨幣ヲ以テ記載セル分ハ其節ノ相場ヲ以テ內國通貨ニ計算シ其高ニ應シ印紙貼用致スヘキ事○第二條 公債證書類ハ其證書面ノ金高ニ拘ハラズ賣買ノ正金高ヲ以テ計算シ其高ニ應シ印紙貼用致ス可キ事○第三條 官ノ金銀諸非借證文ノ儀衆庶一般ノ災厄ヨリ起レル救助ニ關スル分ハ(印紙)(界紙)ヲ用ルニ及ハサシ共其餘ノ諸拜借ハ總テ借用金銀證文規則ノ通タルヘキ事○第四條 印紙貼用アル諸證書ニ事故アリテ書改候節ハ新證書ニ更ニ印紙貼用致スヘキ事○第五條 凡ソ諸證書帳簿ニ誤リテ過剩ノ印紙ヲ貼用セルモノハ其證ニ於テ妨ケナキ事○第六條 諸證書ヲ差戻シ又ハ諸切手類

現品引替ノ節戻シ主ニテ管テ調印アル印紙面ヲ塗消シ或ハ引裂キ相戻スヘキ事○第七條 各所問屋ヲ經テ送致スル荷物送狀ヲ途中(宿湊問屋)ニ於テ其儘繼送候節ノ送狀ハ印紙貼用ニ及ハサシ共右荷物ヲ引分ケ各別ニ差送候節ノ新規送狀ハ規則ノ通印紙貼用致スヘキ事○第八條 爲取換約定書ノ類ハ雙方印紙貼用致スヘキ事○第九條 (七年八月改正後ニ出ツ)○第十條 (八年一月同上)○第十一條 印稅規則ニ相觸候證書并ニ帳簿ヲ授受致候儀相觸ノ規則ノ通過料金差出候後ニ至ツテモ其證書帳簿ハ取揚ケ裁判不相成事○第十二條 前條ニ掲クル證書ヲ以テ公裁ヲ仰カント欲スル節ハ受取主ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取揚ケ裁判可致事○第十三條 第十一條ニ掲クル證書ノ內界紙可相用處他紙ヲ相用ヒ候證書ヲ以テ公裁ヲ仰カント欲スル節ハ受取主ニ於テ其證書ニ壹錢印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取揚ケ裁判可致事○第十四條 第十一條ニ掲クル帳簿ヲ以テ公裁ヲ仰カント欲スル節ハ帳簿主ニ於テ相當印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取揚ケ裁判可致事○第十五條 甲乙等ノ號ヲ各帳ヘ記付シ同金高ヲ記載シ彼我ニ各一帳ツ、所持シテ相互ニ交換致ス通帳ノ類ニ冊トモ後證トナルヘキモノハ甲乙トモ印紙貼用致スヘキ事○第十六條 旅行先ニテ相用候帳簿ハ其管轄地ニテ官員巡廻ノ節調査ヲ受ケ候トモ又ハ出先ニテ官員巡廻ノ節調査ヲ受候共便宜ニ任スヘキ事○第十七條 最初帳簿附込見積金高百圓以下ト見込印紙貼用セス官員ノ調査ヲ受サルモノ漸々附込相嵩ニ誤テ百圓以上ニ及ヒ候者ハ附込金高百圓以內ニテ他ヨリ發覺セサル以前ニ印紙貼用調印ノ上其管轄廳ヘ差出調査ヲ受候ニ於テハ犯則ノ限ニ無之事○第十八條 印紙多數用フル節證書面狹隘ニテ貼用シカタク分ハ證書裏面ヘ貼用致シ第二號圖ノ通調印イタスヘキ事

七年八月大藏省達第八拾號

(圖式書ハ卷末ニアリ)

○租稅

帳簿有税無
税ノ區別

印稅規則並
加邊

附込帳簿用
方

証券印稅規
則中追加

証券印稅規則公布相成候ニ付テハ管下八民へ左ノ通可相違事

一 証券印紙貼用セル諸帳簿ハ其表紙ノ端へ(印稅濟)又附込見積金高百圓未満ニテ印紙貼用ニ及ハサル諸帳簿ニハ前同様(無稅帳)ト顯然有稅無稅ノ區別ヲ朱ニテ相記シ取引先ノ便ニ供ヘ候様可致事

但証券印紙貼用アルヘキ諸帳簿へ萬一印紙貼用無之儘ニテ授受致シ候節ハ帳簿主ノミナラヌ取引ノ上調印致シ候者ト雖モ証券印稅規則中賞罰例第十一條ノ通りニ候條各自精々注意可致事

七年八月御布告第八十四號

本年七月第八十一號布告中從來印紙規則總テ廢シトアルハ印稅規則施行當日ヨリ廢シ候儀ト可相心得此旨布告候事

七年八月御布告第八十六號

本年七月第八十一號本年第八十四號ヲ以テ証券印稅規則布告候處本月三十一日迄授受ノ証書類ハ其入用中并証印濟ノ帳簿ハ其見積金高附込相滿候迄其儘可相用此旨布告候事

但金高無限(第一類ニテ五千圓以上)(第二類ニテ一万九千圓以上)証印相受候帳簿并荷物判取帳ハ紙數盡候迄可相用事

十二年御布告第三十一號

明治七年七月第八十一號布告証券印稅規則中左ノ通追加シ來ル十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

第二則第一條第二類諸証書中諸品賣買仕切書ノ傍へ左ノ但書追加

但シ買仕切トハ荷主ヨリ輸送シ又ハ輸送セントスル物品ヲ問屋仲買又ハ其他ニ於テ仕切リ其價等ヲ荷主へ証明報告スル書類ヲ云ヒ賣仕切トハ荷主ヨリ他ニ物品又ハ輸送スルニ方テ其物賣却ノ價額ヲ荷受主ニ向テ証明報告スル書類ヲ云フ

同規則改正

賣藥規則

七年第八十九號御布告

本年七月第八十一號証券印稅規則第五則第九條左ノ通改正候條此旨布告候事

第九條 院省使府縣廳ニ於テ銀行又ハ爲替方へ貢金其他官金相預候節預リ金證文並ニ預

十年(一月)御布告第七號

賣藥規則別冊ノ通相定候條此旨布告候事

賣藥規則

第一章

○第一條 此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥浴藥散藥煎藥等ヲ調製シ効能書ヲ附シ販賣スルモノヲ云フ○第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量功能ヲ詳記シタル書ニ族藉氏名ヲ記シ其管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ○第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラス取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥取締ニ關係スルモノハ之レヲ許サハルヘシ○第四條 第八條ニ記シタル期限中藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スルモノ其由ヲ届出舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ○第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タル者ハ族藉氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持ノ免許鑑札ノ寫及ヒ營業者ト取結タル約定書トヲ添ヘ其管轄廳へ願出免許鑑札ヲ受クヘシ○第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲クヘシ○第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント欲

○租稅

ナル片ハ其由チ管轄廳へ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スルトキハ必ス之ヲ所持スヘシ○第八條 營業鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此期限ヲ過キ尙免許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ○第九條 第八條ニ記シタル期限中第四條ノ改正發賣ヲ願出之ノヲ免許スル時ハ新鑑札記載ノ月ヲ以テ一期ノ初月トナスヘシ○第十條 免許期限内ト雖モ其製藥第三條ニ掲クル有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノコアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコアルヘシ○第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラレハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス○第十二條 請鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳へ届出再ヒ之ヲ願受クヘシ○第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ隻方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ○第十四條 營業者及ヒ請賣者免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由チ記シ管轄廳へ鑑札名前書換ヲ請フヘシ○第十五條 賣藥營業者廢業シ若シハ禁止セラレタルハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テ總テ諸鑑札ヲ返納スヘシ

○第十六條 賣藥營業者及ヒ請賣者ハ左ノ通税金并鑑札料ヲ上納スヘシ

賣藥營業稅
藥劑一方ニ付一ケ年
金貳圓

右鑑札料
藥劑一方ニ付一枚
金貳拾錢

賣藥請受鑑札料
藥劑ノ方數ニ拘ハラズ一枚
金貳拾錢

賣藥行商鑑札料
藥劑ノ方數ニ拘ハラズ一人一枚
金貳拾錢

○第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ○第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ七月三十一日限リ後半年分ハ翌年一月卅一日限リ鑑札料ハ其都度并ニ管轄廳へ上納スヘシ○第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納

第三章

ムヘシ(但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月割ヲ以テ税金ヲ納メシムヘシ)

○第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ○第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ請賣スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ沒入シ藥劑一方ニ付拾圓ノ罰金ヲ科スヘシ○第二十二條 免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ街惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ沒入シ藥劑一方ニ付拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ○第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付貳拾五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ○第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贗造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付五拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ○第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ○第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取札ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ

十四年四月御布告第二十六號

明治十年(二月)第七號布告賣藥規則第十六條及第二十三條中左ノ通刪除追加候條此旨布告候事

第十六條 賣藥營業者ノ下(及ヒ請賣者)ノ五字并(賣藥請賣鑑札料)(賣藥行商鑑札料)ノ二項刪除

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者ノ下(又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者)ノ三十八字追加

同上規則追加刪除

○租稅

十五年十月御布告第五十二號

明治十年(二月)第七號布告賣藥規則中左ノ通追加シ來十六年一月一日ヨリ施行ス

第二條(但書追加) 但免許ヲ受ケタル者ニケ所以上ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十六條中右鑑札料云々ノ項ヘ但書追加

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ税金并鑑札料ヲ納ムヘシ
明治十五年十月廿七日御布告 (第五十一號)

賣藥印紙稅規則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ印紙稅ノ割合

一定價壹錢迄 印稅 壹厘 ○第二條 印紙種目ハ左ノ如シ

一全 二錢迄 全 二厘 淡黑色 二錢 綠色

一全 三錢迄 全 三厘 青色 三錢 濃青色

一全 五錢迄 全 五厘 黃色 四錢 橙黃色

一全 十錢迄 全 一錢 茶褐色 五錢 紫色

以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス 一錢 赭色 十錢 深紅色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ 但印紙

面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ ○第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限

リ賣捌クモノトス ○第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ二圓以上二

百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ二圓以

十四年二月御布告第十六號

府縣警察費ニ對シ國庫ヨリ下渡シ金ノ割合來ル十四年度ヨリ左ノ通相定候條此旨布告候

事 第一條 東京府ハ警察費總高ノ十分ノ六トス

第二條 京都府大阪府并各縣(沖繩縣ヲ除ク)地方稅支出高ノ十分ノ三トス

第三條 前二條割合ノ外警察官吏(巡查ヲ除ク)ノ外等外吏トモ)並ニ之ニ準スヘキ備内

外國人ノ諸給與警視廳ノ廳費ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ス

五年(十一月)御布告第三百三十號

牛馬賣買渡世ノ者免許稅ノ儀昨辛未十二月中大藏省ヨリ相達候處今般別紙規則書ノ通相

定候條各管内共區々ノ取計無之樣可致事

別紙

牛馬賣買渡世ノ者免許稅ノ儀昨辛未十二月相達候處此度御詮議ノ次第モ有之別紙ノ通規

則相定候免許鑑札ハ引換相渡シ引上ケ處分ハ各府縣廳ニ於テ取懸メ燒捨其段可申立候其

餘ハ規則ニ隨ヒ處置可致事

規則

第一條 各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世ノ者取調牛馬壹鼻繩ニ付免許鑑札壹枚相

○租稅

以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅ノ廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅可致事 ○第三條 免許鑑札萬一燒失流盜難等ニテ失ヒ候者有之其段申出候ハ、事實取調鑑札相渡可申事 ○第四條 免許鑑札壹枚ニ付一ヶ年稅金壹圓上納可致事(但シ右稅金ハ每年二月八月兩度ニ半額ツ、各管廳へ取立租稅察へ上納可致尤新規免許ノモノハ其都度半額直ニ取立上納可致事) ○第五條 免許鑑札燒印并ニ押切判ハ雛形ノ通其管轄所ニテ製造致シ各稼人共ニ相渡可申事(但鑑札相渡次第稼人共國郡町村名及ヒ名面等詳細取調右鑑札印鑑相添當省へ可差出事) ○第六條 右様取締相立候上ハ向後無鑑札ニテ賣買不相成萬一無鑑札ニテ密々賣買候者有之相顯ルニ於テハ牛馬共取上ケ免許料拾倍ノ科料可申付事(但密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ其訴主へ取上ケ牛馬拂代金ノ十分ノ二強美トシテ被下候事) ○第七條 取上牛馬拂代并科料金等ノ儀ハ第四條但書ニ照準上納可致事 ○第八條 此規則施行ニ付諸入費ハ一ヶ年試驗ノ上可申立事 ○第九條 免許鑑札ハ貸借決シテ不相成候事(但免許鑑札借受賣買スル者ハ規則第六條密賣買ノ廉ニ照シ處分可致貸渡シ候者ハ免許稅五倍ノ科料可申付事) (鑑札雛形卷末ニ載ス)

商船生糸牛馬賣買鑑札規則中ノ改正

商船生糸牛馬賣買鑑札規則中ノ改正

明治七年六月第六十七號ヲ以テ布告候酒造絞油商船并生糸牛馬賣買鑑札規則追加ノ儀相廢シ更ニ商船生糸牛馬賣買鑑札規則中左ノ通追加候條此旨布告候事
 商船 生糸 牛馬
 右ノ鑑札水火盜難又ハ過誤等ニテ遺失又ハ毀損候節ハ其旨管轄廳へ届出新規鑑札可申受事(但手數料トシテ鑑札一枚ニ付金貳拾錢可相納事)
 九年七月大藏省乙第五十九號
 商船生糸牛馬鑑札賣買改名轉居等ニテ鑑札書換下渡候節ハ八年(十一月)第百六十六號公布ニ準據シ可取計此旨相達候事

地方稅ノ課セサルモノノ同上
 地方稅中刪

諸稅犯刑者ノ處分

十六年六月內務省達乙第三十號
 皇族所有ノ車馬ハ明治十六年度以後地方稅賦課不相成候條此旨相達候事
 十五年十月內務省達乙第五十七號
 官用ノ船舶車馬ハ明治十六年度以後地方稅ヲ賦課スルヲ得サル義ト可心得此旨相達候事 但從前ノ達及指令之ニ矛盾スルモノハ廢止ス
 十四年二月御布告第十號
 明治十三年(十一月)第四十八號布告(地方稅增減ノ布告)第三條中(地方稅ヲ以テ支辨スルキ)ノ十一字刪除候條此旨布告候事
 十六年十二月御布告第四十三號
 酒造稅則糖麴營業稅則賣藥印紙稅則烟草稅則ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則アリト認知シ若シハ思料スルトキハ其場所ニ立入り犯則ノ証憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其官吏ハ主任ナルノ証票ヲ携帶スヘシ

○貨幣之部

舊金銀貨幣價格表

七年九月御布告第九十三號
明治元年閏四月中舊貨幣價格比較ノ儀布告候處今般更ニ造幣寮ニ於テ精細分析ノ上別冊ノ通改正シ來明治八年十二月迄新貨ト交換候條所持ノモノハ各地方廳へ引換方可申出右期限中海關稅ヲ除ク外租稅其他一般ノ公納ニ相用候儀ハ不苦人民相互ノ取引ハ自今令廢止候條此旨布告候事

舊金銀貨幣價格表(略之)

七年八月大藏省達乙第九十三號

金銀貨幣引換手續書

今般太政官第九十三號公布ヲ以舊金銀貨幣價格表御頒布相成候ニ付テハ右ノ價格ニ基キ諸公納并交換等勝手クルヘシ候處動モスレハ從來ノ風習ニ拘泥シ舊貨ノ質分何物タルヲ了知セス非常高價ノ者ト心得往々人民ノ庫中ニ埋没シ之カ爲メ世上ノ公益ヲ妨ク候モ有之或ハ新貨ニ改鑄致度モノモ其僻遠ノ地ニ住シ其手續ノ不便モ有之又ハ些少ノ金高ナルヨリ遂ニ止テ得ス儲蓄スルノ類モ抄カラス總テ右等ノ向キハ各地方官ニ於テ厚ク注意シ其利害得失懇々説諭シ無差支交換等取計可申候尤右交換ニ付テハ別段準備相設ケ候儀ニハ及ハス各府縣豫備金ノ内ヲ以テ夫々取計可申依之別紙手續書相添此旨相達候事
但右交換ノ儀ニ付テハ專ラ人民ノ便利ヲ惡シ候儀ニ付大數ノ分ハ其府縣ノ都合ニ依リ其趣申立候トモ差支無之様取計申スヘシ小數ノ分ニ至リテハ見分ケ候上ハ速ニ引換造スヘシ之カ爲メ手數ヲ厭ヒ引換テ拒ミ候等ノ儀之ナキ様精々注意致スヘシ且亦丁銀小玉銀ノ儀ハ量目品位雜駁ニシテ一定セス隨テ一個ノ價格ニ至リ各不同相生シ取極メ難ク候間右價格比較表ニ記載之ナク候尤人民ニ於テ右丁銀所持ノ向ハ地金ト見做シ取扱候儀ハ不苦候得共公納交換等へ相用ヒ候儀相成ラス候條地方官ニ於テ篤ト注意シ如シ

新舊貨幣交換等延期

舊貨幣交換代金下渡方

貨幣條例達

古金銀類其他取扱順序

右様ノ向有之節ハ精々説諭ニ可及候事

舊金銀貨幣引換手續書(略之)

十二年十二月大藏省布達甲第三百三十三號

舊貨幣新貨ト交換并公納ノ儀昨明治十一年十二月當省甲第六十七號布達ヲ以本年十二月迄延期候處尙詮議ノ次第之アリ追テ相達シ候迄延期セシメ候條此旨布達候事

但交換代金ノ儀ハ昨明治十一年九月當省乙第四十二號達ノ通ニ候事

十一年九月大藏省達乙第四十二號

舊貨幣交換代金ノ儀自今金銀貨幣ノ内ヲ以テ可相渡尤古金ハ其價格拾圓ニ付金貨八圓買易二圓ヲ以下渡古金ハ同ク貿易銀ヲ以可下渡候條古金銀交換申出候ハ、右ノ割合ヲ以テ交換方取計可申此旨相達候事

八年六月御布告第八號

新貨條例ノ儀明治四年五月頒布ノ後追々貨幣圖面寸法ノ改正規則條目ノ刪補等有之候ニ付本年四月第六十二號ノ但書通今般改刻更ニ貨幣條例ト相改候條此旨布告候事

但明治六年八月第三百八號布告銅貨圖面同七年三月第三十四號布告壹圓銀圖面而本年二月第三十五號布告貿易銀圖面共表裏ノ唱へ反對イヲシ居候ニ付今般改正候事

貨幣條例(畧之)

九年七月大藏省達乙第六十號

諸收納金ノ内古金銀貿易銀洋金銀公債証書金銀銅屬地金雜種混合地金ノ類是迄現品ノ儘直ニ上納ニ相立來候處今般出納順序改定ニ付右等ノ各種ハ一旦國債寮ニ於テ買入ノ上其代金額ヲ以テ本納ニ可相立候條本年七月一日以降右種類ノ上納及ヒ古金銀交換方等別紙之通可取計此旨相達候事

古金銀類其他取扱順序(畧之)

○貨幣

同上中現品
送致方

價造金銀銅
貨紙幣取扱
規則

九年七月大藏省達乙第六十五號

今般乙第六十號ヲ以テ古金銀類取扱規則相違候就テハ古金銀貿易銀洋金銀銅屬地金雜種
混合地金又ハ公債證書類ヲ納付致候者ハ右規則第七條ニ準シ現品ヲ送致セル時必ス各種
ノ品名量目個數等詳細ノ小譯書ヲ添ヘ現品一同可差出候此旨爲心得相違候事
九年(四月)御布告第五十七號

銀行又ハ爲替方又ハ兩替屋又ハ官廳ニ於テ備入候鑑定人等金銀銅貨紙幣ヲ鑑定ノ節價造
品取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事

價造金銀銅貨紙幣等取扱規則

○第一條 新金銀銅貨紙幣等價造品ハ詳ニ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ尋テ其面前ニ於テ
斷截シ速ニ其最寄警察出張所或ハ屯所或ハ區戶長ニ差出シ其顛末ヲ申立ツヘシ若シ官廳
ニ關スルトハ該廳ヨリ警察官署ニ通知スヘシ(但持主立會ハサル時ハ必ス代理人ヲ出サ
シムヘシ遠隔ノ地ヨリ遞送シ來ル者ハ立會人ヲ取リテ之ヲ斷截シ速ニ遞送主ヘ報告ス
ヘシ)○第二條 鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ改人ヨリ持主ヘ其斷截シタル正
貨紙幣ヲ其同等ノ品ト引換相渡シ其斷截シタル紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳ヘ引換ヲ乞
フヘシ○第三條 若シ正價定メ難キモノ有之節ハ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ分明ニ記載
シ持主ノ面前ニ於テ其品ヲ封シ持主ヲシテ之ニ封印セシメ鑑定者ヨリ管轄廳ヘ差出スヘ
シ然ル時ハ該廳ニ於テ詳細吟味ノ上全ク正品ニシテ其製充分ナラス通用ノ際人民ヘ疑ヲ
生スヘキモノハ直ニ持主ヘ引換渡スヘシ其價造品ハ第一條ニ依ル○第四條 古金銀貨幣
價造品ハ持主又ハ代理人面前ニ於テ斷截シ直ニ其持主又ハ代理人ヘ還付スヘシ○第五條
價造ヲ知ルト雖モ斷截セスシテ持主ニ還付シ又ハ申立テ等閑ニスル者等ハ相當ノ處刑ヲ
爲スヘシ

九年五月大藏省布達甲第十二號

同上紙幣ノ
特達

價造金銀銅
貨紙幣取扱
規則

洋銀算數記
載方

九年七月大藏省達乙第六十八號

本年四月太政官第五十七號公布價造金銀銅貨紙幣取扱規則第一條新金銀銅貨紙幣等價造
品ハ其持主ノ面前ニ於テ斷截云々ト掲載有之然ル處新紙幣ノ儀ハ百圓ト五拾圓拾圓ト五
圓貳圓ト壹圓半圓ト貳拾錢拾錢何レモ堅横ノ寸法同様ニ付數字ヲ描改シ五圓札ヲ拾圓ニ
拾錢札ヲ貳拾錢或ハ半圓ニ變換セシ類比々有之右ハ素ヨリ價製ノ品トモ異リ斷截候テハ
不都合ニ付該紙幣發見候ハ、裏面ノ紋色(別紙ノ通各種每ニ裏面ノ紋色ヲ別シ)暨描改
ノ證ヲ所持人ヘ明示シ其儘警察出張所等ヘ差向同所ニ於テハ右紙幣ノ原因其外取扱處分
相濟候ハ、引揚切ニ取計紙幣察ヘ相納候儀ト可心得此旨布達候事

百圓札	裏面淡紅地ニ紋色深紅	貳圓札	同橙黃地ニ同 茶褐色
五拾圓札	同 淡青地ニ同 深青	壹圓札	同淡青地ニ同 深青
拾圓札	同 淡紅地ニ同 紫	半圓札	同白地ニ同 淡褐色
五圓札	同 淡黑地ニ同 青	貳拾錢札	同白地ニ同 青
		拾錢札	同白地ニ同 綠

本年第五十七號ヲ以テ公布相成候價造金銀銅貨紙幣等取扱規則第二條鑑定ヲ誤リ斷截
シタル正貨幣ノ儀ハ昨八年當省乙第三十號達流通不便ノ金銀貨幣交換手續書ニ據リ金貨
并貿易銀貨ハ第七條ニ照準シ五拾錢以下ノ銀貨并銅貨ハ第九條ニ準シ鑑定者ニ限リ交換
可取計尤交換セシ各貨幣ハ同書第拾條第拾一條ノ通處分可致此旨相違候事
但各廳ニ於テ鑑定方申付置候銀行又ハ爲替方ノ者誤鑑斷截致シ候節ハ一時他ノ鑑定人
雇入レ令秤量候ハ勿論候得トモ万一他ニ可雇入者無之節ハ各廳ニ於テ直ニ秤量致シ成
規ノ通手數料取立毎年五月限リ明細書相添當省ヘ上納可致事
五年八月御布告第二百三十號

○貨幣

七年九月御布告第百號

橫濱元爲換會社洋銀券發行差許置候後去ル明治五年八月中國立銀行條例頒布ニ付テハ右銀券通用ハ可差止ノ處今般詮議ノ次第有之更ニ別紙規則ヲ定メ從前ノ通發行差許候條此旨布告候事

洋銀券發行規則 (畧之)

十四年五月大藏省御布達甲第七十五號

客年(二月)第五號ヲ以テ布告相成候交換新紙幣壞裂ノ節ハ別紙交換規則ニ照準引換方可取計此旨布達候事

損紙幣交換規則

水火災或ハ鼠喰虫喰等ノ爲メ毀損セシモノヲ交換スルトキハ毀損ノ原因ヲ取糺シ左ノ個條ニ照準交換スヘシ ○第一條 小破或ハ二ツ切レ三ツ切レ等幾片ニ細斷スルトモ中央ノ數位(二字トモ)及ヒ大藏卿出納局長ノ印章記錄局長ノ割印上下ノ番記號(四ケ所)マテ接続スルモノ又全部所々破損スルトモ中央ノ數位(二字トモ)ヲ認メ大藏卿出納局長ノ印章記錄局長ノ割印ノ内一個上下番記號四ケ所ノ内二ケ所(記號一ケ所番號一ケ所)又ハ番號ノミニケ所記號ノミニケ所)存在スルモノハ全額ヲ以テ交換ニ付スヘシ但全紙接続スルトモ左右ノ番記號同シカヲサルモノ又ハ彩紋等不合他ノ紙幣ヲ以テ接続スルト認ムルモノハ交換ニ付セス ○第二條 縱又ハ横斜等半片ハ消滅シ殘リ半片ノ紙幣ハ中央ノ數位(二字ノ内)一字ヲ存在シ大藏卿印章或ハ出納局長ノ印章記錄局長割印ノ内一個上下番記號ノ内一個ヲ認ムルモノ及ヒ數位二字トモ各半存セシハ半額ヲ以テ交換ニ付スヘシ ○第三條 大藏卿及ヒ其他ノ印章番記トモ全存スト雖モ中央ノ菊章及ヒ數位(二字トモ)ヲ認サルモノ中央ノ菊章及ヒ數位(二字トモ)存在スルトモ各印章及ヒ番記號ヲ不認モノハ交換ニ付スヘカラス

十二年二月大藏省達乙第九號

國立銀行損傷紙幣交換方ノ儀ニ付テハ兼テ相達置候處モ有之候處今各國立銀行ハ別紙ノ通相達候條自今不及交換候此旨相達候事

但本文之趣明治八年當省乙第七十四號達ニ準シ管下人民ハ普ク論達可致候事

各國立銀行

國立銀行損傷紙幣交換ノ儀自今他店ノ發行紙幣ヲリトモ其所持主請求次第各國立銀行本支店ニ於テ無差支互ニ交換可取計此旨相達候事

但シ本文交換セシ他店ノ紙幣ハ適宜取經メ其發行銀行ハ相送り其代リ金并右遞送ニ屬スル費用ハ勿論更ニ手数料トシテ交換金高千圓ニ付二圓ツ、該銀行ヨリ償還可爲致就テハ交換請求人ヨリ別段手数料切賃等一切受取候儀不相成候事

十六年六月御布達第二十三號

明治五年(十一月)太政官第三百五十三號達(鑄割目等アル貨幣ノ引換方)同八年(三月)大藏省甲第六號布達(流通不便ノ貨幣引換方)本年八月十五日限リ廢止ス

右布達候事

十六年五月御布告第十八號

明治八年(六月)第八號布告貨幣條例中造幣規則本年八月十五日限リ廢止ス 但本年ハ造幣規則第二條日限中ト雖モ地金ヲ受取ル可シ 右奉勅旨布告候事

十六年五月御布達第十五號

造幣規則別冊ノ通相定本年八月十六日ヨリ施行シ明治十一年(七月)大藏省甲第二十四號(精製分析所規則)同十二年(十月)同省甲第百壹號布達(造幣地方受取方規則)ハ右施行ノ日ヨリ廢止ス 但本年ハ本文甲第百壹號布達第三條日限中ト雖モ地金ヲ受取ルベシ 右布達候事 造幣規則(畧之)

○鑛山之部

六年七月御布告第二百五十九號

今般鑛山其他諸坑業ノ規則別冊ノ通告改定候ニ付テハ凡坑物ニ關係ノ事件ハ工部省ニ於テ總管セシメ候條自今金屬其外諸坑物營業ノ儀都テ同省へ可申立候此旨布告候事

日本坑法

第一章 坑物

第一 正理ヲ以テ論スル時ハ凡無機物タル物ハ(生活ノ機ナキ諸物品)都テ坑業ノ部分ニ屬ス此無機物品質二類ニ分ル即第一類ハ有鑛質第二類ハ無鑛質タリ凡諸金屬ノ天然本質ヲ以テ出ル者或ハ他ノ物質ト合化シテ出ル者ハ右第一類ニ屬ス燃質物山鹽燐酸石灰美石及玉璞ノ類ハ右第二類ニ屬ス(本條舉ル所ノ有鑛質無鑛質トモ總テ是テ坑物ト稱ス坑山坑業坑區坑產等皆之ニ倣ヘ)

第二 前ニ掲記セシ物類凡日本國中ニ於テ發見スルモノハ都テ日本政府ノ所有ニシテ獨府ノミコソテ採用スル分義ナリ

第三 鑛石土砂粘土其他建築耕作所用ノ諸物品ハ都テ地主タル者ノ所有トス可シ

第四 日本ノ民籍タル者ニ非サレバ試堀ヲ作シ坑區ヲ借リ坑物ヲ採製スル事業ノ本主或ハ組合人ト成ル事ヲ得ス(坑產ノ割合及損益ニ關係スル所ノモノハ都テ組合トス)若シコソテ犯ス者ハ其業ニ屬スル所有物ヲ官ニ沒入シテ其業ヲ禁止ス可シ

第二章 試堀

第五 試堀ヲ作ント欲スルモノハ鑛山寮ニ願出許可ヲ得テ之ヲ行フ可シ試堀ヲ行フ爲ニ必要ノ地面他人ニ屬セバ其償金ヲ對談處分スヘシ地主ニシテ自ラ試堀ヲ企ル者ハ衆ニ超テ許可ヲ得ヘキ分義有リト然レモ自ラ試堀ノ資本ナクシテ他人ノ舉ヲ拒ミ或ハ不當ノ償金ヲ貪ラバ鑛山寮或ハ地方官ニテ正價ヲ裁決シテ其地ヲ買上ク可シ

第六 試堀ニテ坑物發見スル時ハ直ニ見本ヲ添テ鑛山寮ニ届出ツヘシ且試堀中ハ一月七月雨度毎ニ前六ヶ月間ノ行業日數及工數並產鑛量ヲ開報スヘシ○凡產鑛ハ借區券ヲ(第十款ニ出ツ)得ル後ニ非サレバ恣ニ賣却スルヲ得ス若シ之ニ背カバ其金額ヲ沒收ス可シ

第七 試堀ハ都テ一年間ヲ以テ期限トス若延期ヲ願出ルニ實ニ未タ開坑ヲ決スル事ヲ得サル事理判然タラハ是ヲ許可スル事有ルヘシ

第八 試堀人廢業スル時ハ第二十七款廢坑則ノ如クスヘシ○此時ニ產鑛ハ鑛山寮ノ許可ヲ得テ賣却シ第三十一款ノ坑物稅ヲ納ムヘシ○試堀人損失ニ因テ廢業スル事實判然タルニ於テハ坑物稅ヲ免スルコトアルヘシ

第三章 借區開坑

第九 開坑スル者ハ先ツ坑區ヲ得ヘシ坑區ノ廣狹ハ其適實ナル起業ノ目途ニ應シテ之ヲ得セシムヘシ○有鑛質坑ヲ開ク者ハ必ス製鑛ノ業ヲ兼ヌ可シ○凡借區開坑ハ鑛山寮ニ願出ヘシ此願書ニ其得ント欲スル坑區ノ測量圖ヲ添テ出スヘシ○試堀ヲ經テ借區願出ル者ハ其坑區中別ニ地主有リト雖モ之ヲ拒ムヲ得ス尤其處分ハ借區券ヲ得ルノ後廿二款ノ如クナル可シ(但石炭坑ノ借區ハ一万坪以上ニ限ルヘシ)(十五年八月追加)

第十 願出ノ借區ハ鑛山寮官員之ヲ驗測シ標石ヲ植テ境界ヲ識別スヘシ巡回官員歸報ノ後許可スヘキハ工部全權ノ證印ヲ以テ借區券ヲ附與スヘシ

第十一 凡借區ハ通常十五年間ヲ以テ定期トス之ヲ終ルニ至テ繼年期ハ新ニ願出ツヘシ

第四章 通洞

第十二 通洞ハ坑道ハ(縱横ニ小坑ヲ穿ツヲ通常トス別ニ探鑛疏水運輸等ノ爲メ地底ヲ横截シ一道ノ大坑ヲ穿ツアリ之ヲ通洞ト云)我カ借區中ニ非スト雖モ之ヲ企ル事ヲ得ベシ此時ハ願書ニ自論見明細圖ヲ添テ鑛山寮へ出スヘシ若其通洞他人ノ借區ニ亘涉ス

可キハ豫メ其借區人ニモ報知スヘシ○通洞ハ高九尺幅六尺ヨリ減スヘカラス是ヨリ小ナルハ通洞トセス

第十三 願出ノ通洞ハ鑛山寮官實地測踏歸報ノ後許可スヘキハ工部全權ノ證印ヲ以テ免狀ヲ附與スヘシ免狀ヲ得ルノ後若目論見圖ニ違ヒ方向ヲ轉シ或ハ距離ヲ延縮セント欲セハ更ニ鑛山寮ヘ願出許可ヲ得テ之ヲ行フヘシ

第十四 借區人何レモ自ラ通洞ヲ開クヘキ資本有ニ非レバ我カ區中タリト雖モ他人ノ舉テ拒ムヘカラス○通洞保全ノ爲メニ其周圍ノ土石ヲ外ヨリ厚サ一間半以內ニ掘入ル可カラス然レモ其跡ニ自己ノ入費ヲ以テ支柱ヲ構造シ崩潰ノ患無カラシムル者ハ此限ニ非ラス(是ハ坑物ヲ得ンカ爲ニ一旦土石ヲ掘出ス時ノ如キ是也)

第十五 通洞ニ因テ諸借區人便利ヲ得ルコト有ラハ通洞發起人ニ其謝金ヲ出ス可シ若シ之ニ就テ對談穩當ナラスハ鑛山寮ヨリ所斷スヘシ○通洞ヲ開クモノハ借區人未定ノ所ニ於テハ通洞ノ周圍内ヨリ出ルタケノ礫石ヲ取ルコト得ヘシ他人ノ借區中ニ於テ此礫石ノ一半ヲ借區人ニ歸スヘシ

第五章 坑業

第十六 都テ坑業ニ付テハ坑物ヲ坑中支柱ノ爲ニ存スヘキ所ノ外ハ成丈坑利ヲ遺スコト無ク取出スヘシ此法ヲ犯シ其他都テ坑ノ利用ヲ害スルモノハ其輕重ニ隨テ罰金ヲ徵スヘシ

第十七 試掘開坑或ハ通洞等ヲ企ルニハ舍屋鉄道河流及道路ノ如キ其害ヲ受可キ場所ハ度ヲ計テ之ヲ避ケ殊ニ城堡ハ七十間以內ノ地ヲ避ケヘシ○凡場所ノ主タル者應諾スルニ非スシテ之ヲ犯ス者有レハ城堡ハ其律ニ任シ餘ハ其損害ヲ償復スル一倍ノ費額ヲ取テ本費ハ其主ニ附與スヘシ

第十八 凡初發許可ヲ得シ坑物ノ外ニ別種ノ坑物ヲ見出ス者ハ速ニ鑛山寮ニ報知スヘシ之ヲ背ク者ハ其坑物又ハ代價ヲ取揚クヘシ○如此類ノ借區稅ハ第卅一條ニ照準シ高價ナル方ノ例ヲ以テ納ムヘシ

第十九 開坑人ハ歲々一月七月兩度毎ニ前六ヶ月間ニ產出セシ坑物量其賣出高并代價及行業日數工數ヲ具記シテ鑛山寮ニ報知スヘシ○有鑛質ハ坑產量并製出セシ混淆物二種以上ノ金屬ヲ含有スルハ其試驗ノ割合ヲモ具記シテ賣出高以下都テ前ノ如クスヘシ右數量不正或ハ開報逾期ノ罰ハ金五十圓トス若シ賣出高并代價ヲ減書スル者ハ其減書セシ高ノ三倍ヲ徵收スヘシ

第二十 通例開坑又ハ廢礦ヲ採製スルニモ一年間ノ事業ハ地面五百坪ノ下ニ就テ壯健ナル一夫三百日ヲ以テ成セル程ノ工數ヨリ減スヘカラス若シ之ニ背ク者實ニ百方免レ難ク妨礙判然タルニ有ラスンハ其業ヲ禁止スヘシ

第二十一 坑業人ハ互ニ隣坑ノ風通シヲ硬利ニスヘシ且甲區ヨリ乙區ノ地中ニ水道ヲ通シ地上ニ要路ヲ通セシコト求ルニ於テハ不當ノ償金ヲ食ルヘカラス若相對テ以テ決セスハ鑛山寮ヨリ所斷スヘシ○右堀通シニ付テ出ル礫石ハ其所ノ借區人ニ屬スヘシ

第二十二 凡借區人ハ區上ニ於テ藏庫詰所作事場洗鑛所鑛鑛所通路等其他坑業ニ必要ナル地面ハ地主タル者ニ豫メ償金ヲ辨スヘシ若シ異論決セスハ鑛山寮又ハ地方官ニテ正價ヲ裁決シ其地買取ルヘシ

第二十三 總テ坑區ヨリ隣區ニ患害損傷ヲ被ラシムル時ハ之ヲ償フヘシ若シ償金決セスハ鑛山寮ヨリ裁決スヘシ

第二十四 凡借區人其坑業ヲ年限中他人ニ讓渡ス如キハ前以テ雙方ヨリ鑛山寮ニ願出許可ヲ請フヘシ若シ之ニ背ク者ハ其業ヲ禁止スヘシ

第二十五 凡借區年限終リ又ハ法ニ背ヒテ其業ヲ禁止セラレ或ハ自ラ廢業スルニ至ル者有レハ都テ其借區ハ政府ニ還復シ其事業ニ就テ如何ナル負債有リト雖モ總テ其坑山ニハ

關係セサルモノトス此時ニ當テ地中ノ結構ハ坑山ニ屬シテ政府ノ有タルヘシ○地上ノ
營造ハ其主ノ取去ルニ任スト雖モ其跡ノ地面ハ完全ニ修復ヲナスヘシ
第廿六 坑業人ハ其鑛山地方ノ住民同様トス

第六章 廢業

第廿七 坑業ヲ廢セント欲スル者ハ堅坑ノ口ヲ掩ヒ又柵圍ヒス可シ鑛山寮ヨリ其堅坑ヲ
當然ニ堅固ニセシヤ且坑内ノ營繕完全存在スルヤヲ檢査スヘシ若疎漏有ラハ鑛山寮ニ
於テ是ヲ繕治スヘキ費額ノ一倍ヲ徵收スヘシ

第廿八 鑛山寮ヨリ疏水ヲ命スルニ背キテ其事ヲ行ハス之カ爲ニ坑中廢没スルニ至ル者
ハ其業ヲ禁ス

第七章 製鑛所建築

第廿九 凡開坑人坑山外ノ場所ニテ有鑛質物ヲ製出セン爲ニ建築ス可キモノ有ラハ先鑛
山寮ニ許可ヲ請フヘシ

第三十 已ニ製煉セシ鑛物ヲ精製(荒銅ヲ丁銅桿銅ニ作リ山吹金ヲ純金ニ製スル類ヲ云
フ)スル職業ノ者ハ起業ヲ鑛山寮ニ報知シ六ヶ月毎ニ元鑛量并ニ製出品質等ヲ具記シ
鑛山寮ニ開報スヘシ

第八章 稅納 (第三十一款十四年四十九號布告ニテ改正)

第卅一 鐵ヲ除ク外有鑛質物ヲ採取スル坑區ハ面積五百坪毎ニ一ケ年金壹圓ツ、借區稅
トシテ毎年一月ニ其年一ケ年分ヲ前納ス可シ(借區稅ハ地租ニ關係セズ)鉄及無鑛質ノ
諸物品ヲ採取スル坑區ハ面積五百坪ニ付前條ノ半高ヲ納ムヘシ即金五十錢トス但忘納者
ハ借區券ヲ取揚シヘシ○鑛質ヲ採取スル坑區ハ面積千坪ニ付常例ノ稅額ヲ納ムヘシ○開
礦區面積五百坪廢礦區面積千坪トニ足サルモノハ總テ右面積ノ比例ニ隨テ納ムヘシ○借區
初年ノ區稅ハ月割ヲ以テ借區券下付ノ節前納ス可シ○前書借區稅ノ外ニ採製セシ金屬

及ヒ諸坑物ニ就テ代價百分ノ三ヨリ百分ノ二十迄ヲ坑物稅トシテ毎年一月七月兩度ニ
鑛山寮ニ納ムヘシ(但稅額ノ儀ハ其坑業ノ盛衰ニ隨ヒ鑛山寮ヨリ命スヘシ)

第卅二 試掘開坑或ハ通洞等ニ付テ前後諸條款ニ記セル稅或ハ罰金償金等ヲ納メサル時
其業ニ屬スル所ノ運移スヘキモノ殘ラズ坑山寮ヨリ入札拂ニシテ代價ノ中ヨリ不納高
ヲ引去リ其殘金ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ

第卅三 凡坑法ノ意旨ニ戾ル過失有ル者ハ輕重ニ隨テ罰金ヲ命スヘシ若事業疎略ニシテ
人命ヲ失ハ、國律ヲ以テ論處スヘシ
右章款ニ記載セル方法ハ明治六年九月一日ヨリ施行スヘシ從前ノ法則及ヒ舊習等若シ此
法ニ矛盾スル者ハ都テ廢停タルヘシ

坑法附示

坑業及ヒ製鑛ノ業ヲ舉行スル者西洋ノ學術及ヒ工作ヲ用ヒソカ爲メ一定ノ給料ヲ以テ外
國技術家ヲ雇入ル、カ如キハ我坑產損益及ヒ所有物ニ關係スルヲ無キニ因テ坑法第四款
ノ禁ニ觸レズ然レモ之ヲ雇入ル、以前其職業給料及年限ヲ分明ニ記載シ其案紙ヲ鑛山寮
ヘ送呈シテ結納ノ許可ヲ請候事 (書類式樣卷末ニ在リ)

七年十一月御布告第百二十四號

坑物ノ儀ハ明治六年第二百五十九號布告日本坑法ニ掲載ノ通政府ノ所有物タルハ勿論ニ
付假令開坑ノ許可ヲ受候共其坑中將來開發ノ品ヲ引當ニ致シ外國人ヨリ金子借入又ハ先
キ賣約定等ノ儀ハ不相成候條此旨布告候事

七年十二月工部省布達第三十三號

試掘借區開坑許可ノ坑業人ニ可下渡假證券書式自今左ノ通改正候尤是迄追々下渡置候
分ハ書替ニ不及候得共若シ試掘借區ヲ不可得者ノ手ニ渡リ候節ハ其日ヨリ可爲廢物儀
左ノ書式同様可相心得此旨布達候事 書式(卷末ニ在リ)

試掘等假證券書式改正

坑物品ノ引當

○鑛山

二百卅一

八年四月御布告第五十五號

北海道鑛物採製志願者ノ心得

北海道鑛物採製ノ儀ハ開拓使所轄ニ候條明治六年七月第二百五十九號布告日本坑法中鑛山寮ヲ開拓使工部全權ヲ開拓使長官ト相心得同地ニテ營業志望ノ者ハ都テ同使へ可願出此旨布告候事

八年一月御布告第二號

坑物稅當分ノ廢止

明治六年七月第二百五十九號布告日本坑法第八章中ニ掲載有之候坑物稅收納ノ儀本年一月ヨリ當分ノ内相廢候條此旨布告候事

十一年二月御布告第三號

鑛山借區稅ノ月割

開拓使管内鑛山借區稅ノ儀詮議ノ次第有之當分其營業月數ニ應シ月割ヲ以テ徵收候條此旨布告候事

八年十一月工部省布達第二十六號

坑區中間ノ距離

諸坑業人一坑山ヲ數人各自ニ分區營業候者雙方坑區ノ中間ニ相當ノ距離無之候テハ不都合ニ付自今試掘拜借區開坑共雙方坑區ノ中間ニ拾間以上ノ距離相立可願出且現今彼此接續ノ坑區ハ更ニ右ノ距離取調圖面相添雙方ヨリ減區可願出此旨布達候事(但右間地ニ於テ採鑛セサルヲ得サル節ハ雙方借區人示談ノ上連印ヲ以テ增借區開坑可願出事)

九年四月御布告第四十九號

坑業者ノ身代限

諸坑業稼ノ者身代限リ處分ヲ受ケ候節ハ右處分相濟候迄稼業不相成候條此旨布告候事

九年十月工部省布達第十八號

鑛山借區等ノ願書離形

諸鑛山試掘借區等ノ願書離形日本坑法中掲載有之候得共地名其他ノ認方疎漏ヨリ問々推問ノ手數ヲ費シ不都合不少ニ付今般更ニ願書離形別紙ノ通改正候條圖面相添正副二通可差出此旨布達候事但代理ヲ以テ願出候向ハ必ス委任狀相添可差出事(願書等卷末ニ在)十二年十月工部省布達第十四號

試掘借區開坑名稱ノ廢止

砂鐵并砂金稼行之者ハ日本坑法ニ基キ試掘借區開坑ヲ許可シ來候處自今都テ試掘借區開坑之名稱相廢候條該地所之名字等詳細之繪圖面相添採取之儀出願スヘシ且從來既ニ試掘借區開坑之許可ヲ受居候者ハ採取ニ願替假坑區券ハ返納スヘキ儀ト可心得此旨布達候事

十年十月內務省布達甲第廿一號

土石掘取規則

日本坑法第一章第三款ニ屬スル土石掘取規則之義ニ付昨九年當省甲第三號ヲ以テ相達置候土石料ノ義ハ是迄百分ノ一ヨリ貳拾迄ノ處自今更ニ百分ノ一ト定メ開坑願書式共別紙之通更正候條此旨布達候事

土石掘取規則 (畧之)

十六年十一月工部省布達第六號

日本坑法處分方

日本坑法第八章第三十壹款改正增補ノ儀十四年九月第四十九號公布相成候處處分方遷延ノ向モ有之不都合候條以來怠納者ハ二月一日ヲ以テ斷然証券取揚營業禁止候儀ト可相心得此旨相達候事 但本文ノ場合ニ於テハ同法第三十二款ニ照シ税金徵収ニ不及候事

○驛遞之部

外國人ノ宿料

人馬ノ勿錢等差止

內國通運會社ノ允許

五年十一月御布告第三百五十六號
外國人願濟ノ上内地通行ノ節宿料并ニ人馬賃錢等過當ニ申掛間敷ハ勿論ニ候得共最初取極ノ儘ナラサルヨリ往々遣拂方齟齬ニ至ル向モ有之由依テ自今差掛リ人馬雇方并止宿ノ儀申入候ハ、先ツ其宿料及賃錢等ノ約束ヲ定メ其上取扱可申萬一違約ノ者モ有之ニ於テハ速カニ其筋ヘ可申出專
六年一月大藏省布達第三號
諸道陸運會社并相對繼立所ニ於テ他ノ驛々ヨリ繼通シ候人馬ノ勿錢ヲ取立或ハ繼通シテ拒ミ候モノモ有之趣相聞不條理ノ事ニ候條各地方官ニ於テ夫々取調屹度差止可申事
八年五月內務省達乙第五十五號
今般各驛陸運會社解散申付候ニ付テハ平常御用通行ノ官員及御用物繼立人馬ノ儀ハ各自其都合ニ可任ハ勿論ニ候得共內國通運會社ヨリ別紙ノ通願出充許候ニ付爲心得相達候條繼立ノ便宜ニ依テハ各驛ニ於ケル同社ノ出張所分社及傳送所等ヘ申込人馬ノ供給可爲取扱此旨相達候事
但繼立申入候節ハ相對繼當ヲ旨トシ決シテ威權ケ間敷儀或ハ粗暴ノ舉動無之樣爲ソ夫々ヘ可相達事

今般各道陸運會社解散被仰付候ニ付テハ豫テ奉出願候通別紙繼立規則ヲ以テ公私ノ繼立取扱申度御詮議ノ上至急御准允被成下度此段奉懇願候以上

明治八年二月二十日

內國通運會社

副頭取

佐々木莊助 印

同

武田喜右衛門 印

頭取

吉村甚兵衛 印

公私諸荷物繼立規則

驛遞頭前島密殿

公私諸荷物繼立規則

一當會社ノ儀今般各道ニ於テ公私ノ繼立方御允許相蒙候ニ付何ノ御方ニ不限繼立人馬御入用ノ節御申入有之候時ハ左ノ規則ヲ以テ取扱可仕候事

公私諸荷物繼立規則

一當會社ノ儀今般各道ニ於テ公私ノ繼立方御允許相蒙候ニ付何ノ御方ニ不限繼立人馬御入用ノ節御申入有之候時ハ左ノ規則ヲ以テ取扱可仕候事

遞送物割合併ニ里程附及賃錢定額

一當驛ヨリ何驛マテ里程何里何町 一同繼越シ何驛マテ右同斷
但各地ノ定額ハ其地ノ實況ヲ以テ相定繼立所ヘ揭示可仕事

一人足物量目七貫目迄 壹人分
但七貫目以下ノ輕荷ハ勿論案内狀シリトモ是テ一人分ト定メ七貫目以上ハ七百目迄

每ニ賃錢高ノ一割宛割増申受候事
一人乘車通常歩行人夫賃 (一人五分ヨリ二人分マテ)

手荷物一貫目迄
但其額ハ各地ノ實況ニ隨ヒ相定其地ノ繼立所ヘ揭示可仕且急歩行ハ其時々相對テ以テ御取極可仕事

一宿駕籠 二人五分 但手荷物一貫目迄 一乘駕籠 三人分 同 貳貫目迄

一切棒駕籠 四人分 同 三貫目迄 一長棒駕籠 五人分 同 四貫目迄

一馬荷物一駄四十貫目迄
但以上増貫目ハ四貫目迄毎ニ一割増賃錢ノ割ヲ以テ申受候ヘトモ其重量馬一疋ノ力

度ニ難及過貫目ノ分ハ人足ニ換ヘ人足賃ヲ申受尙重量ノ分ハ馬貳疋ニ仕譯則ニ疋分

○驛遞

賃錢可申受事

- 一 荷物ノ重量人馬ニ其定度ニ過貫目ト見請候節ハ何地ニ於テモ貫數掛改メ過量ノ分ハ前條ノ割合ニ隨ヒ相當ノ増賃可申付事(但貫目掛改之節定度ノ量目ニ候ハ、手数料ハ不申受候ヘト若シ過貫目有之候時ハ相當ノ手数料可申受事)
- 一 雪雨ノ時ハ其模様ニ隨ヒ賃錢高ノ一割不少五割不多増賃申受候事
- 一 北國筋雪中ハ深淺ニヨリ右同斷一割不少五割不多割増申受候尤馬足難相立時ハ人足ニ換人足賃及割増ヲモ同様申受候事(但非常ノ深雪ハ別段ニ候事)
- 一 人馬共橋錢渡船賃共其備主ヨリ御拂可被成事
- 一 繼立方ノ儀ハ若シ順序ヲ逐候ニ付公私ノ差別ヲ以テ前後繰替候儀ハ難仕事
- 一 但急御用ノ儀ハ格別ニ付前後繰替繼立候儀モ有之事
- 一 早追或ハ晝夜兼行急場ノ繼立其他多分ノ繼立向ハ前以テ案内狀御差越可被成右案内狀無之分ハ無餘儀過滯ノ場合モ可有之候ニ付御勘辨有之度事
- 一 但右案内狀幸便繼送リ方本道ノ分ハ賃錢不申受候トモ三府内成ハ脇道ニ繼立持込候分及ヒ本道ノ分ト雖モ至急繼送ノ分ハ人足一人分ノ賃錢可申受尤通常本道無賃錢ノ分モ可成遲延無之様幸便ヲ以繼送リ可申候ヘト無據遲緩相成候節モ可有之ニ付其時ニ當リ御嚴責無之様豫テ御斷仕置候事
- 一 案内狀ノ儀其差出方ノ貫若シハ官名并姓名等詳細且眞實ニ記載無之不明ノ分ハ繼立不致事
- 一 案内狀面ノ人馬不用流ニ相成候節ハ本途賃錢ノ半高可申受候萬一案内狀ノニ差出置其御本人通行無之又相當ノ賃錢拂方モ無之ニヶ月ヲ過テ音信無之分ハ其本籍ノ御管廳ヘ上訴可仕事
- 一 早追ハ定賃錢ノ七割五分但酉ノ上刻ヨリ寅ノ下刻マテ十二時ノ間ハ一倍五割ノ割増申

受候事

- 一 通常人馬夜繼ノ分ハ右同斷酉ノ上刻ヨリ寅ノ下刻迄十二時ノ間ハ五割ノ割増申受候事
- 一 但途中ニ於テ夜行ニ相成候節ハ右割合至當ノ増方申受候事
- 一 御備主ノ都合并ニ會社ノ都合ニヨリ前後二三驛ヲ繼越シ可申候尤モ賃錢ハ其驛々當然ノ割合ヲ以テ可申受事
- 一 人足ノ強壯ヨリ二人或ハ三人拂ノ荷物ヲモ一人ニテ運送致シ候儀モ可有之事
- 一 會社ノ都合其時ノ模様ニヨリ駄荷ヲ車力ニ替候儀モ可有之尤モ賃錢ハ駄荷ノ定ヲ以テ取可申事
- 一 但山川險路等車力難相用場處ニテ馬遣拂候節ハ相當ノ人足賃申受繼立可致事
- 一 社中ノ人馬ハ凡テ左ノ雜形ノ通り鑑札相渡置候ニ付萬一御備主ヘ對シ不束ノ儀有之候時ハ何驛ニ限ラズ其地ノ會社ヘ御申入可被成屹度取札御迷惑不相成様可仕事
- 一 但途中ニ於テ無鑑札ノ人馬ト換荷不相成旨堅シ申付置候ヘト尙御備主ニモ屹度御制可被下若シ御備主ノ勝手ヲ以テ無鑑札ノ人馬ト換荷被差許候上ハ何様ノ儀出來候共於社中ハ關係不仕事 (印鑑雜形卷末ニ載ス)
- 一 當社中ニ於テハ人馬稼賃錢ノ内ヨリ口錢劔錢等一切受取不申候間人馬賃錢ノ外其高ノ一割不少二割不多手数料ヲ別段會社ヘ御拂可被下事
- 一 但手数料ノ高ハ各地ノ實況ニ隨ヒ兼テ取定繼立所ヘ張出置可申事
- 一 繼立荷物當會社ヘ一泊致シ候分ハ一駄以下一駄迄一錢ツ、庭敷料申受候事
- 一 但危險請負有之候分ハ此限ニ無之候事
- 一 當會社ニテ定約相立引受遞送荷物ノ外通例人馬繼立ノ分ハ危難辨償ノ受合ハ不仕事
- 一 各地ニ於テ社中定約人馬ノ數ヲ遣ヒ切他ノ人馬ヲ相雇繼立方取扱候時ノ賃錢ハ定例ノ限外ニシテ多少トモ其時々相當ニ取極可申事

但定約ノ人馬ハ其員數ヲ繼立所ニ揭示可致事

一到着ノ順序前後ヲ不論時間ヲ不惜牛馬車夫等ノ有合ニ任セテ遞送方不差急難荷荒荷物等ノ繼立ハ其價高テ不定ト雖ヒ定額ノ賃錢ユリ精々低價ニ致シ土地ノ適宜ニ取扱可致事(但當會社ニテ繼送荷物引受遞送ノ儀ハ取扱規則及申合規則ニ照シ夫々約定可致事)一公私旅行御荷物及ヒ其他ノ荷物共人馬繼立當社中へ御依頼有之向ハ各地出張所分社取扱所及ヒ定宿等ニ於テモ厚ク御世話可申上候則此証トシテ當會社運送切手發行致シ各地社中ニ分配致置候ニ付御買求可被下事(但本文切手御所持ノ御方ハ人馬繼立手數料ノ儀ハ何レノ社中ト雖ヒ十分ノ三相減シ御繼立可申上事)

切手雛形 (卷末ニ載ス)

前書ノ通官准テ得テ取極申候事

年月日

通運會社

明治七年九月

內國通運會社

頭取 吉村 甚兵衛

驛 遞 頭 前 島 密 殿

明治十五年十二月御布告

(第五十九號)

郵便條例

郵便條例別冊ノ通制定シ明治十六年一月一日ヨリ施行ス右奉 勅旨布告候事

郵便條例

第一章 郵便物

第一條 凡郵便物別テ四種ト爲ス(一)書狀(二)郵便葉書(三)毎月一回以上發行スル定時印刷物及其附録(四)書籍帳簿各種ノ印刷物寫真書畫繪圖紙營業品ノ見本及雛形 ○第二條 何品ヲ問ハス此條例ニ抵觸セサルモノハ第一種郵便物トナスヲ得 ○第三條 封緘シタル郵便物ハ第一種郵便物トナスヘシ ○第四條 第二種郵便物ハ他種ノ

○驛遞

二百卅九

郵便物ト合裝スルトキハ總テ第一種郵便物トナスヘシ ○第五條 第二種郵便物左ニ記載シタル所爲アルトキハ第一種郵便物トナスヘシ(一)截斷又ハ破却シタルモノ(一)稅額印面ニ文字ヲ書シタルモノ(一)稅額印面ニ郵便切手ヲ貼付シタルモノ(一)紙(配達又ハ返戻ノ爲ニスルモノヲ除ク)其他ノ品ヲ貼付シタルモノ(一)一葉ヲ折り之ヲ全ク糊着シ又ハ數葉ヲ合セ之ヲ全ク糊着シタルモノ(一)表面ニ音信文ヲ記載シタルモノ ○第六條 第三種郵便物ハ其發行人ヨリ定時印刷物タルヲ証シテ驛遞總官ノ認可ヲ受ケ驛遞局認可ノ文字ヲ印刷スヘシ但其文字標題番號及發行ノ年月日ヲ見易カラシムヘシ其附録ハ其本ノ標題番號及發行ノ年月日ヲ印刷シ冊子トナサシテ本ニ添付シ且本紙ノ重量ニ超過セサルモノニ限ルヘシ ○第七條 第三種第四種郵便物ハ封緘セサルモノトス ○第八條 第三種第四種郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一種郵便物トナスヘシ ○第九條 營業品ノ見本及雛形ハ雙方又ハ一方營業者ト往復スルモノニ限ルヘシ ○第十條 營業者ニアラサルモノ、問ニ往復スル見本及ヒ雛形ハ第一種郵便物トナスヘシ ○第十一條 異種ノ郵便物ヲ合裝スルハ總テ其種類中高額稅ヲ課スヘキ郵便物トナスヘシ但第四條ニ記載シタルモノハ此限ニアラス ○第十二條 郵便物ノ重量ハ郵便切手封皮帶紙ノ重量ヲ合算スルモノトス ○第十三條 第三種第四種郵便物(營業品ノ見本及雛形ヲ除ク)ハ一個ノ重量三百目ニ超過スヘカラス ○第十四條 營業品ノ見本及雛形ハ一個ノ重量四十八匁ニ超過スヘカラス ○第十五條 郵便物ノ大サハ曲尺ニテ長一尺二寸幅八寸厚五寸ニ超過スヘカラス ○第十六條 左ニ記載シタルモノハ郵便物トナスヘカラス(一)毒藥劇藥流動物流動爆發燃燒腐敗シ易キ物字化スヘキ物動物植物及鋒刃器硝子器陶器等ノ損傷シ易ク又他ノ郵便物ヲ損害スヘキ物品(一)風俗ヲ害スヘキ文書畫圖寫真及物品(一)金銀寶玉(一)貨幣但第十章ノ規則ニ從フモノハ此限ニアラス

第二章 郵便税

○第十七條 郵便税ハ郵便物ノ種類ニ從ヒ其額ヲ定ム 第一種郵便物 重量ニ毎每ニ(二匁未滿亦同シ)二錢 第二種郵便物 一葉一錢 第三種郵便物(一號一個重量十六匁毎ニ(十六匁未滿亦同シ)一錢(二號又ハ二個以上一束重量十六匁毎ニ(十六匁未滿亦同シ)二錢 第四種郵便物 重量八匁毎ニ(八匁未滿亦同シ)二錢 ○第十八條 郵便税ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス 郵便封皮葉書帶紙ハ切手ヲ貼付シタルト同般ナリトス但驛遞總官ト約定アルモノハ此限ニアラス ○第十九條 納税ニ用ヒタル郵便切手并封皮葉書帶紙ノ稅額印面ハ郵便局ニ於テ消印スヘシ ○第二十條 郵便税ニ過納アルモ已ニ其稅額印面ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セズ ○第二十一條 未納税又ハ不足税ノ郵便物ハ受取人ヨリ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ受取人其郵便物ヲ受取タルキハ其納税ヲ拒ムヘカラス受取人其郵便物ヲ受取ラズシテ差出人ニ還付スルキハ其差出人ヨリ其額ノ三倍ヲ徵收スヘシ ○第二十二條 未納税又ハ不足税ノ郵便物配達シ能ハス差出人ニ還付スルトキハ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ差立前ニ係ル未納税又ハ不足税ノ郵便物ヲ差出人ニ還付スルキ亦同シ ○第二十三條 第十三條第十四條第十五條ニ背戻スル郵便物ヲ差出人ニ還付スルキハ未納税又ハ不足税ノモノニ倍ヲ徵收スヘシ ○第二十四條 人民ヨリ官廳ニ差出ス郵便物ハ郵便税完納ニ限ルヘシ未納税又ハ不足税ノモノハ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ ○第二十五條 未納税又ハ不足税ヲ徵收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ未納又ハ不足ノ印ヲ捺シ其証トナスヘシ

第三章 郵便切手封皮葉書帶紙

第二十六條 郵便切手郵便封皮郵便葉書郵便帶紙ハ日本政府ニ於テ發行セシモノタルヘシ ○第二十七條 郵便切手封皮葉書帶紙ハ郵便税納ノ証トナシ又郵便切手ハ書留手數

料並別配達料納濟ノ証トナスモノトス ○第二十八條 郵便封皮ヲ用ユルキ其郵便物ノ重量ニ因テ稅額ニ不足テ生スルトキハ郵便切手ヲ以テ之ヲ補フヘシ ○第二十九條 郵便封皮ノ價位ハ其印面ノ稅額ニ製造費ヲ加ヘタル額ヲ以テ驛遞總官之ヲ定ムヘシ ○第三十條 郵便帶紙ハ第三種郵便物一箇ヲ以テ造スルモノニ用ユヘシ但重量十六匁以下ノ者ニ限ルヘシ ○第三十一條 郵便帶紙ハ第三種郵便物發行人若シクハ賣捌人ノ請求ニ依リ驛遞局ニテ賣下ケヘシ ○第三十二條 郵便切手封皮葉書ヲ賣ルモノハ驛遞總官ノ免許ニ受ケ郵便切手賣下所ノ標板ヲ掲ケヘシ ○第三十三條 郵便切手封皮葉書ハ郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ノ外ニ於テ賣買スヘカラス ○第三十四條 郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ハ郵便切手封皮葉書ノ印面稅額ヨリ低價ヲ以テ賣ルヘカラス ○第三十五條 郵便封皮葉書帶紙ノ稅額印面ヲ切取り郵便切手ニ代用スルモ其功用ヲ有セス ○第三十六條 郵便切手并封皮葉書帶紙ノ汚損毀損捺印アルモノ及稅額印面不明瞭ナルモノハ其功用ヲ失フ然レモ其未タ使用セサルモノニ限リ二人以上ノ証人ヲ立テ其原由ヲ明瞭ナラシムルトキハ驛遞局ニ於テ定價十分二減ニテ買戻スヘシ ○第三十七條 驛遞局及一等郵便局ニ於テハ四枚以上聯續シタル郵便切手并封皮葉書帶紙ヲ其所持人ノ請求ニ依リ定價十分一減ニテ買戻スヘシ

第四章 免稅郵便

第三十八條 郵便郵便爲替及貯金ノ事務ニ關スル郵便物ハ其稅ヲ免除ス ○第三十九條 免稅郵便物ハ驛遞局郵便局府縣廳府縣所屬廳郡區役所并以上各廳派出官吏相互ノ間又ハ之ト往復スルモノニ限ルヘシ ○第四十條 免稅郵便物ハ表面ニ郵便事務爲替事務貯金事務ノ文字ヲ記載スヘシ ○第四十一條 官廳ニ宛テ又ハ官廳ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名若シハ廳名課名ヲ記載シ派出官吏ニ宛テ又ハ派出官吏ヨリ差出ス免稅郵便物ハ宿所氏名ヲ記載スヘシ ○第四十二條 人民ヨリ差出ス免稅郵便物ハ宿所氏名ヲ記載ス

○第四十三條 免稅郵便物ニ他ノ音信文或ハ暗号隱語ヲ記載シ又ハ有稅郵便物ヲ附シタルモノハ相當種類ノ郵便稅ヲ徵収スヘシ

第五章 書留郵便

第四十四條 書留郵便物ハ郵便局ノ帳簿ニ登記シ遞送配達ノ受授ヲ証スルモノトス ○第四十五條 書留手數料ハ郵便物ノ何種ニ拘ハラヌ六錢トス ○第四十六條 書留郵便物ハ郵便稅手數料共前納ニ限ルヘシ ○第四十七條 書留手數料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス ○第四十八條 書留郵便物ヲ差出ストキハ其表面ニ書留ト記載シ郵便局若クハ郵便受取所ニ於テ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル紙ニ郵便局若クハ郵便受取所ノ印及主務者ノ印ヲ捺セル受取證書ヲ受領スヘシ ○第四十九條 書留郵便物ノ配達ヲ受ケタル受取證書ニ調印スヘシ本人不在ナルトキハ其代人記名調印スヘシ ○第五十條 免稅郵便物ハ書留手數料ヲ納ムルニ及ハス

第六章 郵便物遞送配達

第五十一條 郵便物遞送配達ハ郵便局ニ於テ之ヲ管スルモノトス ○第五十二條 郵便局ノ廢置ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ ○第五十三條 郵便物ハ其宛名ノ家ニ配達シ二名以上ニ宛タルモノハ其内ノ一名ニ配達スヘシ 附書(寄宿所ノ類以下之ニ做ル)アル者ハ其附書ノ家ニ配達スヘシ ○第五十四條 完納稅郵便物宛名ノ家ニ於テハ其配達ヲ拒ムヘカラス免稅郵便物亦同シ但市外別配達料附船貨幣遞送配達貨ニ追納アルモノハ此限ニアラス ○第五十五條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物請取人ニ於テ其稅ヲ納メサルキハ之ヲ受取ルヲ得ス ○第五十六條 郵便物ヲ開封シ又ハ其紙幣或ハ結束ヲ脱シ或ハ音信文ヲ讀過スルトキハ之ヲ受取リタルモノトナスヘシ但第百十五條ノ郵便物ハ此限ニアラス ○第五十七條 郵便物配達ヲ受ケタル附書ノ家ニ於テ其受取人移轉シタルトキハ直ニ之ヲ其配達人ニ還付スルカ或ハ其郵便物ニ加記又ハ附箋シ再ヒ郵便ニ出ス

ヘシ但受取人ニ達スル爲メ其家ニ留メ置クモ日數三十日ニ過クヘカラス ○第五十八條 其家ニ屬シタル郵便物ノ配達ヲ受ケタルトキハ其由テ附箋シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ其郵便物ヲ誤テ開封シタルトキハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ ○第五十九條 配達シ能ハス或ハ未納稅又ハ不足稅ヲ受取人ニ於テ納メタル郵便物ハ之ヲ其差出人ニ還付スヘシ但二名以上ニ差出シタルモノハ之ヲ其内ノ一名ニ還付スヘシ ○第六十條 第十三條第十四條第十五條ニ背戾スル郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ ○第六十一條 差立前ニ係ル郵便物ハ差出人ノ請求ニ依リ之ヲ還付スルコトアルヘシ ○第六十二條 第四種郵便物ハ次便ヲ以テ遞送スルコトアルヘシ ○第六十三條 遞送及集配ノ途中ニ係ル郵便物ハ其郵便物ノ受取人タリト受授スヘカラス ○第六十四條 郵便局所在地ニ於テハ集配人ニ郵便物ノ差出方ヲ委託スヘカラス又集配人ハ其委託ヲ受クヘカラス ○第六十五條 郵便物ハ差出人ノ爲メ郵便局ニ於テ之ヲ秤量チナサス ○第六十六條 郵便物ノ損害紛失及其損害紛失又ハ遞送ヨリ生シタル損失ハ驛遞局之ヲ償フノ責ニ任セス ○第六十七條 書狀ハ郵便局ヲ經由シテ送達シ又ハ送達セシムヘカラス但左ニ記載シタルモノハ此限ニアラス (一) 送達料ヲ拂ハス臨時ニ親族朋友雇人ノ類ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ (一) 郵便ニ依ル能ハサル事故アリテ臨時ニ特使ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ (一) 貨物ト共ニ發スル無封ノ添狀送狀 ○第六十八條 軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國各地ニ往復スル船車ノ所有主若クハ其代理者ハ驛遞局又ハ郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス (一) 第一種郵便物ハ一箇一錢ニ超過セサル額 (一) 第二種以下ノ郵便物ハ一箇五厘ニ超過セサル額 ○第六十九條 郵便物運送ノ約定ヲ爲シタルモノ或ハ運送ノ托ヲ受ケタルモノ其出發ノ日時ヲ定メ若クハ既定ノ日時ヲ變更スルトキハ速ニ之ヲ其他ノ郵便局ニ届出ツヘシ

○驛遞

○第七十條 時期ヲ定メテ郵便物運送ノ命ヲ受ケタルモノハ其期ヲ變更スヘカラス
 ○第七十一條 郵便物ノ運送ヲ爲スモノハ其郵便物ヲ安全ニ保護スヘシ ○第七十二條
 郵便物ヲ積載セル船舶ハ到達地ニ於テ其郵便物ヲ陸揚セシ後ニアラサレハ他ノ積載セ
 ル貨物ヲ陸揚スヘカラス ○第七十三條 郵便物配達又ハ還付ヲ受ケタルモノ郵便局ニ
 於テ調査ノ爲メ其郵便物ノ封皮帶紙又ハ葉背ノ交付ヲ求メラルトキハ之ヲ拒ムヘカ
 ス但郵便切手貼付アルモノハ其儘交付スヘシ

第七章 別配達郵便

第七十四條 別配達郵便物ハ書留郵便ニ限ルモノニシテ通常配達ノ例ニ拘ハラズ別ニ急
 速ノ配達ヲナスモノトス ○第七十五條 別配達別テ二類ト爲ス(一)市内(郵便局所
 在地)別配達(一)市外(郵便局未設地)別配達 ○第七十六條 市内別配達料ハ東京
 京都及大阪ハ十錢其他ノ市内ハ六錢トス ○第七十七條 市外別配達料ハ配達ノ郵便局
 ヨリ受取人ノ住所ニ至ル路程ニ應シ十八町毎ニ六錢トス十八町未滿亦同シ ○第七十八
 條 別配達ハ郵便税并別配達料共前納ニ限ルヘシ ○第七十九條 別配達料ハ郵便切手
 其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス ○第八十條 市外別配達ハ配達
 地ニ到リ路程ノ差違ニ因テ其料ニ不足ヲ生スルモ其料六錢以上納濟ノモノハ仍ホ別配達
 トシテ取扱ヒ受取人ヨリ其不足額ヲ徴収スヘシ ○第八十一條 市外別配達料不足額ヲ
 徴収スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手郵便物ニ貼付シ其切手ニ不足ノ印ヲ捺シ其証ト
 ナスヘシ ○第八十二條 船舶ニ達スル別配達ハ其船舶ノ碇泊所ニ從ヒ別配達料ノ外相
 當ノ艀船料ヲ受取人ヨリ徴収スヘシ ○第八十三條 市外別配達料不足額又ハ艀船料ヲ
 受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取テ得ス 其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額ヲ
 徴収スヘシ ○第八十四條 別配達郵便物ヲ受取タルモノハ市外別配達料不足額又ハ艀
 船料ノ納付ヲ拒ムヘカラス ○第八十五條 別配達ハ各郵便局ノ配達區域ニ拘ハラザル

モノトス ○第八十六條 甲郵便局所在地ニ達スルモノヲ乙郵便局ヨリ配達スルトキハ
 市外別配達トナスヘシ ○第八十七條 市内別配達ハ其郵便物ノ表面ニ別配達ト記載ス
 ヘシ ○第八十八條 市外別配達ハ其郵便物ノ表面ニ何地郵便局ヨリ別配達ト記載スヘ
 シ若シ其郵便局ヲ定メ難キハ單ニ別配達トノミ記載スヘシ ○第八十九條 別配達ト
 ノミ記載セルモノハ各郵便局ノ配達區域ニ從ヒ其地ノ郵便局ヨリ配達スヘシ ○第九十
 條 別配達郵便物受取人移轉シ其移轉先ニ達スルルハ別配達トヒスシテ配達スヘシ ○第九十
 九十一條 免稅郵便物ハ別配達料艀船料ヲ納ルルニ及ハス

第八章 郵便私書函

第九十二條 郵便私書函ハ郵便局ニ設置シ其開閉ニ供スル適當ノ鍵ヲ渡シ貸與スルモノ
 トス ○第九十三條 私書函ノ借受人ニ宛タル郵便物ハ其住所ニ配達セズ私書函ニ入置
 クヘシ ○第九十四條 私書函貸與料ハ一ヶ月金三圓以下ヲ以テ郵便總官之ヲ定ムヘシ
 ○第九十五條 私書函貸與期限ハ一ヶ月以上トシ其貸與料ヲ前納スヘシ ○第九十六
 條 私書函借受人ニ宛テタル別配達書留及未納稅不足稅ノ郵便物ハ私書函ニ入レズ其
 住所ニ配達スヘシ ○第九十七條 私書函ハ二人以上又ハ二會社以上ノ名ヲ以テ其一箇
 ヲ借受ルヲ得ス ○第九十八條 私書函貸與ノ滿期ニ至ルトキハ速ニ其鍵ヲ郵便局ニ返
 納スヘシ之ヲ返納セサルトキハ前期ヲ繼續テ借受タルモノトナスヘシ

第九章 留置郵便

第九十九條 留置郵便物ハ表記地名ノ郵便局ニ留置キ受取人ヲ待テ交付スルモノトス
 ○第一百條 留置郵便物ハ其表面ニ何地郵便局留置ト記載スヘシ ○第一百一條 留置郵便
 物ヲ受取ルモノハ其受取人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ証スヘシ ○第一百二條 留置郵便
 物ハ郵便稅完納ニ限ルヘシ ○第一百三條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ヲ留置トナストキ
 ハ之ヲ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徴収スヘシ ○第一百四條 留置期限ハ九十日ニ限ル

○ 驛遞

～シ 留置期限内ニ郵便物ヲ受取ラサルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第十章 貨幣封入郵便

第二百五條 貨幣封入郵便物ハ驛遞總官ト約定アルモノヲ特別ノ方法ニ依リ之ヲ遞送配達セシムル者トス ○第六條 貨幣封入郵便物ハ其重量ニ從ヒ第一種郵便物ノ稅ヲ前納シ別ニ封入ノ金額送達ノ路程ニ從ヒ貨幣遞送貨及配達貨ヲ通貨ニテ納ムヘシ但貨幣遞送貨ハ差出人ニ於テ前納シ配達貨ハ受取人ヨリ納ムヘシ ○第七條 貨幣遞送貨及配達貨額ハ驛遞總官各郵便局ニ揭示スヘシ ○第八條 封入ノ金額ハ三十圓ニ超過スヘカラス ○第九條 封入ノ金額ハ其郵便物ノ表面ニ明記スヘシ ○第十條 貨幣封入郵便物ハ差出人ニ於テ同一ノ印判ヲ以テ四所以上封印ヲ捺スヘシ ○第十一條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ差出ス貨幣封入郵便物ハ一日一個ニ限ルヘシ ○第十二條 貨幣封入郵便物ハ其表記ノ金額及封印ヲ証トシテ受授スヘシ ○第十三條 貨幣封入郵便物ヲ差出ストキハ郵便局ニ設ケアル員數證書用紙ニ式ノ如ク記載シ其郵便物ノ封印ニ用ヒタル印判ヲ捺シ郵便物及貨幣遞送貨ト共ニ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ郵便局ノ印ヲ捺シ且主務者記名調紙セル受取證書ヲ受領スヘシ ○第十四條 本人ノ封印ヲナシタル貨幣封入郵便物ヲ代人ヲ以テ差出シ員數證書ニ其代人ノ印ヲ捺ストキハ之ト同一ノ印ヲ其郵便物ニ四所以上捺スヘシ ○第十五條 貨幣封入郵便物ニアラサル郵便物中貨幣封入アル郵便局ニテ見出シ又ハ推察スルトキハ之ヲ貨幣封入郵便トシテ取扱ヒ到達地ノ郵便局ニテ其受取人ヲ召喚シ或ハ遞送約定アルモノヲ以テ配達シ受取人ニ開封セシメ封入ノ金額ニ從ヒ差立地ヨリノ路程ニ應シタル貨幣遞送貨及配達貨ヲ受取人ヨリ徴収スヘシ ○第十六條 貨幣遞送貨又ハ配達貨ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取テ得ス 其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額并還付ノ貨幣遞送貨及配達貨ヲ徴収スヘシ ○第十七條 貨幣封入郵便物配達シ能ハス之ヲ差出人ニ還

付スルトキハ更ニ相當ノ貨幣遞送貨及前後ノ配達貨ヲ徴収スヘシ ○第十八條 貨幣封入郵便物ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス ○第十九條 貨幣封入郵便物ヲ受取タルモノハ其貨幣遞送貨又ハ配達貨ノ納付ヲ拒ムヘカラス ○第二十條 貨幣封入郵便物ニ事故ヲ生シ損失ヲ受タルモノアルモ驛遞局ハ之ヲ價ノ責ニ任セス ○第二十一條 郵便局主務者ノ疎虞懈怠ニ因リ貨幣封入郵便物ヲ失ヒタルトキハ主務者ヲシテ其貨幣價ヲ償ハシムヘシ ○第二十二條 貨幣封入郵便物ヲ遞送配達中失ヒタルトキハ強盜難其他災變ニ罹リ看守者保護シ能ハサル實證アルモノハ外約定人ヲ其貨幣價ヲ償ハシムヘシ

第十一章 郵便沒書

第二百二十三條 郵便沒書ハ配達シ能ハス又還付シ能ハサル郵便物ヲ驛遞局ニ没入スルモノトス ○第二十四條 驛遞總官ハ沒書ヲ開封シ其文書ニ就テ更ニ其配達又ハ還付ヲ試マシメ尙ホ配達又ハ還付シ能ハサルモノハ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ ○第二十五條 沒書ハ公告ノ日ヨリ一ケ年間驛遞局ニ保存スヘシ沒書中貨幣或ハ諸證書又ハ有價ノ物品アルハ驛遞局ノ帳簿ニ登記シ三ケ年間其沒書ヲ保存スヘシ但保存シ難キ物品ハ之ヲ賣却シ其代金ヲ領置スヘシ ○第二十六條 沒書一ケ年内ニ請求スルモノナキトキ及沒書中ノ貨幣諸證書有價ノ物品又ハ其賣却代金三ケ年内ニ請求スルモノナキトキハ之ヲ没入スヘシ ○第二十七條 沒書中ノ貨幣諸證書有價ノ物品又ハ其賣却代金三ケ年内ニ請求スルモノアルトキハ之ヲ還付シ諸證書ハ手数料ヲ徴収セスト雖も貨幣或ハ有價ノ物品ハ其價額十分一ヲ手数料トシテ徴収スヘシ但其額ハ五圓ニ超過スルヲ得ス ○第二十八條 沒書ノ受取方ヲ請求スルモノハ其受取人又ハ差出人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ證スヘシ但驛遞局ニ於テ證人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第十二章 郵便爲替

○驛遞

第二百二十九條 郵便爲替ハ驛遞總官ノ指定スル郵便局ニ於テ取扱フモノトス ○第三百三十條 爲替ヲ取扱フ郵便局ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ ○第三百三十一條 爲替證書一枚ノ金額ハ三十圓以下トシ端數ハ厘位ヲ限リトス ○第三百三十二條 爲替料ハ驛遞總官之ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ及爲替ヲ取扱フ郵便局ニ揭示スヘシ ○第三百三十三條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ宛テ同一ノ郵便局ニ於テ拂渡スヘキ爲替ノ振出ハ一日金額三十圓ニ超過スヘカラス ○第三百三十四條 爲替差出人ハ郵便局ニ設ケアル爲替願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替金及爲替料ト共ニ先ツ之ヲ主務者ニ交付シ後ニ爲替證書ヲ受領スヘシ ○第三百三十五條 爲替證書ハ其差出人ヨリ受取人ニ送付スヘシ ○第三百三十六條 爲替差出人ハ其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルヲ得但爲替料ハ返付セズ ○第三百三十七條 爲替受取人其爲替證書ニ記載シタル拂渡局ニテ爲替金ヲ受取ニ不便ナルトモ又爲替差出人其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルニ不便ナルトモハ驛遞局ニ其證書ヲ納付シテ書換ヲ請求シ更ニ爲替金ヲ受取ニ便ナル局ニ宛テタル證書ヲ受クルヲ得 ○第三百三十八條 爲替金ノ拂渡及返戻ハ其爲替證書ト引替ニ限ルヘシ但郵便局ニ於テ證人ヲ要スルトモキハ之ヲ拒ムヘカラス ○第三百三十九條 爲替受取人ハ其爲替證書ニ式ノ如ク記名調印スヘシ爲替差出人爲替金ノ返戻ヲ受ルトモキ亦同シ ○第三百四十條 爲替報知書ニ記載セル諸件ヲ明瞭ニ答ヘ能ハサルモノハ其爲替金ヲ受取ヲ得ス ○第三百四十一條 代人ヲ以テ爲替金ヲ受取者ハ其爲替證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第三百三十九條ノ手續ヲナスヘシ ○第三百四十二條 官衙社ニ宛テタル爲替金ヲ受取トモキハ其爲替證書ノ裏面ニ官衙社寺會社ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且之ヲ受取ル所屬人ハ第三百三十九條ノ手續ヲナスヘシ ○第三百四十三條 官衙社寺會社ノ受取ヘキ爲替金ニシテ其官衙社寺會社ノ名稱ヲ附記シ其所屬人ニ宛タルトモキ宛名人自ラ受取能ハス又第四百一十一條ニ依ル能ハサルトモキハ第四百四十二條ニ依ルヲ得 ○第四百四十四條 官衙社寺會社

社若クハ其所屬人ノ名ヲ以テ差出タル爲替金ノ返戻ヲ受クルトモキモ第四百四十二條第四百四十三條ノ手續ニ依ルヘシ ○第四百四十五條 爲替證書ノ効用ハ其證書ノ日限ヨリ百二十日ヲ限リトス ○第四百四十六條 効用ヲ失ヒタル爲替證書ハ差出人又ハ受取人ヨリ驛遞局ニ納付シ其書換ヲ請求スヘシ ○第四百四十七條 爲替證書ノ効用ヲ失ヒタル日ヨリ二ケ年以内ニ其書換ヲ請求シタルトモキハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ 其公告ノ日ヨリ三ケ年以内ニ爲替證書ノ書換ヲ請求スルトモキハ其爲替金十分ノ一ヲ手数料トシテ徵収スヘシ 其公告ノ日ヨリ三ケ年ヲ過ルモ尙ホ其爲替證書ノ書換ヲ請求セサルトモキハ汚損毀損シ判明ナラサ金ヲ没入スヘシ ○第四百四十八條 爲替證書ヲ失ヒタルトモキ又ハ汚損毀損シ判明ナラサルトモキハ差出人ニ於テ証人ヲ立テ驛遞局其事由ヲ証明シ更ニ再度ノ證書ヲ請求スヘシ ○第四百四十九條 爲替金ヲ返戻シ又ハ證書ヲ書換ヘ或ハ再度ノ證書ヲ交付スルハ其原證書ニ對スル報知書ヲ取戻シタル後ニ限ルヘシ ○第四百五十條 爲替證書ノ書換又ハ再度ノ證書ヲ請求スルトモキハ更ニ相當ノ爲替料ヲ納ムヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ更ニ爲替料ヲ納ムルニ及ハス 爲替證書ノ書換及再度ノ證書ヲ同時ニ請求スルモノハ更ニ爲替料ヲ納ムルニ及ハス ○第四百五十一條 再度ノ爲替證書ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル爲替證書ヲ見出シタルトモキハ之ヲ驛遞局ニ納付スヘシ ○第四百五十二條 爲替資金ノ都合ニ因リ爲替金ノ渡方順延スルコトアルヘシ ○第四百五十三條 爲替證書又ハ報知書ニ失誤アルカ或ハ其報知書未達ノトモキハ爲替金ノ拂渡ヲ延引スヘシ ○第四百五十四條 爲替金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス ○第四百五十五條 郵便爲替ノ事故ヲ生シ損失ヲ受シルモノアルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セズ ○第四百五十六條 此章ノ規則ニ從ヒ爲替金ヲ渡シタル後ハ其渡方ニ就キ異議ヲ唱フルモ驛遞局ハ其責ニ任セズ

第十三章 驛遞局貯金

第百五十七條 驛遞局貯金ハ驛遞總官ノ指定スル貯金預所ニ於テ取扱フモノトス ○第百五十八條 貯金預所ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ ○第百五十九條 一人一度ノ預金額ハ十錢以上トシ端數ハ厘位ヲ限リトス 一日ノ預金額ハ五十圓以下トス ○第百六十條 一度ニ五十圓以上ヲ預ケントスルモノハ其都度貯金預所ニ設ケアル願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ驛遞總官ノ認可ヲ請フヘシ ○第百六十一條 貯金ニハ利子ヲ付ス其利子ノ割合ハ驛遞總官之ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ且貯金預所ニ揭示スヘシ但十錢未滿ノ端金ニハ利子ヲ付セス ○第百六十二條 貯金ヨリ生シタル利子ハ毎年六月十二月ニ於テ之ヲ元金ニ加ヘ驛遞局ノ原簿ニ登記スヘシ ○第百六十三條 貯金ハ預リタル月ト拂戻ス月ハ利子ヲ付セス但驛遞局ヨリ拂戻證書ヲ發シタル月ヲ以テ拂戻月トナスヘシ ○第百六十四條 貯金ヲ拂戻ストキ厘位未滿ノ端數ハ切捨ツヘシ ○第百六十五條 始テ預金ヲナスモノハ貯金預所ニ設ケアル預ケ願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ之ヲ其貯金預所ニ出スヘシ但印判ヲ所持セサル者ハ引受人ヲ立ツヘシ ○第百六十六條 貯金預人ハ貯金預所ニ於テ貯金通帳ヲ受領シ其表紙ニ式ノ如ク記載調印シ此通帳ヲ預ケ金ヲ爲ス毎ニ預金ト共ニ貯金預所ノ主務者ニ交付シ預金ノ記入ヲ受ケ其通帳ヲ所持スヘシ ○第百六十七條 貯金通帳ハ預金受授ノ証トナス可シ ○第百六十八條 貯金預所ニ於テ預ケ金ヲ受取ルルハ通帳ニ其金額及年月日ヲ記入シ貯金預所ノ印ヲ捺シ且主務者記名調印スヘシ ○第百六十九條 一ノ貯金預所ヨリ受領シタル通帳ヲ以テ何レノ貯金預所ニモ預金ヲナスヲ得 ○第百七十條 既ニ貯金通帳ヲ受領シ所持セルモノハ何レノ貯金預所ニ於テモ別ノ通帳ヲ受領スルヲ得ス ○第百七十一條 貯金通帳金額記載ノ部餘白ナキニ至リ更ニ通帳ヲ要スルハ驛遞局ニ其通帳ヲ差出シ再度ノ通帳ヲ請求スヘシ ○第百七十二條 貯金預人ハ滿六ヶ月毎ニ驛遞局ニ貯金通帳ヲ差出シ原簿照合及利子記入ヲ受ヘシ ○第百七十三條 預金ヲナスハ驛遞局ノ原簿ニ登記シ且貯金領收通知書ヲ

其預人ニ送達スヘシ ○第百七十四條 貯金預ケ人ハ預ケ金ヲナシタル日ヨリ左ノ期日ヨリ十五日内又到達スルモ記載ノ金額并年月日ニ相違アルハ到達ノ日ヨリ十五日内ニ驛遞總官ニ宛テ其申告書ヲ出スヘシ但申告書ハ郵便局ニ出シ其受取證書ヲ受領スヘシ 一東京十日 一東京ヨリ百里未滿三十日 一東京ヨリ百里以外六十日 ○第百七十五條 第百七十四條ノ申告書ヲ出サ、ルハ其預金額驛遞局ノ原簿ニ登記ナキカ或ハ原簿登記ノ金額年月日ト其預ケタル金額年月日ト符合セサルモ驛遞局ハ原簿ニ登記シタルモノ、外其責ニ任セス ○第百七十六條 貯金預ケ人ハ何レノ貯金預所ニ於テモ其貯金全額若クハ幾分ノ拂戻ヲ請求スルヲ得但未タ元金ニ加ヘサル利子ハ貯金ノ全額ヲ拂戻ストキニアラサレハ之ヲ受取ヲ得ス ○第百七十七條 貯金拂戻願人ハ貯金預所ニ設ケアル拂戻書用紙ニ金額其他式ノ如ク記載調印シ通帳ヲ添ヘ貯金預所ヲ經由シテ驛遞局ニ出タスヘシ但貯金預所ヨリ通帳ノ受取證書ヲ受領スヘシ ○第百七十八條 第百七十七條ノ拂戻願書及通帳ヲ驛遞局ニ於テ領収シタルトキハ貯金拂戻證書ヲ拂戻願人ニ送達スヘシ ○第百七十九條 貯金ノ全額ヲ拂戻ストキハ通帳ヲ返付セス又其幾分ヲ拂戻ストキハ驛遞局ニ於テ其通帳ニ拂戻金額及年月日ヲ記載シ官印ヲ捺シ且主務者記名調印シ貯金預所ヲ經由シテ返付スヘシ ○第百八十條 貯金拂戻願人ハ拂戻證書ニ式ノ如ク記名調印シ貯金預所ニ交付シ拂戻金ヲ受取ルヘシ ○第百八十一條 代人ヲ以テ拂戻金ヲ受取ルモノハ拂戻證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第百八十條ノ手續ヲナスヘシ ○第百八十二條 拂戻金ハ其拂戻證書ノ日附ヨリ左ノ期日内ニ受取ヘシ期日ヲ失スルトキハ更ニ驛遞局ニ其證書ノ書換ヲ請求スヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ此限ニアラス 一東京十五日 一東京ヨリ百里未滿廿五日 一東京ヨリ百里以外四十日 ○第百八十三條 貯金預ケ人死亡シタルトキハ其相續人ニ於テ證人ヲ立テ相續人タルヲ證ルル書面ヲ出シ且其相續人ハ第百七十七條ノ手續ヲナシ貯金拂戻ヲ請求スヘシ

○驛遞

○第百八十四條 預金ヲナストキ引受人ヲ立ツルモノハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ氏名ヲ記シ其引受人亦記名調印スヘシ ○第百八十五條 社寺會社ノ名ヲ以テ預金ヲナストキハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ社寺會社ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且擔當者一名記名調印スヘシ ○第百八十六條 二人以上共同ノ預ケ金ヲナスハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ其總代人一名記名調印シ且共同者中ノ一名記名加印スヘシ ○第百八十七條 社寺會社及共同ノ貯金ハ其社寺會社若シハ其總代人ヲ以テ一個ノ預ケ人ト看做スヘシ ○第百八十八條 貯金預人氏名變換改印轉籍轉住スルトキハ其屆書ニ驛遞局ニ出スヘシ ○第百八十九條 貯金預ケ人ノ引受人社寺會社ノ貯金擔當者共同貯金ノ加印者氏名變換改印轉籍轉住スルトキハ貯金預ケ人連印(引受人アル貯金預ケ人ハ氏名ノミ連記)ノ屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ ○第百九十條 貯金預ケ人ノ引受人社寺會社ノ貯金擔當者共同貯金ノ加印者變換アルトキハ後任者及貯金預ケ人連印(引受人アル貯金預ケ人ハ氏名ノミ連記)ノ屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ ○第百九十一條 共同貯金ノ總代人ヲ變更セントスルトキハ前任ノ總代人連印スル能ハサルトキハ證人ヲ立ツヘシ ○第百九十二條 貯金預人其引受人ヲ解カントスルトキハ印鑑ヲ添ヘ其引受人連印ノ屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ ○第百九十三條 貯金通帳ヲ失ヒタルハ速ニ其屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ ○第百九十四條 貯金通帳又ハ貯金拂戻證書ヲ失ヒタルハ或ハ汚損毀損シテ判明ナラサルハ證人ヲ立テ驛遞局ニ其事由ヲ證明シ再度ノ通帳又ハ拂戻證書ヲ請求スヘシ ○第百九十五條 貯金通帳ヲ失ヒタルハ再度ノ通帳ヲ發シタル日ヨリ九十日間其貯金ノ拂戻ヲ請求スルヲ得ス ○第百九十六條 再度ノ貯金通帳ヲ領受セシ後前キニ失ヒタル通帳ヲ見出シタルハ舊通帳ヲ驛遞局ニ納付スヘシ ○第百九十七條 驛遞局ニ貯金通帳ヲ差出シ又ハ再度ノ通帳或ハ貯金拂戻ヲ請求シタル場合ニ於テ第百七十四條ニ記載シタル期限内ニ通帳返付ナキカ又ハ再度ノ通帳或

ハ拂戻證書到達セサルハ驛遞總官ニ宛テ其申告書ヲ出スヘシ ○第百九十八條 貯金通帳ハ賣買讓與又ハ書入質入スルヲ許サス ○第百九十九條 驛遞局又ハ貯金預所ニテ証人ヲ要スルハ貯金預人之ヲ拒ムヘカラス ○第二百條 貯金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス ○第二百一條 貯金拂戻方延滞シ爲メニ預ケ人ノ損失ヲ生スルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セス ○第二百二條 此章ノ規則ニ從ヒ貯金ヲ拂戻シタル後ハ其拂戻方ニ就キ異議ヲ唱フルモ驛遞局ハ其責ニ任セス

第十四條 外國郵便

第二百三條 凡外國ニ差立ル郵便物別テ五項ト爲ス 一 書狀 二 郵便葉書 三 書籍 各種ノ印刷物 寫眞 書圖 四 調訟上及商用上ノ書類 五 商品ノ見本 ○第二百四條 何品ヲ問ハス此章ノ規則ニ抵觸セサルモノハ第一項郵便物トナスヲ得 ○第二百五條 第三項第四項第五項郵便物ハ封緘セサルモノトス之ヲ封緘スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ ○第二百六條 第三項第四項第五項郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルハ第一項郵便物トナスヘシ ○第二百七條 第三項第四項第五項郵便物第一項郵便物ト合裝スルトキハ總テ第一項郵便物トナスヘシ ○第二百八條 第三項第四項郵便物ハ一個ノ重量ニ「キログラム」(凡五百三十二分四零六毛)ニ超過スヘカラス ○第二百九條 第五項郵便物ノ大サハ長二十「センチメートル」(凡曲尺六寸六分六厘)幅十「センチメートル」(凡三寸三分三厘)厚五「センチメートル」(凡一寸一分六厘)又其重量ハ二百五十「グラム」(凡六十六分五厘)ニ超過スヘカラス ○第二百十條 第三項第四項第五項郵便物ヲ合裝スルトキ其重量ハ第二百八條ノ制限ニ超過スヘカラス但第五項郵便物ノ大サ及重量ハ第二百九條ニ據ルヘシ ○第二百十一條 第二項郵便物ハ萬國郵便聯合葉書ヲ用ユヘシ ○第二百十二條 第二項郵便物第五條ニ記載シタル所爲アルハ之ハ差出人ニ還付スヘシ ○第二百十三條 第五項郵便物ハ賣價ヲ付

○驛遞

同上

十四年十二月内務省達乙第六十二號
人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及其私費開鑿ノ道路憲兵巡行ノ節ハ單騎獨歩ト雖也制服
着用ノ節ニ限リ其賃錢請求不相成候條兼テ許可有之架橋渡船及開路願人共ニ無洩可相達
候此旨相達候事

同上

十五年三月内務省達乙第十八號
人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及ヒ私費開鑿ノ道路等郵便脚夫ノ飛信遞送並郵便物遞送
集配(特ニ配達人タルヲ証スル服ヲ着シ配達スルトキ)ノ時ニ限リ賃錢請求不相成候條
兼テ許可有之橋梁渡船及ヒ開路願人共ニ無洩可相達候條此旨相達候事

同上

十五年十二月内務省達乙第六十六號
人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電信配達人配達(特ニ配達人タルヲ証スル
服ヲ着シ配達スルキ)ノ時ニ限リ賃錢請求不相成候條免許人共ニ遺漏ナク達シ置ク可シ
此旨相達候事

同上

十六年六月内務省達乙第三拾壹號
人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路郵便脚夫ノ飛信遞送並郵便物遞送集配
(特ニ配達人タルヲ証スル服ヲ着シ配達スル時)ノ時ニ限リ賃錢請求不相成旨客年三月
當省乙第十八號ヲ以テ相達置候處自今郵便局ヨリ左ノ如キ印鑑相渡置候條右所持ノ者ハ
制服ノ着否ニ拘ハラズ賃錢請求不相成候ト可心得此旨免許人共ニ遺漏ナク達シ置クヘシ
此旨相達候事

(印鑑畧之)

○鐵道之部

五年五月御布告第四百十六號

第六十一號布告鐵道畧則別紙之通改正候條此旨布告候事

但開局日限之儀ハ治定之上追而可相達候事

五年五月御布告第四百十六號

第六十一號布告鐵道畧則別紙之通改正候條此旨布告候事

但開局日限之儀ハ治定之上追而可相達候事

鐵道畧則

鐵道畧則

第一條 賃金之事 何人ニ不限鐵道ノ列車ニテ旅行セント欲スル者ハ先賃金ヲ拂ヒ手形
ヲ受取ルヘシ然ラサレハ決テ列車ニ乗ル可ラス○第二條 手形檢査及渡方ノ事 手形檢
査ノ節ハ改テ受ケ取集ノ節ハ渡スヘシ若シ檢査ノ節手形ヲ出サス或ハ取集ノ節手形ヲ渡
サ、ル者ハ更ニ最初發車ノ「ステーション」ニ「ステーション」トハ瀛車ノ立場ニテ旅客ノ乘リ
下リ荷物積下ロシヲ爲ス所ヲ云フ)ヨリノ賃金ヲ拂ハシムヘシ○第三條 途中「ステ
テ其確証判然タル時ハ其乘リタル場所ヨリノ賃金ヲ拂ハシムヘシ○第三條 途中「ステ
ーション」ニテ乘組手形ノ事 途中「ステーション」ニ於テハ列車中餘地ノ有無ニ應シテ乘
組ムコトヲ得ヘシ若シ其手形ヲ買取リシ總人數ヲ容ルヘキ餘地ナキ時ハ其中ニテ最遠キ地
ニ赴ク手形所持ノ人丈ケ先ツ乘込ムコトヲ得ヘシ若シ又同里程ノ地ニ赴ク客數人アル時ハ
其手形ノ番號ノ順序ヲ以テ乘ルコトヲ得ヘシ○第四條 偽欺ノ者扱方ノ事 何人ニ限ラズ
賃金ヲ拂ハス列車ニテ旅行セント計リ或ハ遂ニ旅行シ又ハ其拂ヒシ賃金高相當ノ車ニ乘
ラスシテ更ニ上等ノ車ニ乘組ミ又ハ既ニ車ヨリ下ルヘキ場所ヲ過キ増賃金ヲ拂ハスシテ
遠キ場所ニ到リ遂ニ其賃金ヲ免レント計リ又ハ既ニ拂ヒタル賃金ニテ到ルヘキ場所ニ到

○鐵道

リナカラ車ヨリ下リ去ルコト背セズ其外如何ナル仕方ニテモ賃金拂方ヲ逃ントスル者ハ夫々法ニ隨テ罰スヘシ○第五條 列車運轉中出入禁止ノ事 總シテ列車ノ運轉中ニ出入スルコト又ハ車内旅客ノ居ルヘキ場所ノ外ニ乗ルコトヲ禁ス○第六條 痘瘡等ノ病人ヲ禁止スル事 痘瘡及諸傳染病ヲ煩フ者ハ乘車ヲ禁ス若シ此等ノ病人車中ニ在ラハ見當次第鐵道掛リノ者ヨリ車外并鐵道掛外ヘ退去セシムヘシ○第七條 吸烟并婦人部屋男子出入禁止ノ事 何人ニ不限「ステーション」構内吸烟ヲ禁セシ場所并吸烟ヲ禁セシ車内ニテ吸烟スルコトヲ許サズ且婦人ノ爲ニ設アル車及部屋等ニ男子安リニ立入ルヲ許サズ若シ右等ノ禁ヲ犯シ掛リノ者ノ戒メヲ用ヒサル者ハ車外并鐵道掛外ニ直ニ退去セシムヘシ○第八條 醉人及不行狀人扱方ノ事 何人ニ不限總シテ列車乘組中又ハ「ステーション」并鐵道掛内ニテ醉ニ乘シ妄狀ヲ現ハス者ハ又ハ不良ノ行狀ヲ爲ス者ハ鐵道掛リノ者ヨリ車外及鐵道掛外ヘ直ニ退去セシムヘシ○第九條 鐵道ニ屬スル物品ヲ毀損スル事 何人ニ不限獵リニ「ステーション」其他鐵道掛内ニ標識掲示セル書附等ヲ剝シ或ハ破リ又ハ列車ノ番號札ヲ取除キ或ハ車燈ヲ消シ又ハ各車ノ諸器械倉庫建築家牆壁其他鐵道一切ノ附屬品ヲ毀損スル者ハ總テ法ニ隨テ所置スヘシ○第十條 機關車等ニ乘込ヲ禁スルノ事 機關方并火夫ノ外ハ其筋ノ許ヲ得ヌシテ機關車又ハ炭水車ニ乘リ或ハ乘ラント爲ス可ラス且車長及車掛ノ者ノ外其筋ノ許ヲ得ヌシテハ荷物車又ハ旅客ノ爲ニ設サル車ニ乘リ又ハ乘ラント爲ス可ラス若シ此禁ヲ犯シ鐵道掛リノ者ノ制止ヲ用ヒサル者ハ直チニ其場ヨリ退去セシムヘシ○第十一條 鐵道地所ヘ安リニ立入者扱方ノ事 何人ニ不限「ステーション」又ハ鐵道掛内ヘ安リニ立入者ハ鐵道掛ノ者ヨリ即刻構外ヘ立去ラシムヘシ○第十二條 旅客ノ荷物紛失毀損取扱方ノ事 旅客手廻リ荷物其外所持ノ品タリト總テ之カ爲メ別段ニ賃金ヲ拂ヒ其受取證書ヲ取置カサレハ若シ紛失毀損等アルトモ政府ニ於テ關係セサルヘシトヒ賃金ヲ拂ヒ證書ヲ取置トモ其毀損紛失等ヲ償フハ只旅客自用衣服ノミニ止マリ且

償金モ五十圓ニ過ルコトナシ 第十三條 高金及大切ノ物品紛失毀損ニ關不關アル事 金銀紙貨幣郵便切手爲替會社通用券爲換手形約定證書金銀請拂證書地所建築券諸繪圖書畫古器金銀玉石鑽金及諸彫鐫細工物時計類其餘衣類或ハ玩佩物ノ粧飾ニ混作ノ品類及硝子器類陶器漆器酒類醬種繭布生熟糸等ノ品物運送方ニ付テハ其品柄並價高等ヲ明白ニ其掛ヘ申立テ増賃金ヲ拂ヒ紛失毀損等請合シ分ノ外ハ總テ政府ニ於テ之ヲ償ハス 第十四條 牛馬獸類運送ノ事 牛馬及其他ノ獸類ヲ運送スルニ其持主或ハ送り人ヨリ其獸類ノ價ヲ運送掛ヘ申出相當ノ増賃金ヲ拂ヒ請合證書ヲ取置クヘシ若シ増賃金ヲ拂ハス請合ヲ爲サ、ル分ハ如何高價ノ紛失損害アルトモ牛一疋金二十圓以上馬一疋或ハ乳牛一疋ニ金五十圓以上羊或ハ豚一疋ニ金五圓以上ヲ政府ニ於テ償フコトナシ 第十五條 發砲ヲ禁スル事 何人ニ不限車内ハ勿論鐵道線及其他構内ニテ砲發スルヲ禁ス 第十六條 爆發質アル危害物運輸ヲ禁スル事 鐵道寮ヨリ追テ公布スルマデハ火藥及ヒ「ピトロリヤム」ニケロシンチアル「トルベンクイ」(石炭油等)ニ「硝性并ニ爆發質燃燒質等ノ物品ハ運輸セサルヘシ 第十七條 荷物目錄ヲ渡スヘキ事 運送ノ諸荷物ヲ鐵道掛ノ者ヘ引出スヘシ取ノ度毎ニハ右荷主或ハ宰領人ヨリ其品柄數量及姓名ヲ記シテ掛リノ者ヘ差出スヘシ 第十八條 物品并畜類損害賠償方定限ノ事 鐵道ニテ運送スル物品并畜類紛失損害アリトモ鐵道掛リノ怠惰疎漏ヨリ起リシニ非サレハ政府ニ於テ之ヲ償フコトナシ 第十九條 荷物運送賃金ノ事 何人ニ不限荷物運賃ノ催促ヲ受テ尙掛ハサル時ハ其荷物ノ全部又ハ部分ヲ留置キ同人ヘ告知ラセタル上ニテ滞金高程ノ品ヲ入札公賣シ其滞金ト諸入費トヲ引取殘金殘品ヲ同人ヘ返スヘシ又時宜ニヨリ右ノ取計ヲ爲サス法官ニ訴ヘテ賃金并入費等ヲ取立ルコトモアルヘシ

第二十條 規則ニ隨ハサル者ノ事 何人ニ不限諸事前條ノ規則ニ隨ハスハ乘車及ヒ荷物ノ運送ヲ許サ、ルヘシ 第二十一條 規則等ノ變革布達ノ事 此規則中變革及加除ア

○鐵道

ルハ通少告達スヘシ 第二十二條 荷物運送引請方ノ事 諸荷物ノ運送ヲ引受ルコトハ
 列車中餘地ノ有無ニ應スヘシ 第二十三條 此規則ヲ施行スルカ爲メニ夫々法官ニ訴ヘ
 犯罪人罰シ方等ノ裁判ヲ乞フ手順ハ鐵道頭或ハ鐵道支配人ノ間ニテ其取扱アルヘシ 第
 廿四條 旅客并荷物ノ運賃ハ時宜ニ隨ヒ變革アルト雖ヒ其變革毎ニハ二週日前ニ告達ス
 ヘシ尤鐵道頭鐵道支配人及運送頭取ノ間ニ於テ前條ノ如キ告達ナク臨時ニ常例ヨリ下等
 ノ運賃ヲ以テ別ニ列車ヲ仕立ルコトモアルヘシ 第廿五條 此規則來ル五月七日ヨリ施行
 スヘシ

右之條々此度確定候事
 六年三月御布告第百一號

壬申第四百七十七號布告鐵道犯罪罰例別紙ノ通改正相成候條此旨相達候事

鐵道犯罪罰例

○第一條 鐵道掛ノ者總テ鐵道上ニ關カル事務取扱中醉ニ乘シ無狀ヲ現ハスニ於テハ二
 拾五圓以內ノ罰金ニ處ス若其職掌怠惰輕忽ニヨリ鐵道旅客ノ危難トモナルヘキ取扱アル
 片ハ其事情ニヨリ五百圓以內ノ罰金又ハ三月以內ノ懲役或ハ禁錮ニ處ス○第二條 規則
 第四條ニ記スル處ノ不法ヲ爲ス者ハ貳拾五圓以內ノ罰金或ハ三拾日以內ノ禁錮ニ處ス○
 第三條 規則第五條ノ禁ヲ犯ス者ハ拾圓以內ノ罰金ニ處ス○第四條 規則第六條ノ禁ヲ
 犯ス者ハ拂タル賃金ヲ沒シ貳拾五圓以內ノ罰金ニ處ス○第五條 規則第七條ノ禁ヲ犯ス
 者ハ拂タル賃金ヲ沒シ拾圓以內ノ罰金ニ處ス○第六條 規則第八條ニ記セル所行ヲ爲ス
 モノハ拂タル賃金ヲ沒シ貳拾五圓以內ノ罰金或ハ三拾日以內ノ禁錮ニ處ス○第七條 規
 則第九條ニ記スル所ノ不法ヲナスモノハ五拾圓以內ノ罰金又ハ六週間以內ノ懲役或ハ禁
 錮ニ處ス○第八條 規則第十條ノ禁ヲ犯ス者ハ貳拾五圓以內ノ罰金ニ處ス○第九條 規
 則第十一條ノ禁ヲ犯ス者ハ貳拾五圓以內ノ罰金或ハ三拾日以內ノ禁錮ニ處ス○第十條 規

私設鐵道規

鐵道貨物運
送補則等ノ
改正

規則第十五條ノ禁ヲ犯ス者ハ貳拾五圓以內ノ罰金ニ處ス○第十一條 規則第十七條ニ記
 スル處ノ諸荷物品書其外ヲ故ラニ出サス或ハ故ラニ欺偽ノ品物ヲ出ス者ハ三ヶ月以內ノ
 懲役又ハ禁錮或ハ其品物壹圓(千七百斤ヲ云)毎ニ貳拾五圓ノ罰金ニ處ス壹圓以下ハ拾
 圓尤一罰ノ贖金高五百圓ニ過キス○第十二條 鐵道附屬品ヲ毀傷スル者ハ第七條ニ照シ
 罰ヲ科スルノ外其毀傷物ノ代價ヲ償ハシムルコトアルヘシ但其償金ノ追徴モ鐵道寮ヨリ法
 官ヘ乞フコトハ法官ニ於テ追懲スヘシ
 十六年七月御布告第二十三號
 明治五年(五月)第四百四十六號布告鐵道客則及六年(三月)第百一號布告鐵道犯罪罰例
 ハ私設鐵道ニモ適用ス 右奉勅旨布告候事
 七年五月工部省布達第十四號
 明治六年第三百十六號ヲ以公布相成候鐵道貨物運送補則并追加及壬申九月相達候鐵道列
 車賃金表共別紙ノ通改正ノ上來ル六月十五日ヨリ施行候條此旨布告候事

別紙 (畧之)

十五年一月布達第一號
 工部省所轄陸中國釜石鐵山分局ニ於テ今般同所ヨリ大橋マテノ間鐵山用ニ供スル鐵道落
 成ニ付テハ工業用ノ餘暇一般人民便利ノ爲メ別紙心得書並ニ賃金表ニ從ヒ乘車又ハ荷物
 運輸共之ヲ許ス
 但開業日限ハ追テ工部卿ヨリ告示スヘシ
 右布達候事

釜石大橋間鐵道乘車心得書
 第一條 鐵道ニテ旅行シ又ハ荷物ヲ運送スル者ハ定規ノ賃錢ヲ前拂可致事
 第二條 運賃ハ停車場ヨリ停車場マテノ運賃ニシテ停車場外他ニ送ルハ別段ノ事

○鐵道

陸中金石嶺
道開業

第三條 表記ニ部類外ノ荷物ハ類似ノ賃錢ヲ課スルカ又ハ臨時見計ヒ相當ノ賃錢ヲ拂ハシムヘシ

第四條 百斤ハ英百斤ニシテ賃錢ハ一斤以上百斤ノ比例金高ハ厘位ニ止メ四捨五入法ヲ用フヘシ又一俵ハ米四斗入ノ俵ニテ其通常外ノ者ハ相當ノ割増可相拂事

第五條 鐵道列車ノ往復ハ可成時刻ヲ嚴重ニシ定時往復スヘシト雖モ官用ノ都合ニ依リ多少ノ遲速又ハ途中停車或ハ全ク往復致サ、ルコトアルヘシ

第六條 列車ノ都合ニ依リ乘客並ニ荷物ノ運送ヲ停止スルコトアルヘシ

右條目ノ外總テ鐵道界則テ遵守スヘキ事 賃金表(畧之)

十五年二月工部省達第二號

本年一月第一號ヲ以布達相成候當省所轄陸中國釜石嶺山分局ニリ大橋マテ鐵道ノ儀來ル三月一日ヨリ開業候條此旨告示候事

○電信之部

七年九月御布告第九十八號

電信條例

日本帝國電信條例

○第一條 此條例ハ日本帝國政府電信寮ニ於テ所轄スル所ノ電機上ニ施行スルモノナリ

○第二條 此條例中ニ用ユル電報ノ語ハ百般イ音信總テ電機ヲ以テ傳送シ又ハ傳送セシト欲スルモノヲ指シテ言フナリ

○第三條 日本政府電信寮ハ日本帝國外ノ各地ヘ又ハ各地ヨリ傳送スル電報ヲ除キ日本帝國中ニ電報ヲ傳送シ及ヒ受取リ取集メ届渡等一切關係ノ事務ヲ取扱フ專任ノ權ヲ有ス

○第四條 何人ニテモ不法故意ヲ以テ電槽器械柱木信線若シクハ其線ヲ覆フ匣蓋管筒或ハ支凸腕木架木陶器海底線浮標線竿號報柱及ヒ電機并ニ其附屬一切ノ物品ヲ毀傷スルモノ或ハ此ノ電機ニテ通信ノ電送携致又届渡シテ如何様ナル仕方ニテモ妨碍スル者其他上件ノ架木支凸腕木ヲ採取ル者ハ五百圓ヨリ多カラサル罰金又ハ三月ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス但シ過誤失錯ニ出ル者ハ其損害ノ多少ニ隨テ償金ノミヲ出サシム

○第五條 電機掛リ官員及ヒ改役或ハ其他ノ官員又ハ何人ニテモ電信寮ノ事務ニ從事スル際之ヲ攻打シ或ハ粗暴ノ舉動ヲ爲シ其事業ニ妨碍抗拒ヲ爲ス者ハ五百圓ヨリ多カラサル罰金又ハ三月ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

○第六條 何人ニテモ不法ニ柱木架木海底線信線線竿浮標其他電機又ハ其附屬一切ノ物品ニ馬又ハ其他ノ獸畜或ハ舟筏等ヲ繫ク者ハ其所行ニ依テ損害ノ有無ヲ論セス

○第七條 何人ニテモ柱木信線陶器線竿腕木架木支凸腕木號報柱浮標其他ノ物品ニ瓦礫若シクハ雜物ヲ投擲シ又矢箭火器ヲ彈射スル者ハ其所行ニ依テ毀傷ノ有無ヲ論セス

○第八條 何人ニテモ電線ノ近傍ニテ紙ヲ飛シ信線陶器腕木架木支凸其他電機ニ屬スル物品ニ紙糞又ハ其附屬ノ糸等ヲ引掛ケ

○電信

電機ノ妨碍ヲ生シムル者ハ拾圓ヨリ多カラサル罰金又ハ七日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス○第九條 何人ニテモ不法故意ヲ以テ政府電信寮ヨリ其局々或ハ電線沿道ノ所々ニ取建タル標識揭示等ヲ消滅シ又ハ拔去者ハ五十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十二日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス○第十條 何人ニテモ不法ニ電機用ノ一部分タル柱木籬竿信線支線支柱へ攀チ又ハ同様ノ浮標ニ乗ル者ハ其所行ニ依テ妨害ノ有無ヲ論セズ二十五圓ヨリ多カラサル罰金又ハ二十一日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス○第十一條 何人ニテモ不法故意ヲ以テ柱木浮標其他一切電機附屬ノ物品へ落書圖繪又ハ鐫刻スル者ハ十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ七日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス○第十二條 電機掛官員及ヒ改役或ハ其他ノ官員又ハ何人ニテモ他人へ居渡スヘキ電報ヲ故意チ以テ隱匿シ又ハ電信寮ヨリ電報ヲ居渡スヘキ命令ヲ怠リ或ハ肯セサル者ハ五十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十二日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス○第十三條 電信寮ニ仕官スル者故意怠慢ヲ以テ音信ノ傳送又ハ居渡スコトヲ忘却延延スル者又ハ同様ノイニ依テ音信ノ傳送居渡シ妨碍ヲ延延セシムル者又ハ猥リニ音信ノ旨趣ヲ傳渡スル者又ハ他人ノ民又ハ電信寮ノ官員ト雖ヒ其場ニ立入ルヘキ職務ニ非サル者ヲ電信寮ノ器械室ニ立入ラセ又ハ滯居セシムル者等以上ノ各犯ハ一百圓ヨリ多カラサル罰金ニ處ス○第十四條 凡此條例中ニ記載シタル箇條ヲ顯然犯サント企ル者ハ五十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十二日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス○第十五條 凡此條例ヲ犯シテ電信寮所轄ノ物品ヲ毀傷シ又ハ他人ノ損失妨碍ヲ生スル者ハ例ニ照シテ處分スルノ外其毀傷損失ノ償金ヲ出サシム但工部省所轄電信私線ノ分モ渾テ此條例ニ準シ處分ス○第十六條 凡ソ犯人ヲ處斷シ罰金并ニ償金ノ額ヲ定ムルハ總テ裁判官ノ權内ニ屬ス○第十七條 (十二年五月削除)

七年八月工部省布達第二十一號

電信私線規則

○本年七月中第十八號ヲ以テ電信支線人民架設被差許候ニ付テハ右規則別冊之通確定候條此旨布達候事

○電信私線規則

○第一條 電信機線架設ノ儀民費又ハ商會等ヨリ私費ヲ以テ建築イタクシ度旨出願ノ向ハ許可スヘキ事○第二條 私線ヲ許可スルト雖ヒ必ス官線ニ接続セシムル事○第三條 官線架設アリテ來往ノ音信無差支場所(東京ヨリ橫濱ノ如キ東京ヨリ長崎ニ至ル等)ハ私線ヲ許サ、ル事○第四條 若シ官線ノ未タ設ナキ地方ニ於テ私線ヲ願フモノハ必ス便宜ノ官線ニ接続セシムル事○第五條 架線建築器械据付等電信寮ニテ處分シ其入費ハ願人ヨリ償却セシムル事○第六條 機關扱ノ者ハ當分電信寮ニテ相撰差出スヘシ尤費用ハ願人ノ持タルヘキ事○第七條 私局用ノ爲メ技術修業爲致度望ノ者ハ電信寮ニテ教授可受事○第八條 音信取扱並局詰心得方等總テ電信寮定規ノ通相守可申事○第九條 音信料ノ儀ハ各線ノ比較チ以テ官許ヲ經テ可相定事○第十條 官局ト私局ト往復スル音信ハ其料ノ三分一ヲ官局ニ納メ三分二ヲ私局ニ收入スヘシ○第十一條 何レノ地ヨリ發スルトモ官私線上ニ經過スル音信ハ其發信局ニ於テ定表ノ通全線ノ賃料ヲ取立官私收入ノ割合チ以テ計算スヘキ事

七年九月九日電信寮廣告

電機通信開業以來公私一般ノ便益ハ申迄モ無之目今一日モ不可欠之要具ト相成候處官私通信之際寫誤或ハ難解之文句等有之爲之世間之苦情不少趣追々當寮及枝局へ訴出候向モ有之右ハ從來技術學校ニ於テ試驗ノ上精熟之輩相撰爲取扱來儀ニ付萬々間違ハ無之筈ト被存委曲遂吟味候處畢竟通信開業僅ニ數年前ニ有之爾來生徒ノ學殖猶ホ淺ク未タ一點之間違不相生程之熟練ニ不立至且通信日幅濶致シ運機誤掌之際錯テ差起候廉モ問々有之候得共通信頼出候向ニ於テモ字畫不正假令ハ(マ)ナ(ス)ナ(ソ)ナ(リ)ナ(シ)ナ(ク)ナ

○電信

電信依頼者ノ心掛

(シ)(ツ)(チ)(ソ)(チ)(ニ)(ユ)(チ)(コ)ニ錯リ濁音不正或ハ綴字ノ不當假令ハ(ビヤウキ)(チ)(ビウキ)(カンギヤウ)(チ)(カンシヨ)(クワツ)(カシツ)(シウシヨ)(チ)(チウシヨ)シヨ(シヤウツ)(シヤウツ)(シヨウツ)(シヨウツ)(シヨウツ)(シヨウツ)ナド其他疎漏ニ認候ヨリ難解之文句ト相成候類モ不少候條通信類出候節ハ右錯認等無之様精々字畫ヲ正シ濁音ヲ改メ世間普通ノ言葉ニ倣ヒ可頼出候當寮ニ於テモ可成誤錯不相生様取締可致ニ付テハ將來右錯誤相生候節ハ無遲滯何號ノ信書何年月日何處局ニ於テ技術方某取扱之送達紙ニ何等ノ間違相生ル旨及本人姓名記載ノ上電信頭名宛ノ封書ヲ以電信本寮又ハ最寄電信局ニ可差出此段及廣告候也

電信文ノ綴
リ方

七年十月工部省布達第廿四號
電氣通信之儀從來章句ハ勿論地名姓名等ニ至迄總テ「イロハ」四十七字ヲ以テ送受可致裝置ニ相成居候處地名姓名等ハ多分漢字ヲ以テ差出候ニ付通信繁忙之際或ハ音讀ヲ訓讀ニ錯リ或ハ訓讀ヲ音讀ニ誤ル等之間違モ有之其上受信局ニ於テハ只其器械上ニ致現出候「イロハ」字號ニ依リ臆度ヲ以漢字ニ翻譯致シ候儀ニ付往々異字同訓ノ間違有之ヨリ其邊苦情申出候向モ寡カラス抑本邦地名姓名稱呼ノ儀ハ往古漢字ヲ以テ邦語ヲ翻譯致シ候類不少候故其他其人ノ讀ミ習ヒニヨリ各自區々ニ相成邦内普通ノ定稱モ無之自然其讀方ト相戻リ候儀モ有之電信送受ノ際右等ノ間違ヨリ送達遷延致シ候テハ公私ノ事業妨碍不少候ニ付將來通信類出候者ハ章句ハ勿論送受ノ地名姓名等悉皆其他其人讀ミ習ノ稱呼ヲ「イロハ」ニ取綴句讀ヲ點シ可差出此旨布達候事

電信局ナキ
地ヨリ電報
差出方

八年十一月工部内務兩卿連名布達番外
電信局無之地ヨリ郵便ニテ電報差出度者ハ郵便切手ヲ買請右チ音信料トナシ音信文ト合封シテ其最寄電信局ニ宛書留郵便ニテ差出可申候尤來九年一月二日ヨリ施行候條此旨布達候事

電信追尾音
信配達方法

九年三月工部省布達第四號

但豫テ各所郵便局ニ電信賃錢表備置候筈ニ付右表所持無之者ハ其最寄郵便局ニ至リ閱覽可致若シ音信料等ニ不足アル片ハ先拂郵便ヲ以不足一倍ノ追納可申付自然出狀人ニ申遣シ所在不分候ハ、受取人ヨリ可取立右追納致候節モ本文同様書留郵便ニテ差出可申事

電報追尾音信配達方法別紙ノ通相定本月十五日ヨリ施行候條此旨布達候事

一 信書届先ノ者他處ニ轉居(東京ヨリ横濱或ハ長崎ニ其他同地方ニテモ他區ニ轉居スルノ類)又ハ旅行等ノ節右新居處ニ其信書ヲ再送セント欲スル爲メ出狀人豫メ其慮アラハ頼信紙ニ追尾ノ文字ヲ記入電信局ニ頼出シ此音信ハ受取人ノ舊住處ニ於テ届先チ書改サセ直ニ之ヲ其新名處ニ送達スヘシ

但新名所ヲ申出サルカ又ハ再送スト雖モ受取人ヲ尋得サル片ハ其信書ハ電信局ニ留置スヘシ

一 追尾音信稅ハ初度ノ着信局マテ出狀人ヨリ之ヲ收納シ且追尾ノ字數モ稅金ヲ拂フヘシ

一 初度ノ着信局以外現届先マテ音信稅ハ受取人ヨリ收納スヘシ

一 何人ニテモ電報ノ來ルヘキ心當リアル者其次第及ヒ轉徒ノ名處等ヲ豫テ電信寮ニ陳述シ置キ其人ニ宛タル音信到來次第之ヲ其殘置キタル名所ニ前數條ニ據リ再送セラル、トチ乞ヒ得ヘシ

一 追尾ノ依頼ナキ通常音信ト雖モ轉徒ノ居處分明者二里以内ハ逐處之ヲ送達スヘシ

十二年四月工部省布達第九號

明治六年八月太政官第三百號布告電信取扱規則并同七年當省第三號第四號八年第五號電信賃錢表中碇泊ノ船艦ニ送達スル賃錢同年第十九號同十一月内務工部兩卿連名番外及ヒ九年第四號等追々及布達候諸規則今般別冊ノ通改正増補來ル七月一日ヨリ施行候條此旨

電信取扱規
則

○電信

布達候事

電信取扱規則摘要

- 一 此表ハ和文片假名二十字住所姓名ヲ除ク 歐文二十語住所姓名ヲ以テ一音信トナシ定メタル賃金ニシテ其餘ハ十語ヲ加フル毎ニ半價ヲ増ス十語ニ滿タルモ亦同様ナリ
- 一 但内國歐文ハ一語ノ聯綴十五字マテテ一語ニ算シ十五字ヲ超ユルモノハ又一語トス
- 一 東京大阪府下一市内ノ往復ハ和文一音信料金五錢住所姓名ヲ除ク 歐文金拾五錢住所姓名トス其餘前條ニ同シ
- 一 和文往所姓名ハ文字ノ多少距離ノ遠近ニ拘ハラズ每一通金五錢トス
- 一 海外通信國內ハ何レノ局ヨリ發スルトモ一語ニ付墨銀貳拾仙ヲ拂フヘシ海外ハ各國ニテ定メタル所ノ海外音信稅表ニ據ルヘシ
- 一 但海外電報語數計算法其他取扱方ハ電信萬國公法ニ據ルヘシ
- 一 通信料屆賃等必ス出狀人ヨリ前拂スヘシ
- 一 賴信紙中ニ記入シタルモノハ句讀諸點符連續點ヲ除クノ外總テ賃金ヲ拂フヘシ
- 一 但和文秘信中ニ用キル讀點ハ一個テ一字ト見做シテ計算ス
- 一 和文中ニ數字又ハ歐字ヲ挿入スルモノハ必ス括弧ヲ以テ其前後ヲ圍ムヘシ計算方ハ一字ヲ片假名一字トシ括弧ハ二字ト看做スヘシ
- 一 濁點半濁點ハ一個ヲ一字ト看做シ即チ「ハ」或「ヒ」ノ如キハ二字ト計算スヘシ
- 一 片假名ニテ數目ヲ記スルモノハ其字數ニ因テ計算ス
- 一 電信文ノ全部又ハ一部分ニ秘辭ヲ用キテ書スルヲ得ヘシ尤半ハ普通辭半ハ秘辭ヲ用ルキハ括弧ヲ以テ秘辭ノ前後ヲ圍ムヘシ其秘信ハ和文ハ片假名又ハ數字歐文ハ羅馬文字又ハ亞刺比亞數字ヲ以テ記スヘシ

但私報ノ秘信ニハ決シテ數字ト文字トヲ混用スヘカラズ

- 一 歐文中數字又ハ文字ノ聯集字下線括弧其他ノ計算法ハ取扱規則ニ就テ見ルヘシ
- 一 至急官報ハ通常音信料ノ二倍ヲ拂フヘシ
- 一 至急私報ハ通常音信料ノ三倍ヲ拂フヘシ
- 一 出狀人ハ返信料ヲ前納スルヲ得ヘシ尤原信價ノ三倍ニ超過スヘカラズ
- 一 照校ハ其電信辭數現賃金ノ半額ヲ増シ拂フヘシ
- 一 但秘信ニテ語辭文意ノ通曉シカタク電報ハ誤謬ヲ豫防スル爲メ照校トナスヲ良シトス
- 一 受信報知ハ更ニ一音信料所料屆ヲ増拂フヘシ
- 一 書留ハ通常電報字數現賃金ノ二倍ヲ拂フヘシ
- 一 追尾ハ出狀人ヨリ第一着局マテノ賃金ヲ納メシメ第一着局以外ノ通信料ハ受信人ヨリ徵收ス
- 一 但和文ノ名所ハ第一發信ノ際金五錢ヲ收ムルノミ
- 一 同文ノ電報ヲ同郡邑中ニ住スル數名ニ各配達スルヲ乞フモノハ甲一個ノ通信料ヲ拂ヒ乙丙ノ分ハ騰寫一通毎ニ和文金七錢歐文ハ金貳拾五錢ヲ拂フヘシ
- 一 但和文ノ名處ハ多少ニ拘ハラズ金五錢ヲ收ムルノミ尤屆賃ハ甲乙丙トモ夫々拂フヘシ
- 一 〇其送達チナスニ別局ヲ要スル連名電報ハ一々定則ノ賃金ヲ拂フヘシ尤東京大阪府下ノ如キ一市内ニテ別局ヲ用ユルモノハ本文ノ如シ
- 一 電信局無之地方ヨリハ郵便切手ヲ以テ通信料トナシ電信文ト合封シ書留郵便ニテ其近傍ノ電信局ニ差出スヘシ若シ賃金不足アルハ不足ノ二倍ヲ追納セシム
- 一 至急私報(翠符號UR) 返信料濟(RP) (照校電報)(TC) 受信報知(CR) 書留電報(TR) 追尾電報(RS) 郵便配達(PP) 別便配達(XP) 局待電報(WT) ハ都テ其名

○電信

宛ノ下ニ「シキツ」シリカヘシト普通辭ニテ記スルカ又ハ界符號ニテ記スヘシ界符號ヲ用ルルハ和文ハ「二字歐文ハ一語ニ算シ普通辭ハ其字數ニ應シ音信字數ニ併セテ賃金ヲ拂フヘシ

届 賃

- 一 電信分局ヨリ二里以内ハ每一通金一錢五厘トス
- 一 二里以外ノ地ヘ別使ニテ送達セント欲セハ一里ニ付金拾貳錢ノ割ヲ以テ九町毎ニ金三錢ヲ前拂スヘシ
- 但里程相違シテ賃金不足スルハ受信人ニリ徵收シ過剩ハ出狀人ニ還付ス
- 一 二里以外郵便ニテ送達セハト欲セハ總テ郵便規則ニ因リ其税金ヲ拂フヘシ
- 一 開港場其他諸港内宛泊ノ船艦ヘ配達スルハ配達賃トシテ金拾五錢ヲ前拂スヘシ
- 一 島嶼ヘノ別使賃ハ實費ヲ拂フヘシ

明治十五年九月改正

電信局

十二年十月御布告第四十五號

本年一月露西亞國聖彼得爾堡ニ於テ萬國電信盟約ニ加入シ別冊條約書調印交換相濟候條此旨布告候事

萬國條約書 (畧之)

十五年八月工部省告示第十五號

官用ニ係ル各國立銀行ノ暗號私報ハ其ノ官廳ノ主任者又ハ郡區長ノ証印アル者ハ官報ト見做シテ取扱フヘシ 右告示候事

十六年二月御布告第五號

水底電信線路ニ於テ投錨漁業採藻等ノ禁ヲ犯ス者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス 右奉勅旨布告候事

萬國條約書

官報ト見做ス電信

水底電信線ノ件

不開港場規則難船救助心得方等ノ條目別紙彫刻ノ通被仰出候間此旨相達候事

○津港之部

三年二月廿九日御布告

別紙

不開港場規則難船救助心得方等ノ條目別紙彫刻ノ通被仰出候間此旨相達候事

○外國貿易之儀ハ神奈川港ヲ初大阪兵庫長崎新潟箱館六ヶ所御取開相成候上ハ諸商賣トモ右場所ニ於テ取引可致處不開港場ニ於テ密商致シ候哉ノ趣相聞以之外ノ事ニ候右ニ付テハ先達御布令之趣モ有之御條約面ニモ明細ニ掲載致シ有之儀ニ付向々チイテ厚可相心得筋ニハ候得共津々浦々邊鄙之場所ニ至リ候テハ取計方不相辨者モ可有之或ハ難船救助之筋モ入出シ難船人ヘ對シ不親切之取扱致シ候テハ御交際上ニ差響候儀ニ付夫是以今般猶又廉々別紙之通心得方被仰出候依テハ府藩縣オイテ取締不行屆其上土民共外國人ヲ引入レ内密ニ賣買致シ候節ハ假令其事不仕遂候共當人并其支配タル者マテ急度御咎可被仰付候尤吟味ノ上其土地管領ノ者同意致シ居候歟又ハ心得ナカラ見通シ候儀相知レ候節ハ猶更嚴重御處分可有之候ニ付向々オイテ取締之儀猶一層行届候様可致候事

一 外國人之儀自己相對チ以テ雇入候儀不相成趣ハ兼テ御布令之通ニ候得共諸學科又ハ國地開發或ハ西洋形之船々運用筋ニ付相雇度モノハ其次第ニヨリ御間届可相成候間給料年限等取極其筋々ヨリ書面ヲ以テ東京外務省ヘ可願出其上御印章御渡可相成候尤御印章所持ノ外國人ハ何レノ向ニテモ御國人同様相心得無隨意接對シ無差支通行セシムヘシ候尤諸場所ニテ右御印章相改可申萬一右御印章所持致サ、ル外國人有之節ハ御許容不相願私ニ雇入候筋ニ付内地通行不相成儀ハ勿論竊ニ隱シ置相顯ル、ニ於テハ急度御沙汰之品モ可有之問心得違無之様可致事

午正月

太政官

追而別紙條目之儀ハ外務省ニ摺モノ有之候間不足ノ向ハ何部ニテモ同省ヘ申立可受取

○津港

候事

不開港場取
候心符方規

不開港場取候心符方規則

○何レノ濱邊又ハ港浦於テ西洋形ノ船入津候ハ、時刻ヲ移サズ直轄役人（役人不居合場所ハ村長ノ内ヨリ可罷出事）其船（乗込）入津ノ趣意可相尋事（言語不通ニテ十分難相分儀モ可有之候ヘハ初テ來ル外國船ハ故ナク入津イタシ候儀甚少ク候間其大意丈テ和語手眞似ニテ相分可申事）○尋問ノ上薪水食料ニ盡キ其品々ヲ求候タメ入津ノ儀ニ候ハ、其土地ヨリ横濱兵庫長崎新潟箱館迄ノ里數ヲ勘辨イタシ格別遠路ニモ無之候ハ、右品々々リトモ前文開港場ノ内ハ參リ可受取旨申サトシ渡方ヲ斷リ可申或ハ右開港場へ七八十里又ハ百里モ遠キ場所ニ候ハ、無餘儀事ニ付其土地支配ニテ承届候上右里數テ計リ船中人數相當ノ分丈渡遣シ代金可受取事（但金高品數ハ勿論船ノ碇日數刻限等委細相認届出可申事）○其船之國名船名船主ノ名書付ニテ承リ糺スヘキ事（但船名ハ多ク船ノ艦ニ横文字ノ楷書ニテ認有之モノニ付右字樣寫取置ヘキコ）○船ニ引上ケ有之國旗并船主ノ旗等總テ目印ニ可相成モノハ其雛形寫取可差出事○欠乏ノ品相渡上出帆遅々致シ候様子ニ候ハ、早々出帆候儀催促可致事○御免許ノ上海岸測量ノタメ船ヲヨセ候節ハ相當ニ世話イタシ若石隱レ洲有之場所等差示可遣尤御免許ノ船ハ其印狀必ス所持致シ居候事○軍艦ニ候哉商船ニ候哉蒸氣船風帆船共總テ船形大小トモ取糺相届可申事○軍艦ニ候ハ、大砲ノ備有之商船トハ船形相違ニ付假令見ナレサル者ニテモ相知レ可申軍艦ハ別テ何事モ禮義ヲシ不敬ノ取扱イタサ、ル様可心掛候事○薪水食料等船中必要ノ品ノ外餘分ハ勿論其外土正地產物類相求度旨申立候共一切賣渡候事不相成方一利慾ニ迷ヒ賣渡シ候者有之後日相顯ル、ニ於テハ吟味ノ上屹度御答可有之ノ事○船中積載有之品々彼方ヨリ賣渡度段申立候ハ買求候儀是又一切不相成方一竊ニ取引イタシ候節ハ前同様御答可有之事○濱邊ニ近キ村里ノ者共其濱邊ノ者共内々外國人ト荷物ノ取引イタシ候様子ニ候ハ、其支配カ又ハ

不開港場へ可申立時宜ニヨリ御賞可有之事○難船ニ無之食料欠乏等ニ托シ密商仕向候節ハ定テ其土地ニモ右ヲ呼返候者可有之速ニ探索ノ上彌密商イタシ候ニ相違無之候ハ、雙方トモ差押外國人ハ引留置御國人ハ入半手鎖等其土地相當ノ仕置ニ致早々申立指圖可受尤横文字ノ書付類後日ノ證據ニ可相成品々ハ始末致シ可置事（但各國御條約書ニ何レモ外國人共日本不開港場等へ參リ密商シ或ハ密商ヲ企ント致候者ハ其犯セル度毎ニ其品取上ケ爲過料メキシコトルラルニテ千枚ニ當候程御取立相成候間御國人ニ於テモ右同様ノ企致候者於有之ハ兼テ御布告ノ通其品取上ケ過料トシテ金千兩御取上ノ事○御國人買求候西洋形商船ニ外國人乘組居方一商賣取引等致シ度段申立候カ或ハ其乘組御國人手引ニテ商賣致候様ニ相見候ハ、篤ト様子ヲ探索致シ嚴敷拒絕可致方一仕逐候跡ニ候ハ、其事實穿鑿ノ上早々其筋へ可申立事（但本文西洋形商船ニ不限御國通例ノ地乘船ニテ西洋人乘組居候節モ同様ノコ）○外國船ヲ御國人トモ借受開港場へ荷物運輸ノ儀ハ願ノ上御開届可相成筋ニ候ヘ共不開港場へハ決テ御開届無之儀ニ付万一不長ノ徒村民ヲ欺キ御免許受候ニ付賣買致度杯ト申唱候ハ一切差許申問敷事（地方儀儀等ニテ不得止外國船相雇不開港場へ相廻リ候事御免許無之筋ニモ無之其節ハ府藩縣ノ知事ヨリ其沙汰可有之且乘組人ノ内開港場ノ役人爲取締立會居候筈ニ付事實突留候上其取扱ニ可及事）○湊へ碇泊イタサズ沖繫リ又ハ其近海ニ於テ雙方ノ船出會致密商候様子ニ候ハ、是又早々穿鑿可致事○不開港場へ外國商船碇泊致シ薪水食料而已賣渡候儀ニテ聊カ心障リノ事無之トモ其都度相届可申事

難船救助之事

○難船ニテ困苦ノ体ニ相違無之節ト其困苦ノ輕重ニ隨ヒ相當ニ扶助イタシ可遣事（但船ニ乘組居リカタクキ程ニ候ハ、其海岸最寄寺院也民家也可然場へ止宿爲致食料衣服等迄仕賄可遣事）○船ノ修復ニ取掛リ候ハ、鍛冶大工職其他入夫ハ勿論器財迄用意致シ可遣事

○津港

○乘組人ノ内溺死ノ尸有之歟或ハ滞留中病死ノ者埋葬ノ儀申立候ハ、墓所ノ内都合ヨキ場所へ埋葬可爲致事○洋中ニ於テ大船破損シ乘組外國人ノ内猶船具等ニ取付生殘リ居候体見當候ハ、早々我船へ助ケ載開港場へ送届候歟又ハ其土地支配ノ者へ引渡其支配ノ者受取海陸便宜ヲ見計開港場へ可差送事○難船漂着候ハ、早々外務省歟又ハ開港場ノ内可成里數近キ所へ晝夜ニ不限注進ニ及其掛リ官員ノ出張ヲ申立差圖可受事○難破イタシ船難用立陸路ヨリ開港場へ罷越度段外國人ヨリ願出候ハ、承届附添ノ者可成餘計ニサシ出最寄ノ開港場へ可送届事○困難ノ船隱ノ洲等ニ乘懸ケ難引出其儘船主引拂候節ハ右船洋又ハ鐵具碇鎖等迄沈没之マ、追々流失候トモ又ハ村方ニテ取捨候トモ向後異存ナキ旨外國人ヨリ横文ノ書面取置可キ事○難破ノ船洋其マ、差置外國人ハ一日引拂追々右船引出シ方トシテ再可差越候ニ付其間船其外ノモノトモ預リ置ク候様外國人ヨリ相頼候トモ容易ニ引受申問敷彼方ヨリ遮而申立候ハ、其筋へ伺ノ上可引受勿論入費可相掛儀ニ付右賃銀受取候儀ハ不及申跡々ニテ異論不差起様何事ニモ書面可取置事○沿海地方ニ於テ外國船困難ノ節救助方ニ付山費ノ儀ハ總テ其船主ニ屬シ相當ニ候エトモ船主ニ屬ス可ラサル部分於有之ハ内譯精細區分致シ其地管轄ノ府縣廳ヨリ官費ヲ以テ仕拂候事ト相心得船主へ談判致シ船主ヨリ相當償却高ノ外尙不足ノ殘額ハ内譯精細書相添管轄府縣ヨリ大藏省へ申出處分テ可受候或ハ船主ノ自費ト地方廳ノ官費ト區別判然致サ、ル分ハ暫ク官費ヲ以テ操替置船主滞留中ナラハ其趣船主へ心得置セ若シ船主其他乘組ノ者既ニ困難場引拂後ナル時ハ先以テ最寄開港場ノ府縣長官へ照會シ同所長官ヨリ其旨船主又ハ船主管轄ノ領事へ申入置セ而後右區分ノ見込外務省へ申出何分ノ指揮ヲ受ク若シ船主ヨリ受取ルへキ分本人持合セ無之候ハ、證書取置是又前文同様開港場ノ府縣長官へ可相廻事○難破ノ船具又ハ沙滯ノ荷物或ハ船洋等賣拂度旨外國人ヨリ申立候ハ、右ハ相當ノ價ヲ以買求候儀不苦尤其段可相届事○難船ニテ永々滞留可相成様子ニ候ハ、府藩縣トモ其筋ヨリ警

外國形日本
船出入税
未納内貨
物回漕規則

衛ノモノ可差出事○乘組人無之西洋ノ難破船海岸へ漂着候ハ、其様子委細ニ可相届事○總テ外國人ニ取引致候勘定書或ハ證書ノ類ニ至迄和文ニテハ難用立候ニ付彼國ノ文字ニテ爲相認書キ判又ハ調印爲致置ヘシ和文ニテハ後日ノ證ト難相成候此方ヨリ可差出證文等有之候ハ、和文ニ相認右へ調印イタシ可差出彼方ヨリ望候トモ意味不相知西洋文へ調印ハ勿論名而認職候儀不相成被欺候儀有之候トモ後ニ其詮無之事ト可相心得候事
八年二月御布告第二十號

外國形日本船輸出入税未納内外貨物回漕規則別冊ノ通相定本年四月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

外國形日本船輸出入税未納内外貨物回漕規則

○第一條 日本郵船會社其他日本船ニテ日本沿海回漕免許ヲ得タル外國形船舶ニ限リ自今國內各開港場間ニ輸入税未納ノ外國貨物并ニ貨主外國人ニテ輸出税未納ノ内國貨物回漕差許候就テハ從來内外交渉密賣買ノ儀ハ嚴禁ノ處尙右ニ類スル所業有之候テハ不相濟儀ニ付回漕規則ヲ設ルノ左ノ如シ○第二條 凡外國形ノ日本船舶ハ都テ出入港手數并ニ諸貨物船積卸共各開港場ニオイテハ税關ノ所轄トス○第三條 前條ノ船滞港中ハ税關ヨリ監吏乘勤スヘシ○第四條 前條ノ船貨物ヲ積積或ハ船卸スルハ日出ヨリ日没迄ニ限ルヘシ若シ夜中積積カニ貨物ヲ積卸スル時ハ其現品ヲ沒收シ且其品價同額ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ(但日没ヨリ日出迄ハ船中ノ艙口ヲ固封シ置ヘシ若シ勝手ニ開封スル時ハ其船長或ハ其會社ニ金六拾圓ノ罰金ヲ課スヘシ)○第五條 甲港ヨリ乙港ニ回漕スル前條ノ船ニ未納税内外貨物ヲ積入レ乙港ニ輸送セント欲スルハ其貨主或ハ其引受人ヨリ差出書(各税關ニ用ル積送差出書式)ニ貨物ノ品種箇數記號番號元價等詳細相認メ積送ノ儀税關へ願出貨物檢査済ノ上積送免狀ヲ受ケ積入ルヘシ若シ此手數ヲ經スシテ積入ル、トハ其現品ヲ沒收ス故ニ其船長或ハ會社タル者ハ必ス右免狀ヲ點視シ之ニ照

○津港

シテ其品ヲ積入ル、ヘシ若無免狀ノ貨物ヲ船積セハ事ノ成否ヲ問ハス其會社或ハ其船長
 へ其品價同額ノ罰金ヲ課スヘシ○第六條 甲港ニ碇泊スル外國船ヨリ都合ニヨリ直ニ貨
 物ヲ船移シ乙港ニ積送ラント欲スルハ其貨主或ハ其引受人ヨリ船移回漕ノ差出書（
 各稅關ニ用フル書式）ニ貨物ノ品種箇數記號等詳細相認メ船移ノ儀稅關へ願出右免狀ヲ
 受ケ船移スヘキ儀ナレハ其船長或ハ會社タル者ハ右免狀ヲ點視シ之ニ照シテ其品ヲ船積
 スヘシ若シ無免狀又ハ免狀外ノ貨物ヲ船移スルハ其現品ヲ沒收シ且其品價同額ノ罰金
 ナ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ○第七條 前條ノ船積ヨリ輸出稅未納內國貨物ヲ外國船
 へ積移スルヲ許サス若シ密ニ之ヲ船移シ又ハ船移シセント謀ラハ事ノ成否ヲ問ハス其
 貨物ヲ沒收シ且其會社或ハ其船長ニ其品價同額ノ罰金ヲ課スヘシ○第八條 前條ノ船積
 物積入ノ甲港ヲ出港セント欲スルハ其船長或ハ其會社ヨリ第一號ノ如ク積送貨物ノ總
 目錄二枚（一枚ハ甲港稅關へ置キ一枚ハ乙港稅關へ送達ス）ヲ認メ稅關へ差出シ出港免狀
 ナ受ケ出港スヘシ若シ此手續ヲ經スルハ出港スルルハ總目錄ニ記載スヘキ品價同額ヲ罰金
 トシ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ但該船ハ出港前一時帆船ハ出港前二十四時ヲ隔テ此手
 數ヲナスヘシ○第九條 前條ノ船積ヨリ乙港ニ通航中風順ニヨリ其港開場へ入津スル
 トモ輸入稅未納ノ外國貨物或ハ貨主外國人ニシテ內國品ヲ船積スヘカラス若シ船積スル
 片ハ密商スルト否トヲ問ハス其現品ヲ沒收シ且其品價同額及ヒ金一千圓ノ罰金ヲ其船長
 或ハ其會社ニ課スヘシ○第十條 前條ノ船積ヨリ入港セハ其稅關へ第二號書式ノ如ク未
 納稅内外貨物ノ輸入總目錄一通ヲ差出スヘシ尤此手續ハ入港下碇後休日ヲ除キ四十八時
 間ニ爲スヘシ此時間ヲ過ルルハ一日毎ニ金六十圓ノ罰金ヲ課スヘシ○第十一條 前條ノ
 輸入貨物總目錄中若シ脫誤アルヲ覺知セハ休日ヲ除キ廿四時間ニ更正スルヲ得ヘシ若
 シ此期限ヲ過キ更正スルハ金十五圓ノ罰金ヲ課スヘシ○第十二條 前條ノ輸入貨物總
 目錄ヲ甲港ヨリ已ニ回達アリシ積送貨物總目錄ニ照會シ過不足アルハ其事由ヲ糾明シ

條理判然セサレハ不足ノ貨物ハ甲乙兩港間ニ於テ密商セシ者ト看做シ其品物同價ノ金額
 并ニ金一千圓ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ若シ貨物過ナルハ其現品ヲ沒收シ
 且其品價同額ヲ罰金トシ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ○第十三條 前條ノ船入港手續ノ
 上未納稅内外貨物ヲ陸揚スル時ハ其貨主或ハ其引受人ヨリ差出書（各稅關ニ用ル輸入書
 式）ニ貨物ノ品種箇數記號番號元價等詳細相認メ陸揚ノ儀稅關へ願出貨物檢査濟ノ上陸
 揚免狀ヲ受ケ陸揚スヘシ若シ無免狀或ハ免狀外ノ貨物ヲ船積セハ事ノ成否ヲ問ハス其貨
 物ヲ沒收ス故ニ其船長或ハ會社タル者ハ右免狀ヲ點視シ之ニ照シテ其品ヲ船積スヘシ若
 シ無免狀或ハ免狀外ノ貨物ヲ船積シ若シハ船積シント謀ラハ事ノ成否ヲ問ハス其會社或
 ハ其船長へ其品價同額ノ罰金ヲ課スヘシ（但外國貨物ハ輸入稅上納ノ上陸揚免狀ヲ受ケ
 陸揚スヘシ）○第十四條 前條ノ船積便利ニヨリ此規則ニ關係スル貨物ヲ互ニ船移スル
 時ハ稅關へ願出免狀ヲ受ケヘシ若シ無免狀又ハ免狀外ノ貨物ヲ船移スル時ハ其現品ヲ沒
 收シ且其品價同額ヲ罰金トシテ雙方ノ船長或ハ雙方ノ會社ニ課スヘシ○第十五條 各港
 稅關ハ祝日祭日及ヒ日曜日ヲ除ク外毎日午前十時ニ開キ午後四時ニ閉スヘシ故ニ此規
 則ニ揭示シタル時限ト稅關ノ開閉時限トヲ計リ以テ其期限ヲ愆ルヘカラス○第十六條
 此他會社或ハ船長タル者貨主又ハ代人ニ與スルト否トヲ問ハス故ラニ稅金ヲ脱セント謀
 リ若シハ其他諸般ノ方畧ヲ以テ脫稅ヲ謀ル者アレハ金一千圓ヨリ多カラサル罰金ヲ課ス
 ヘシ若シ其事過失ニ出テ犯則ニ涉ル者アレハ此規則ニ照シテ罰スヘシ○第十七條 總テ
 事犯則ニ涉ル者其二犯俱發スル者ハ重キニ就テ處分スヘシ○第十八條 若シ此規則ヲ變
 更スルコトアレハ一箇月前之ヲ布告スヘシ 目錄書式（卷末ニ載ス）
 八年四月御布告第六十七號
 內國船難破及ヒ漂流物取扱規則別冊ノ通相定候條本年六月一日ヨリ施行可致此旨布告候
 事

内國船難破及漂流物取扱規則

○第一條 諸通船海上又ハ川筋ニ於テ難破沈没其他ノ災厄ニ逢ヒ候節救助心得方及ヒ之ニ屬スル諸費用ノ立方ハ總テ左ノ箇條ニ從テ取扱フヘシ○第二條 各地浦方ニ於テ難破救助ノ爲メ其管轄ヨリ區戸長其他用掛リ等ノ内ヲ以テ適宜ニ浦役人ヲ申付置クヘシ○第三條 諸通船難風ノ爲メニ困難シ又ハ其他災厄ニ罹リ候節ハ最寄ノ者見附次第直チニ浦役人ニ報知シ且ツ浦役人ヨリ指圖無之モ速カニ助船ヲ出シ救助方精々盡力致スヘシ(但シ救助ノ者困難船ニ漕寄セ候節船長其他重立ケル者ヨリ頼談無之内ハ狼リニ船中ノ物品ヲ積移ス可カラス)○第四條 浦役人ハ難船ヲ見附或ハ其報知ヲ得ル時ハ速カニ其乗組人及ヒ船体積荷ヲ救助保安スルノ手立ヲ盡ス可シ若シ多人數ヲ要スル程ノ大難船ト見受け候節ハ板木半鐘等打鳴ラシ人数ヲ呼聚メ且近隣ノ船持ニ申付助船ヲ出サシムヘシ○第五條 少人数ニテ救助シ得ヘキ時ハ勿論前條ノ如ク多人數ヲ要スル程ノ大難船ノ節モ浦役人ニ於テ諸事取締ヲ付ケ成丈ケ失費掛カラサル様篤ク注意致シ救助方行届候ハ、早速人数ヲ退散セシム可シ○第六條 保安シタル船具積荷其他ノ物品ハ最安全ニシテ且便利ノ場所ニ之ヲ置クヘシ尤小屋掛クテ要シ番人ヲ差置クヘキ程ノ場合ニ於テハ夫々其手數ヲナシ諸事懇切ノ取扱ヲ致スヘシ○第七條 難破ニ逢ヒタル船長又ハ乗組ノ者ハ上陸次第直ニ電信郵便其他ノ急報ヲ以テ之ヲ船主又ハ荷主ニ報知スヘシ○第八條 難船物ヲ保安スル者ハ左ノ割合ヲ以テ保安料ヲ遣ハス可シ

第一 海面ニ漂流スル物品ハ其廿分
第二 海中ニ沈没スル物品ハ其十分一
第三 川面ニ漂流スル物品ハ其十分一
第四 川底ニ沈没スル物品ハ其十五分一

但其所持主ノ都合ニ因リ代價又ハ現物ニテモ妨ケナシ

○第九條 浦役人ハ救助ノ爲メ築マリタル人数及ヒ救助ノ爲ニ出シタル小舟現ニ難船品ヲ保安シ及ヒ是レニ就テ盡力シタル證據顯然タラサルニ於テハ保安料及ヒ其他ノ賃錢等ヲ割渡スヘカラス○第十條 保安シタル物品又ハ船滓等ノ餘殘物又ハ沙入り水濡レ等ノ爲ニ腐敗スヘキ恐レアルモノハ二名以上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上其所ニ於テ之ヲ入札拂ニ爲スヲ得ヘシ(但本條ノ場合ニ於テハ浦役人ニテ成ルヘク丈ケ最寄ヘ廣告シ公ケノ場所ニ於テ入札人其他衆人ノ眼前ニテ之ヲ爲シ且其物品ノ目錄及ヒ買人ノ證書并ニ其附直段ノ第三番迄ヲ取置クヘシ)○第十一條 保安物ヲ賣拂タル片ハ其代價金高ノ内ヲ以テ左ニ掲載シタル諸費用ヲ其船主荷主ヨリ出サシムヘシ

- 第一 保安料
 - 第二 救助ノ節働人足賃及小船賃
 - 第三 保安物ノ爲メニ取設ケル小屋掛ケ入費及ヒ番人ノ賃錢
 - 第四 乗組ノ者怪我人有之節其療養入費
 - 第五 同前ノ者溺死スル片其搜索入費
 - 第六 同前ノ者溺死ノ節埋葬入費
- 若シ物品前拂金高諸費ノ高ヨリ少キ片ハ其金高限リ出サシメ不足ノ分及ヒ賣拂フヘキモノモ之レナキ片ハ第十五條ニ照準シテ處置スヘシ○第十二條 左ニ掲載シタル諸入費ハ之ヲ三分シ其二分ハ船主荷主ヨリ出サシメ其一分ハ之ヲ其管内民費トナスヘシ
- 第一 難船取扱中浦役人ノ日給
 - 第二 浦方ニ於テ難破ノ爲ニ費タル薪炭蠟燭及ヒ筆墨紙代
 - 第三 浦方ヨリ管轄其外等ヘ發シタル電信郵便及飛脚賃
 - 第四 救助人溺死シタル時其搜索入費
 - 第五 同前ノ者死傷スル時治療埋葬入費

○第十三條 難破ノ節浦方ヨリ乗組人ニ給セシ衣服食物其他ノ必要品代料又ハ歸郷旅費等ヲ貸遣シタル時ハ證書取置キ第十九條ノ通り精算書中ニ記載シ追テ本人ヨリ償却セシムヘシ

○第十四條 大難船ノ節諸費用割賦ノ儀(船体皆破沈没乗組人ノ死去及積荷ノ大損害ヲ生シ荷主船主立會決算ヲ要スル等ノモノ)現場ノ救助方ヲ除クノ外各般ノ處置ハ其管應ニ申立テ其筋出張官員ノ差圖ヲ受クヘシ尤小難船ノ處置ハ二名以上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上之ヲ決スルヲ得ヘシ

○第十五條 船体積荷ヲ併セテ悉皆沈没ニ至ルノ大難船ハ浦方ニ於テ其救助ノ爲ニ許多ノ雜費相掛リ候ニ船主荷主ヨリ之ヲ取立ルヲ得ス其差出スヘキ費用ノ分ハ官費ヲ以テ支給スヘキニ付費用明細帳ヲ作り浦役人船長連署押印シ管應ニ差出スヘシ

○第十六條 危難ヲ冒シテ乗組人ノ必死ヲ救フ者又ハ救助ノ爲メ盡力シテ死傷ニ至ル者ノルキハ必ス管應ニ届出ヘシ其事實ノ輕重ニヨリ相當ノ賞與或ハ手當金ヲ給スヘシ

○第十七條 總テ浦役人及船長合議ノ上處置シタルキハ其事柄ヲ詳細ニ記シタル證書二通ヲ作り之ニ連署押印シ其一通ヲ船長ニ渡シ他ノ一通ヲ浦役人ニテ保テ置クヘシ

○第十八條 二名以上ノ浦役人合議ノキハ其内一名ハ必ス他村ヨリ出スヘシ

○第十九條 難船救助ニ属スル諸費用ハ二名ノ浦役人及船長其他重立乗組ノ者二名以上立會ノ上第十一條第十二條第十三條第十五條ニ照ラシテ夫々其費用ノ種類ヲ區別シ成ルヘク速カニ精算書ヲ作り之ニ難破明細書ヲ添テ管應ニ差出シ其檢査ヲ受クヘシ(但精算取調ノ節ハ成丈ク船主又ハ荷主ノ立會ヲ要スヘシ)

○第二十條 前條ノ精算書ハ管應ニ於テ速カニ調査ヲ遂ケ不審ノ處無之キハ早速下ケ渡スヘシ然ル上浦役人ハ第十五條ニ記スル場合ヲ除クノ外船主荷主或ハ船長ヨリ夫々出金致サスヘシ若シ其即時辨金相成難キ分ハ相當ノ日數ヲ猶豫スヘシ(但民費ノ分ハ其管應ヨリ取立浦役人ニ下渡スヘシ)

○第二十一條 洋中ニ於テ難破或ハ打荷等有之趣ヲ以テ浦證文ヲ願出ル時ハ二名以上ノ浦役人立會ノ上船長及乗組ノ者二名以上ヲ別々ニ取調ヘ其實跡アルカ又

ハ航海日記アルモノハ之ニ照シ各々符合スルキハ浦證文ヲ作り連署調印シテ之ヲ船長ニ付與シ寫ヲ以テ管應ニ届出ヘシ(但浦證文中左ノ箇條ヲ載スヘシ)

第一 難破ニ逢タル場所其時日及ヒ風波ノ模様

第二 破損ノ箇所

第三 打荷ノ種類箇數并他ノ積荷ノ種類

第四 船號及免狀ノ番號并船主船長ノ本貫苗字名乗組人數

第五 打荷シタル荷物主ノ苗字名本貫

第六 仕出シ地及ヒ仕向ケ地ノ港名

第七 乗組ノ内死傷有之キハ其本貫苗字名年齢

○廿二條 軍艦其他ノ官有船難候節ハ早速助船ヲ出シ精々盡力ノ救助スヘシ且其難破ノ大小ニ拘ハラズ其旨ヲ直ニ管應ニ報知スヘシ

○廿三條 前條ノ救助ニ属スル諸費用ハ船將又ハ其筋ノ士官ヨリ直ニ受取ルヘシト雖モ總テ管應ノ指揮ヲ受クヘシ(但第十一條ニ記載スル保安物ニ就テハ別段相當ノ手當ヲ與フヘシ)

○廿四條 貢米及ヒ其他ノ官物ヲ積入候難破ニ及候節現場救助ヲ除クノ外總テノ處置ハ管應ニ申立ノ上其指揮ヲ受クヘシ(但郵便物ヲ積込候船ハ其最寄郵便役所又ハ取扱所ニ郵便行囊ヲ至急引渡スヘシ)

○廿五條 難船取扱ノ間浦役人ノ日給ハ一日五拾錢ヨリ多カラス拾錢ヨリ少ナカラサルモノトス 難破ノ節働人足賃及ヒ小舟賃ハ土地ノ異同ト勞役ノ難易ニ依リテ同シカラスト雖モ各管應ニ於テ適宜見積リ豫カシメ其額ヲ定メ置クヘシ

○廿六條 船長及ヒ擔任ノ者怠慢ニヨリ難破沈没其他ノ損害ヲ生スル時ハ右損失ヲ其者ヨリ償却セシムヘシ若シ其災厄人智ノ前知スヘカラス人カノ豫防スヘカラスルニ出ルヲチ瞭然明證スル時ハ此限ニアラス

○廿七條 浦役人船長其他救助ノ者ト申合セ其保安シタル難船物ヲ沈没ト偽リ竊ニ賣買スル者ハ律ニ照シテ處分スヘシ

○廿八條 凡テ難船ノ節救助ニ托シ

テ積荷船具其他ノ物品ヲ竊盜或ハ掠奪スル者又ハ其竊盜掠奪ニ與スル者或ハ其本犯ヲ陰匿スル者又ハ竊盜物ト知テ之ヲ賣買スル者ハ律ニ照シテ處分スヘシ○第廿九條 (以下漂着ノ部) 凡原因ノ知レサル難船漂着物及ヒ乘組人ナキ漂着船ヲ見附ル者ハ之ヲ浦役人ニ報知スヘシ浦役人ハ其調書ヲ作り之ヲ其管廳ニ届出ヘシ○第三十條 乘組人ナキ船ハ其漂着ノ月日船ノ大小破損ノ模様等ヲ精細ニ書記シ漂着物ハ其品名箇數等精細ニ書記ルシ其漂着近傍人民輻湊ノ地ノ揭示場及ヒ船政所ヘ六十日間張出スヘシ尤漂着物ノ代價廿圓以上ト思量シ或ハ貳拾圓以下トリ必要ノ品柄ト思量スル時ハ其管廳ヨリ三府五港ノ管廳及ヒ税關ヘ報告シテ張出ヲナシ或ハ新聞紙ニ載セテ報告スヘシ○第卅一條 漂着物ノ持主知レタル時ハ左ノ區別ニ循ヒ處置スヘシ(第一) 一ケ年以内ハ其見積代價ノ三分一ヲ取揚主ニ與ヘ其現品ハ持主ニ返還スルヲ但持主ノ情願ニヨリ現品賣拂ヒ其代金ニテ受取ルヲ得ヘシ(第二) 一ケ年ヲ過クシテハ之ヲ公賣シ其代價ヲ平分シ一半ハ其取揚主ニ與ヘ一半ハ官ニ收ムルヲ但三ケ年以内ニ其持主知レタル時ハ官ニ收メシ部分ハ下戻スヘシ)○第卅二條 乘組人無之漂着船ノ持主知レタル時ハ左ノ區別ニ循ヒ處置スヘシ(第一) 一ケ年以内ハ其見積ノ十分一ヲ見附主ニ與ヘ其船ノ持主ニ返還スル事但書ハ前條第一項ニ同シ(第二) 一ケ年ヲ過クシテハ之ヲ公賣シ其代價ノ三分一ヲ見附主ニ與ヘ其餘ノ二分ハ官ニ收ムルヲ但書ハ前條第二項ニ同シ○第卅三條 前二條ニ記スル場合ニ於テハ律例得遺失物ノ條ト抵觸スルヲナカル可シ○第卅四條 凡漂着物ヲ保存シ及ヒ之ヲ公告スル等ノ事ニ付費用アルモノハ第十一條ニ照シ浦役人ノ與印シタル證書ヲ以テ代價ノ全部中ヨリ之ヲ償却スヘシ○第卅五條 洋中ニ於テ難破イカシ桅樁其他ノ船具ニ取附キ海岸ニ漂着致候者有之節ハ浦役人ヨリ一通リ取調ヘ相當ノ保護ヲ加ヘ置直チニ管廳ニ届出其指揮ヲ受クヘシ尤本人歸郷ノ旅費其他ノ手當等貸遣ハシ候節ハ第十三條ノ通り追テ本人ヨリ償却セシムヘシ○第卅六條 凡漂着物ヲ見附ケタル者之ヲ浦役人ニ報知ス

西洋形日本船各開港場出入規則

ルヲナク其物品ヲ私ガニ使用シ又ハ之ヲ賣買スル者ハ第二十八條ニ照シテ處分スヘシ○第卅七條 暴風雨等ニテ流失ノ材木ヲ取揚クル者ハ此規則第二十九條以下ニ照準シ其代價拾分ノ一ニ過キサル取揚料ヲ遺スヘシ○第卅八條 前條ノ場合ニオイトテ取揚タル材木巨大ニシテ領置ニ不便ナルモノハ官之ヲ公賣シ其代價ヲ以テ現物ト看做シ材主ノ有無ニ從ヒ處分スヘシ

八年十一月御布告第百六十三號

明治七年十一月第百廿三號布告國內回漕規則來ル十二月一日ヨリ當分停止シ西洋形日本船各開港場出入規則別紙ノ通相定右同月同日ヨリ施行候條此旨布告候事

西洋形日本船各開港場出入規則

○第一條 凡西洋形日本船ハ蒸氣風帆ノ別ナク横濱神戸大坂長崎箱館新潟ノ六港ニ入津スルトハ其投錨時刻ヨリ十二時間ニ第一號書式ノ通其港税關ニ届出スヘキヲ(但風潮ノ不順等ニ因リ無餘儀入港シ十二時間ニ出港スル者ハ屆書ヲ出スニ及ハス)○第二條 貨物ノ積卸ハ其港税關ノ免許ヲ受ル後ニ非サレハ一切相成ヲサルヲ○第三條 輸入税未納ノ外國貨物及ヒ貨主外國人ニテ輸出税未納ノ外國貨物回漕ノ儀ハ本年第貳拾號布告前條ニ照シ夫々手數致スヘキヲ○第四條 出港セントスルハ必ス 二時前マテニ第二號書式ノ通税關ニ届出ヘキ事○第五條 出入港ノ届ヲ等閑ニスル者ハ左ノ通科料可申付事

蒸氣船	三百噸迄	金五圓	三百噸以上三百噸毎	ニ五圓ヲ加フ
風帆船	三百噸迄	金三圓	三百噸以上三百噸毎	ニ三圓ヲ加フ

書式 (卷末ニ載ス)

六年六月御布告第百二十號

內國人民一般并御雇外國人ニ至ル迄海關輸出入荷物取扱條例別冊ノ通被定候條此旨相違候事

○津港

海關輸出入荷物取扱條例

○第一條 官省使寮司及府縣官員并留學生徒ニ至ル迄政府ノ命ヲ奉シ海外ニ航旅スル者公用ノ荷物并本人相當ノ旅具ヲ除クノ外輸出入共商品同様一般収稅スヘシ○第二款ニ揭クル官員并留學生徒發着ノ前後輸出入又ハ他邦滯留中送致セル貨物等無稅通關スヘキ旨大藏省ノ證書無之分ハ商品同様一切収稅スヘシ○第三款 華士族ヨリ平民ニ至ルマテ商業或ハ留學遊學等ノ爲メ自費ヲ以テ海外ニ渡航スル者荷物輸出入ノ際本人相當ノ旅具ヲ除クノ外一切収稅スヘシ但相當旅具免狀荷物ヲ定ムルハ稅關官吏ノ意見ニシテ本人之ヲ取捨増減スルヲ得ヘカラス○第四 官省使寮司及府縣ニ於テ雇役ノ外國人自用品其自國又ハ他國ヨリ取寄或ハ御國產ヲ其本國ニ差送ル分トモ自分約定書中自用品無稅通關可指許旨ノ明文無之分ハ輸出入トモ商品同様収稅スヘシ但向後外國人備入ノ節有稅ノ自用品ハ輸出入トモ免稅致スヘキ旨條約面ニ記載スヘカラス○第五 前條ニ揭クル外國人來着又ハ滿期歸國ノ節輸出入ノ荷物本人相當ノ旅具ヲ除クノ外商品同様収稅スヘシ六年八月御布告第二百九十二號

○火藥硝石硫黃ノ類及ヒ發火シ易キ製藥品其他油脂醬液並腐敗シ易キ性質ニシテ他物ヲ損害スヘキ物品船積致シ候時ハ其品名ヲ表包ノ外部ニ書キ記シ或ハ其送狀ニ記載致シ船主船長又ハ運漕會社危險請合會社等ノ承諾ヲ得テ後差出スヘシ若シ其手數無之尋常ノ荷物ト伴リ之ヲ船積致シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以內ノ罰金ニ處スヘキ事○尋常ノ品物トシテ差出シタル荷物ノ内ニ前條ノ如キ危險品可有之ト見受候時ハ船主船長運漕會社危險請合會社ハ何時ヲ限ラズ何地ヲ論セス直ニ發包シテ之ヲ視査スルノ權利可有之事

○火藥硝石硫黃ノ類及ヒ發火シ易キ製藥品其他油脂醬液並腐敗シ易キ性質ニシテ他物ヲ損害スヘキ物品船積致シ候時ハ其品名ヲ表包ノ外部ニ書キ記シ或ハ其送狀ニ記載致シ船主船長又ハ運漕會社危險請合會社等ノ承諾ヲ得テ後差出スヘシ若シ其手數無之尋常ノ荷物ト伴リ之ヲ船積致シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以內ノ罰金ニ處スヘキ事○尋常ノ品物トシテ差出シタル荷物ノ内ニ前條ノ如キ危險品可有之ト見受候時ハ船主船長運漕會社危險請合會社ハ何時ヲ限ラズ何地ヲ論セス直ニ發包シテ之ヲ視査スルノ權利可有之事

（但爲視査發包シタル荷物中ニ危險品無之ハ船主會社等ノ入費ヲ以テ故ノ如ク荷造可致然共其荷ノ中ニ危險品有之ハ是等ノ入費都テ荷主ヨリ可拂事）○此危險品ヲ船積セサル以前運漕會社又ハ危險請合會社ノ倉庫等ニ於テ見出ストキハ之ヲ安全ノ場所ニ移シ置キ直ニ其管轄處或ハ裁判所ニ可届出事（但安全ノ場所ニ之ヲ移スノ入用ハ荷主ヨリ辨償可致事）○此危險品ヲ既ニ船積シタル後ニ見出シ之ヲ安全ノ場所ニ保テ難キハ船中ニ於テ三人以上ノ保證人ヲ立テ之ヲ海中ニ投棄シ若港ノ上直ニ其次第書及ヒ荷主ノ姓名ヲ其地ノ管轄處或ハ裁判所ニ可届出事（但シ投棄シタル荷物及ヒ是ヨリ生スル荷ノ損失ヲ辨償スルニ不及事）○船長及ヒ運漕會社等荷主ト申合此危險品ヲ尋常ノ荷物トシテ船積シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以內又之ヲ見出ストイヘトモ官ニ訴ヘサルトキハ金二百圓以內ノ罰ニ處スヘキ事

十二年一月御布告第五號
自今西洋形商船ハ總テ沿海府縣ノ所轄ニ被附候條來ル七月三十一日迄ニ本船ノ定繫港ヲ定メ其地ノ船積ニ編入致スヘシ
但定繫港ハ船主又ハ本船ノ公務ヲ代理スル者所在ノ地ニ於テ定ムヘシ
右布告候事

八 年十二月御布告第百八十四號
回漕貨物取扱規則
第一條 一週漕貨物ノ荷造リハ濡沾減損或ハ漏脱等ノ難ヲ防クヘキ樣務ヲ堅固ニシテ其品柄又ハ荷造ノ摸樣ニ依リテハ錠鎖或ハ封印スヘシ ○第二條 一穀物鹽類ノ俵物酒醬流液ノ樽物等總テ減損漏脱シ易キモノハ積入ノ時必ス船主貨主ノ間ニ特殊ノ約束ヲ爲スヘシ ○第三條 一船主ハ荷造ノ粗糲ナルカ錠鎖或ハ封印ナキヲ以テ第一條ノ難ヲ防キ難シト思惟スルトキハ貨主ニ其趣ヲ通知シテ之ヲ堅固ナラシメ或ハ錠鎖封印セシメ又第

二條ノ物品ヲ托セラル、其ハ特殊ノ約定ヲ爲スヘキヤ否ヲ訊問スヘシ ○第四條 一貨主ハ第三條ノ通知或ハ訊問ヲ得ルモ之ヲ堅固ナラシメス或ハ錠鎖封印セス又其約定ヲ爲カ、ルハ濡沾減損或ハ漏脱等ノ難ヲ運漕中ニ生スルハ船主ニ對シ其辨償ヲ要スル權利ナカルヘシ ○第五條 一廻漕運賃ハ發船ノ甲地ニ於テ波戸場或ハ船主ノ倉庫船等船主ノ其貨物ヲ受取ルヘキ適當ノ地ト定メタル場所ヨリ着船ノ乙地ニ於テハ波戸場或ハ其船主ノ倉庫等ノ其貨物ヲ引渡スヘキ適當ノ地ト定メタル場所迄ノ運送費ヲ稱スルモノニシテ甲乙地ニ於テ其定メタル場所ノ外ニ取集メ及ヒ配達スルノ費用ヲモ合スルモノニアラス故ニ其取集及ヒ配達ヲモ船主ニ托スルハ貨主ハ廻漕本賃ノ外ニ相當ノ取集及ヒ配達費ヲ拂ハサルベカラス ○第六條 一前條乙地ニ着船スルハ船主ヨリ貨主ニ其貨物ヲ渡スヘキ適當ト定メタル場所ニ於テ何日何時ヲ限リ其貨物ヲ渡スヘキ旨ヲ報告スヘシ若シ貨主ノ都合ニ依リ其時日ヲ過キテ之ヲ受取ラサルハ其後ニ至リ危險損害ヲ生スルモ船主ハ其責メニ任セサルヘシ 但シ其報告スヘキ日時ハ必ラス貨主ノ受取得ヘキ適宜ノ時間ヲ以テスヘシ若シ不適宜ノ時間ヲ以テスルハ之ヲ報告セサルト同般ト做スヘシ然ルハ之ニ生スル危險損失ハ船主ノ責ヲ免ルベカラス ○第七條 一前條ノ如ク其報告時間ヲ過ルハ船主ハ之ニ生スル危險損失ハ其責ニ任セスト雖モ必ス危險損失ヲ生セサル様之ヲ倉庫ニ納メ或ハ番人ヲ附ケ或ハ雨覆等ノ備ヲナシ勉メテ保護ノ手立ヲ爲スヘシ然ルハ相當ノ倉敷料番人賃其他之ニ屬スル費用ヲ貨主ヨリ拂ハシムヘシ ○第八條 一廻漕運賃ハ第五條ニ記載セル甲乙約定地ノ全運賃ナルニ因リ其全運賃ヲ畢ヘサル間ハ貨主ハ之ヲ拂フヲ拒ムノ理アリ又幾百石何千斤ニ付此運賃若干ト約定セシニ其全量中幾分ノ不足ヲ生スルハ貨主ハ其全運賃ヲ拂フヲ拒ミ得ヘシ然レモ其全量幾百俵何千箇ヲ運送セシムルモ其一俵一個ニ付運賃幾許ト約定セルハ其全量ノ如何ヲ問ハス之ヲ受取リタル俵數個數ニ就テ約定運賃ヲ拂ハサルヘカラス又封印ヲ檢シ外包ノ異狀

内國郵船乘組旅行人

西洋形船大小砲ノ設備

ナキテ以テ之ヲ受取後其包中ノ物品ニ不足或ハ損傷アルハ其辨償ヲ船主ニ責ムルヲ得ヘカラス ○第九條 一船主ハ其約定ヲ履テ安全ニ其貨物ヲ運送スルヲ本分ノ義務トス故ニ第一條及ヒ第二條ニ違ヒタル貨物或ハ正ニ請取シ旨ヲ証シタル貨物ノ全量中ニ損害不足ヲ生スル等ノ事アルハ其貨物ノ原價ニ從テ之ヲ辨償スベシ 但シ海上難船ノ災厄ニ罹ルモノハ危險受負法或ハ海上平均法ノ別種ニ屬シテ此限ニアラス ○第十條 一運賃ハ船主貨主ノ協議ニ依リテ甲地又ハ乙地ニ於テ受拂フヘシ然レモ之ヲ乙地ニ於テ受拂フハ其貨物ト引換テ以テスヘシ若シ貨物ヲ受取リタル後其拂方ヲ怠ルハ船主ハ其受取ルベキ貨額ニ對シ相當ノ利息ヲ課シテ要請スルヲ得ヘシ

九年三月御布告第三十一號
内國郵船ニ乘組旅行致シ候者ハ其船長又ハ其所持主ニ於テ航海ノ度毎ニ各人ノ姓名住所並ニ何地迄赴ク旨ヲ詳細ニ登記シ置キ何時ニテモ其筋ヨリ取調候節差支無之様可致此旨布告候事

八年五月御布告第九十八號

海軍官船ヲ除クノ外西洋形船ハ賊難防禦ノ爲メ大小砲設備ノ儀差許候條左ノ通可相心得此旨布告候事

○第一條 海軍官船ヲ除クノ外諸省使府縣所轄ノ西洋形官船並人民所持ノ西洋形商船ハ大砲口徑四寸以內二門小銃三十挺設備スルヲ若シカラス(但船ノ噸數ニ因リ本文ニ掲グル銃砲ノ數ヲ減スルカ又ハ銃砲ノ種類ヲ取捨スルハ其便宜ニ任スト雖モ若シ増置セントスルハ更ニ願出許可ヲ受クヘシ) ○第二條 大砲一門ニ彈藥五拾發小銃一挺ニ同百發ヲ越ユヘカラス ○第三條 船内ニ銃砲ヲ設備スルハ省使ハ正院ニ上請シ府縣ハ內務省ニ申出許可ヲ受クヘシ(但人民所持船ノ分ハ其管轄處ニ願出許可ヲ受クヘシ而シ該處ニ於テハ免許狀ヲ與ヘ其旨內務省ニ届出ヘシ) ○第四條 銃砲ノ設備ヲ許可セシハ其旨海

○津港

軍省へ通知スル事トス尤省使ノ分ハ正院ヨリ府縣並ニ人民ノ分ハ内務省ヨリ通知スヘシ
○第五條 諸省使府縣並ニ人民ニ於テ外國ヨリ買入レノ船並ニ附屬セシ分モ前條ノ手續ニ依ルヘシ
(但銃砲彈藥等買入ル、節ハ明治五年正月第二十八號布告銃砲取締規則ニ從フヘシ)

十三年七月御布告第三十五號

明治七年(一月)第五號布告海上衝突豫防規則別冊ノ通改正シ來ル九月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

海上衝突豫防規則(零之)

十四年五月御布告第三十四號

明治十三年(七月)第三十五號布告海上衝突豫防規則ニ記載シタル橋燈及舷燈ハ農商務省ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス 右布告候事

十四年八月農商務省布達甲第四號

本年五月第三十四號公布相成候ニ付明治九年二月丙第五號内務省達舷燈製造及ヒ販賣規則別紙ノ通改定候條此旨布達候事

船燈製造及販賣規則

第一條 船燈(橋燈及舷燈ヲ稱ス)ヲ製造セント欲スル者ハ先ツ其見本ヲ製シ之ヲ其管轄廳ヲ經テ當省ヘ差出シ製造免許ヲ乞フヘシ ○第二條 當省ニ於テハ其見本ヲ檢査シ製造方法ニ適合セカモノト看認ルルハ製造人ヘ其管轄廳ヲ經テ製造免許鑑札ヲ下附スヘシ ○第三條 製造免許鑑札ヲ得タル者ハ其氏名地名ヲ新聞紙ニテ廣告シ且免許船燈製造所ト記セル看板ヲ掲出スヘシ ○第四條 免許船燈製造人改名又ハ轉籍スルルハ其旨管轄廳ヘ届出ヘシ ○第五條 製造ノ船燈ヘハ何レモ左式ニ準スル文字ヲ彫刻スヘシ

同上規則

船燈販賣規則

海上衝突豫防規則

西洋形船舶普通ノ信號

同上事務内務省ノ管理

西洋形船舶先免狀規則

第何番 何國何郡何地

免許製造人 何 某

第六條 船燈ヲ販賣セント欲スルモノハ何レモ其管轄廳ヘ免許製造人ノ製造セル船燈ヲ販賣シ度旨ヲ申出其廳ノ販賣免許ヲ受ク可シ ○第七條 船燈販賣免許ヲ得タル者ハ舖頭ニ免許船燈販賣所ト記セル看板ヲ掲シ可シ ○第八條 免許ヲ得タル船燈製造人ハ自ラ販賣人ヲ兼ルヲ得ヘシ此場合ニ於テハ別ニ管轄廳ヨリ販賣免許ヲ受ルニ及ハス ○第九條 免許製造人及販賣人ノ員數ハ地方ノ實況ニ應ジ管轄廳ニ於テ之ヲ増減スルヲ得ヘシ ○第十條 管轄廳ニ於テハ船燈製造所及ヒ販賣所ヘ不時ニ吏員ヲ派出シ製造方法ニ照シテ其適否ヲ監査セシム可シ但シ當省主務ノ官吏ヲ派出シテ不時ニ監査セシムルコトアルヘシ ○第十一條 船燈製造方法書ハ商務局ニ於テ刊行シ各地方廳及ヒ免許製造人并販賣人ヘ配付スヘシ

八年九月御布告第四百四十四號

今般御國內西洋形蒸氣帆前船共普通信號費用可致ニ付テハ船名信號符字附點之儀并萬國船舶信號書及信號旗共海軍省ニ於テ可頒布候條右船舶官有私共別冊萬國船舶信號法告翰第三條ニ照準シ其船證書相副同省ヘ可申出此旨布告候事

別冊(零之)

十年二月御布告第三十四號

明治八年九月第四百四十四號ヲ以テ御國內西洋形船舶普通信號等ノ儀及布告置候處今般右事務内務省ヘ令管理候條右關係ノ儀ハ總テ同省ヘ可申出此旨布告候事

十一年十二月御布告第三拾七號

明治九年十二月第五百四十四號布告西洋形船舶先免狀規則別冊ノ通改正候條此旨布告候事

西洋形船舶先免狀規則(零之)

○津港

西洋形商船
海員雇入規
則達

浦役場ノ設
置

海岸燈臺ノ
建築

同上追加

十二年二月御布告第九號

西洋形商船海員雇入雇止規則別冊ノ通相定來ル八月十六日ヨリ施行候條此旨布告候事

九年十二月御達第十七號

從來浦役人ノ名稱有之候得共其時務ノ定限モ無之ニ付自今左ノ條款ニ從ヒ浦役場ヲ設置シ浦役人ヲ命スヘシ此旨相達候事

第一條 浦役場ハ沿海大市及ヒ商船輻湊ノ地ニ於テハ便宜ノ場所ヲ撰テ之ヲ設置スヘシ
第二條 浦役場ハ當分ノ内區務所ヲ以テ代用シ浦役人ハ區長若クハ戶長ニ兼勤申付書記用掛等ヲシテ補助セシムヘシ

五年十月御布告第三百十二號

御國內海岸燈臺建築ノ儀ハ辛未五月中被仰出ノ旨モ有之候處向後内外船舶之航路并開港場ノ標的ヲ除クノ外各地港内其他一隅便利ノ爲メ燈標ヲ設置致シ候儀ハ其地方ニ於テ公私ノ差別ナク便宜次第建築被差許候條願出候向ハ實地ノ摸樣詳細取調繪圖相添ヘ工部省ヘ可申出候尤燈標ノ形質點燈ノ方法ハ御國內齊一ノ規則ヲ以テ施行致シ候條ニ付總テ同省ノ差圖ヲ請可取計事

十六年十二月御達第六拾號

但私費ヲ以テ建築ノ向ハ追テ稅則一定候迄外國船艦ヲ除クノ外出入津船々ヨリ年々其場所相當ノ燈費取立サセ不苦候條右取立ノ方法并ニ金高工部省ヘ可届出事
明治五年(十月)第三百拾二號達但書中一定候迄ノ下(官船及ヒ)ノ四字ヲ追加候條此旨相達候事

商標
標ルノ者心
得

西洋形船々
長運轉手機
關手免狀規
則改定達

商船内犯罪
取扱規則

六年八月御布告第二百九十號

各所設置ノ商標淨標ハ内外航路一般ノ標的ニシテ最モ緊要ナルモノニ候然ルニ漁人等淨標ヘ船ヲ繫キ或ハ商標ノ階梯ニ上リ候者間々有之趣右ハ右等ノ所業ヨリ竟ニ標的ヲ破損シ内外ノ航路者危難ニ陥リ候テハ以ノ外ノ儀ニ付心得違無之様可致此旨布告候事

十四年十二月御布告第七十五號

西洋形船々長運轉手機關手免狀規則別冊ノ通改定來十五年一月一日ヨリ施行シ九年六月第八十二號同年六月第九十四號同年十二月第一百五十三號同年十二月第五十七號十三年十二月第五十八號十四年二月第十三號同年三月第十八號布告ハ同日ヨリ都テ之ヲ廢止ス右奉 勅旨布告候事

十四年十二月御布告第六十五號

西洋形船々長運轉手機關手免狀規則 (畧之)
商船内犯罪取扱規則 右奉勅旨布告候事

第一條 何人タリトモ商船内ニ於テ重罪輕罪アルコトヲ認知シ又ハ重罪輕罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ船長ニ告訴告發ヲ爲スコトヲ得 ○第二條 船長告訴告發ヲ受ケタル時又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ其事件ニ付假ニ訊問檢證ノ處分ヲ爲シ且証憑及事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ集取シ調書ヲ作ルヘシ但調書ヲ作ルコト能ハサル時ハ第三條ニ記載シタル官吏ニ其申立ヲ爲ス可シ 前項ノ場合ニ於テハ立會人二名以上アルヲ要ス
○第三條 船長ハ証憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ取纏メ被告人ト共ニ該船碇泊又ハ着港ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ引渡スヘシ若シ外國ノ港埠ニ着シタル時ハ其地駐劄ノ領事ニ之ヲ引渡スヘシ
十六年二月御達第九號

○津港

明治九年（三月）第三十號（外國船乘込規則）明治十三年（四月）第二十八號達（西洋形船舶届出方）廢止候條此旨相達候事

○賞典之部

八年四月御布告第五十四號
今般賞牌別冊ノ通被定候條此旨布告候事

別冊

詔書（詔勅ノ部ニ在リ）

勳等賞牌

勳等ハ勳績及功勞アル者ヲ賞スル爲メニ設クル所ノ階級ニシテ位階ト異ナル故ニ各種ノ賞牌ヲ佩用セシム

勳一等（右ニ叙スル者ハ一等賞牌ヲ賜フ）

勳二等（右ニ叙スル者ハ二等賞牌ヲ賜フ）

勳三等（右ニ叙スル者ハ三等賞牌ヲ賜フ）

勳四等（右ニ叙スル者ハ四等賞牌ヲ賜フ）

勳五等（右ニ叙スル者ハ五等賞牌ヲ賜フ）

勳六等（右ニ叙スル者ハ六等賞牌ヲ賜フ）

勳七等（右ニ叙スル者ハ七等賞牌ヲ賜フ）

勳八等（右ニ叙スル者ハ八等賞牌ヲ賜フ）

從軍牌

從軍ハ將率ノ別ナシ軍功ノ有無ヲ論セス凱旋ノ後從軍セシ徵ニ之ニ賜フ

一賞牌及從軍牌ハ佩用本人ニ止リ子孫之ヲ用ユルコトヲ得ス

（賞牌）（從軍牌）佩用式

○賞典

一 賞牌ハ勳一等ニ限リ必ス勳二等ノ牌ト共ニ兩箇ノ牌ヲ佩ヘシ其他二等以下ハ一箇ヲ佩ルヲ規則トス譬ヘハ三等ノ牌ヲ佩ル者勳二等ニ叙スルトキハ嘗テ佩ル所ノ三等牌ヲ止メ二等牌ノミヲ佩ルカ如シ

一 賞牌ハ禮服ノキ佩ヘシ平服ニハ佩フヘカラス平服ニハ零綬ヲ左襟見返ノ釦穴ニ掛ケ其表トス

- 一 一等賞牌ハ幅廣キ綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ヘ斜ニ佩フ
- 一 二等賞牌ハ右肋ノ邊ヘ綬ヲ不用針ニテ狹ニ佩フ
- 一 三等賞牌ハ綬ヲ領ニ纏ヒ喉下佩フ
- 一 四等以下賞牌及從軍佩ハ左肋ノ邊ヘ左ニ列シ佩フ

賞牌表圖 (其畧之)

八年十二月御布告第二百號

本年四月第五十四號布告賞牌圖式中ニ掲載セル零綬別紙ノ通被定候條此旨布告候事

別紙 (畧之)

九年十一月御布告第四百一十一號

自今賞牌ヲ勳賞ト改稱シ從軍牌ヲ從軍記章ト改稱候條此旨布告候事

十年十二月御達第九十七號

明治九年中欽定ノ大勳位菊花大綬章大勳位菊花章圖式別冊ノ通ニ候事

從前各種ノ略綬ヲ廢シ更ニ大勳章以下零綬別紙ノ通被定候事

右相達候事 別紙 (畧之)

勳章佩用式

第一章 內國勳章佩帶ノ心得

賞牌及綬ノ定

勳賞ノ改稱

大勳章以下畧

勳章佩用式

○第一款 勳章及從軍記章ハ女官大小禮服武官正服軍服ヲ裝セシト佩フヘシ平服ニハ佩フヘカラス平服ニハ零綬ヲ左襟見返ノ釦穴ニ掛ケ其表トス(但小禮服ニ於テハ時宜ニヨリ勳章ヲ用ヒス略綬ヲ以テ其表トスルモ妨ヤシ)

○第二款 勳一等旭日大綬章ニ限リ旭日重光章ト共ニ兩箇ヲ佩フヘシ勳二等旭日重光章以下ハ各一個ヲ佩ルヲ規則トス譬ヘハ三等旭日中綬章ヲ佩フルモノ勳二等ニ叙シ旭日重光章ヲ賜フトハ嘗テ佩ル所ノ三等勳賞ヲ止メ二等勳賞ノミ佩ルカ如シ

○第三款 勳一等旭日大綬章ハ幅廣ノ綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ヘ斜ニ佩ヒ之レニ屬スル重光章ヲ左肋ノ邊ニ佩フヘシ小禮服ニ於テハ上衣ノ下ニ大綬章ヲ佩ヒ上衣ノ左肋ニ重光章ヲ佩ルヲ例トス小禮服軍服ニ於テハ時宜ニヨリ大綬章ヲ佩ヒス之ニ屬スル重光章ヲ左肋ノ邊ニ佩ルヲ例トス

○第四款 勳二等旭日重光章ハ右肋ノ邊ニ佩フヘシ

○第五款 勳三等旭日中綬章ハ綬ヲ領ニ繞ラシ喉下ニ佩フヘシ

○第六款 勳四等旭日章綬章以下及從軍記章ハ左脇ノ邊ニ左ニ列シ佩フヘシ

第二章 外國勳章ヲ併帶スルノ心得

○第一款 他國ノ大綬章(佛國ノ「ガランクロア」ノ類)ヲ代勳一等旭日大綬章ト共ニ佩ルトキハ他國ノ大綬章ハ佩ヒス之ニ屬スル無綬章(佛語「エトワール」英語「スタイル」ノミ我旭日大綬章ニ屬スル重光章位置ノ下ニ佩フヘシ)

○第二款 他國ノ單用無綬章(佛國ノ「ガランドフヒシエー」ノ類)ヲ我勳二等旭日重光章ノ位置ノ下ニ佩フヘシ

○第三款 他國ノ頸ニ懸ル章(佛國ノ「コンヤンドール」ノ類)ヲ我勳三等旭日中綬章ト共ニ佩ルトキハ我旭日中綬章ノ位置ノ下ニ佩フヘシ

○第四款 他國ノ肋ニ佩ル者(佛國ノ「オフヒシエー」シニウアリエー」ノ類)ヲ我勳四等旭日

○賞典

外國勳章佩用願手續

日小綬章以下ノ勳賞ト共ニ佩ルルハ我勳章ノ次ニ左ニ列シ佩フヘシ
十一年六月御布告第拾五號

外國勳章佩用願手續

- 一 內國人ニシテ外國政府ヨリ勳賞ヲ受ケ之ヲ佩用セント欲スル者ハ左ノ手續ヲ以テ賞勳局正副總裁ヘ宛願出其佩用免許狀ヲ受クヘシ
 - 一 皇族及勅奏任官ハ外務省ノ副狀ヲ受ケ直ニ賞勳局ヘ願出ヘシ
 - 一 判任官以下ハ奉職應華族ハ宮内省士族以下ハ地方廳ヲ經テ願出其奉職應若クハ宮内省地方廳ハ其趣ヲ具シ外務省ノ副狀ヲ併セ賞勳局ヘ進達スヘシ
 - 一 佩用願人ハ前條出願ノ節其外國ヨリ受領シタル勳章勳記ヲ前ノ手續ヲ以テ賞勳局ヘ差出シ其檢閱ヲ受クヘシ其願書面ニハ勳章ヲ受領シタル事由ヲ詳記スヘシ
- 十四年十二月御布告第六十三號
- 褒賞條例別紙ノ通相定來明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
右奉 勅旨布告候事

褒章條例

褒章條例

- 第一條 凡ソ自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助セシ者又ハ德行卓絶ナル者(孝子順孫節婦義僕ノ類)又ハ公衆ノ利益ヲ與シ成績著明ナル者(疏河築堤修路墾田ノ業或ハ貧院學校設立ノ類ヲ云フ)ヲ表彰スル爲メ左ノ三種ノ褒章賞ヲ定ム
- 紅綬褒章
右自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助セシ者ニ賜フモノトス
- 綠綬褒章
右德行卓絶ナル者ニ賜フモノトス

藍綬褒章

- 右公衆ノ利益ヲ與シ成績著明ナル者ニ賜フモノトス
- 第二條 奇特ノ實行アリト雖モ褒章ヲ賜フヘキ場合ニ至ラサルモノハ褒狀ヲ與フコトアルヘシ
- 第三條 已ニ褒章ヲ賜ハリタルモノ再度以上同様ノ實行アリテ褒章ヲ賜フヘキトキハ其都度飾版一箇ヲ賜與シ其章ノ綬ニ附加セシメ以テ標識トス
- 第四條 褒章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ及ヒ徽號トナスヲ得然レモ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ之ヲ沒收シ其未タ授與セサル前同上ノ刑ニ處セラレタル者ニハ之ヲ授與セズ

褒章ノ圖 (卷末ニ載ス)

十六年六月御布告第二十二號

勳章ヲ有スル者其榮譽ヲ汚辱スルノ所爲アル時ハ勳章及年金ヲ褫奪ス外國勳章ハ其佩用免許狀ヲ沒收ス

勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ト受ケ拘留若クハ保釋責付セラレタルルハ勳章ヲ佩用スルコトヲ得ス又之ニ屬スル禮遇特權及年金ヲ受クルコトヲ得ス

勳章條例

○度量衡之部

九年二月御布告第十七號

度量衡三器別紙種類表ノ通改定候條此旨布告候事

度量衡改定規則

度量衡改定規則

○第一條 三器改定ニ付各地方ニ三器製作并賣捌所ヲ設ケ製作所ニ於テ製作セル新器來ル三月十五日ヨリ賣捌所ニ於テ發賣爲致從前ノ秤座秤座ハ同日ヨリ廢止候事○第二條 各地方ニ舊器改所ヲ設ケ候條從前所持ノ三器來ル三月十五日ヨリ十二月十五日マテニ右改所へ差出シ檢査ヲ請クヘシ右期日ヲ過キ檢印ナキ器ヲ商業上ニ用フルヲ禁ス時宜ニヨリ掛リ官吏商家ニ入り用器ヲ視察スヘキヲ(但改所ニ於テ檢査ノ上器ニ適合セル分ハ檢印シ廢スヘキ分ハ廢ノ字ヲ印シ總テ所持人ニ下ケ戻スヘキ事)○第三條 製作所賣捌所官許ノ外三器製作賣捌一切不相成事(但尺ハ尺杖等一時使用ノ爲メ目盛リ致シ秤ハ芋烏芋等ヲ量ル爲メ箱ヲ製シ又ハ賣買スルハ苦シカラス)○第四條 尺度量ノ目盛リ盛直シ秤ノ線鐵弦鐵ヲ打替ヘ斗概ヲ修復スル等ハ必ス製作所へ差出スヘシ秤量ノ緒紐ヲ附替ルハ製作所又ハ賣捌所ニ差出スヘシ其他ノ人自儘ニ致候儀不相成事○第五條 舊新器共檢印アルヲ賣捌度者ハ必ス賣捌所ニ可申出事(但秤ノ錘皿又ハ秤ノ線鐵弦鐵等ヲ離シ古鐵トシテ賣買スルハ苦シカラス)○第六條 第二條以下ノ禁令ヲ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照シテ處斷スヘキ事

別紙種類表(畧之)

九年十二月大藏省達乙第百六號

度量衡舊器ノ儀改定規則第二條第六條ノ通り改メ期限本年十二月二十五日ヲ過キ檢印ナキ器ヲ商業上ニ用フル者ハ其品取上ケ律ニ照ラシ處斷候等ニ候處右ノ旨趣人民猶不了解

同用方ノ說

度量衡取給條例

八年八月御達第三十五號

ニテ自然心得違ノ輩有之候而ハ不相濟事ニ候條管下一般へ再三致布達且區戶長ヲ以テ精々説諭ノ上官員派出視察可致此旨相達候事

今般度量衡取給條例并檢査規則種類表等別紙ノ通相定候條便宜ノ場所見計ヒ製作所賣捌所ヲ設ケ從來ノ弊害ヲ除キ候條厚ク注意施行可致此旨相達候事

但度量衡原器及ヒ檢印并器械配達檢査計算諸表等大藏省ヨリ配達候條同省ヨリ可受取且製作請負人申付候者ノ居所姓名等同省へ申立免許鑑札可受取尤日限ハ各地方管應東京ヲ距ル百里以内ハ此達書到着ノ日ヨリ三十日限リ百里以外貳百里迄ハ同四十日限リ貳百里以外三百里迄ハ同五十日限リ三百里以外ハ同六十日限リ可申出事

別紙(畧之)

十四年五月御布告第三十二號

西洋形權衡製作檢査印章左ノ通改定候條自今左ノ印章ヲ證トシ從前ノ權衡ト同様相用フヘシ此旨布告候事

印章(略之)

西洋形權衡製作檢査印章

○度量衡

○曆時之部

改元ノ詔

年號ノ改定

改曆ノ詔

一年九月八日

詔書 (詔勅ノ部ニ在リ)

一年九月八日御布告

今般御即位御大禮被爲濟先例之通被爲改年號候就而ハ是迄吉凶之象兆ニ隨ヒ展改號有之候得共自今御一代一號ニ被定候依之改慶應四年可爲明治元年被仰出候事

五年十一月御布告第三百三十七號

今般改曆ノ儀別紙詔書之通被仰出候條此旨相達候事

詔書 (詔勅ノ部ニ在リ)

一今般太陰曆ヲ廢シ太陽曆御頒行相成候ニ付來ル十二月三日ヲ以テ明治六年一月一日ト被定候事

但新曆鑱板出來次第頒布候事

一一年三百六十五日十二ヶ月ニ分テ四年毎ニ一日ノ閏ヲ置キ候事

一時刻ノ儀是迄晝夜長短ニ隨ヒ十二時ニ相分テ候處今後改テ時辰儀時刻晝夜平分ニ二十四時ニ定メ子刻ニリ午刻迄ヲ十二時ニ分テ午前幾時ト稱シ午刻ヨリ子刻迄ヲ十二時ニ分テ午後幾時ト稱候事

一時鐘ノ儀來ル一月一日ヨリ右時刻ニ可改事

但是迄時辰儀時刻ヲ何字ト唱來候處以後何時ト可稱事

一諸祭典等舊曆月日ヲ新曆月日ニ相當シ施行可致事

大陽曆 一年三百六十五日閏年三百六十六日(四年毎ニ置之)

一月大 三十一日 其一日 即舊曆壬申 十二月三日

二月小 二十八日(閏月廿九日) 其一日 同 癸酉 正月四日

三月大 三十一日 其一日 同 癸酉 二月三日

四月小 三十日 其一日 同 癸酉 三月五日

五月大 三十一日 其一日 同 癸酉 四月五日

六月小 三十日 其一日 同 癸酉 五月七日

七月大 三十一日 其一日 同 癸酉 六月七日

八月大 三十一日 其一日 同 癸酉 閏六月九日

九月小 三十日 其一日 同 癸酉 七月十日

十月大 三十一日 其一日 同 癸酉 八月十日

十一月小 三十日 其一日 同 癸酉 九月十二日

十二月大 三十一日 其一日 同 癸酉 十月十二日

大小毎年替ルルナシ

時刻表 (界之)

右之通相定候事

三年四月二十二日御布告

頒曆授時ノ儀ハ至重ノ典章ニ候處近來種々ノ類曆世上ニ流布候趣無謂事ニ候自今弘曆者

之外取扱候儀一切嚴禁被仰出候事

六年五月廿九日御達

太陽曆御頒行ノ節干支ヲ除キ候處既往ノ年日推步候ニハ干支相用候方便利ニ付自今曆上

ニ年日トモ干支可記載事

六年十月五日御達

來明治七年太陽曆之体裁本年同様下層ニ大陰曆月日及其外掲載可致此旨相達候事

去陽曆ノ休

干支ノ用方

弘曆者ノ限

○曆時

三百一

陰曆兩曆對照表ノ編刻

編修關係ノ事務

本略略曆頒布方

年齡ノ計算方

丁年ノ定

經度

七年八月文部布達第二十三號

當省藏板陰陽兩曆對照表ノ儀ハ歲月比較ノ爲メ有用ノ書ニ付翻刻差許候條尋常出版ノ手續ヲ以テ可願出此旨布達候事

九年三月内務省達乙第四十號
文部省管理編曆關係之事務今般當省へ屬セラレ候ニ付自今右ニ關スル事件者當省へ可申出此旨相達候事

十六年四月御布達第八號

本曆並略本曆ハ明治十六年曆ヨリ伊勢神宮ニ於テ頒布セシムヘシ
一枚摺略曆ハ明治十六年曆ヨリ何人ニ限ラヌ出版條例ニ準據シ出版スルコトヲ得
但明治九年(十月)内務省甲第三十九號布達(印紙貼用)ハ取消ス
右布達候事

六年二月御布達第三十六號

自今年齡ヲ計算候儀幾年幾月ト可相數事

但舊曆中ノ儀ハ一千支ヲ以テ一年トシ其生年ノ月數ハ本年ノ月數ト通算シ十二月月ヲ以テ一年ト可致事

九年四月御布達第四十一號

自今滿二十歲ヲ以テ丁年ト相定候條此旨布達候事

十五年十二月内務省告示甲第十六號

經度ノ儀ハ東京赤阪區澁池葵町三番地ヨリ起算致候處今般舊本丸内天守臺ヲ以テ經線零度ト相改候條此旨告示候事

○儀式之部

元年八月廿七日

天皇御即位御大禮被爲行候事

元年十二月

來廿八日巳刻女御入内即日立后被仰出候事

但當日重服者參朝可憚事

元年八月廿六日御布告

九月廿二日ハ聖上御誕辰相當ニ付毎年此辰ヲ以テ群臣ニ酹宴ヲ賜ヒ天長節御執行ニ相成天下ノ刑戮被差停候偏ニ衆庶ト御慶福ヲ共ニ被遊候思食ニ候間於庶民モ一同御嘉節ヲ奉祝候様被仰出候事

六年一月御布告第一號

今般改正ニ付八日上巳端午七夕重陽之五節ヲ廢シ神武天皇即位日天長節ノ兩日ヲ以テ自今祝日ト被定候事

六年三月御布告第七十一號

神武天皇御即位日紀元節ト被稱候事

元年閏四月御沙汰

向後治亂共時機ニ寄リ四方へ行幸可被爲遊御儀可有之候ニ付供奉御列ノ儀モ三等ニ被爲定追而可被仰出殊ニ近來國家多事小民夫役ニ苦シニ候段連々達天聽歎思食候民力ヲ省スルハ國家ノ急務ニ付右三等中御平常ハ可成丈々第一簡便ニ御隨ヒ被爲遊候段被仰出候ニ付敬慮ノ旨厚ク可相心得御沙汰候事
四年八月十七日御達

○儀式

御即位

立后

天長節

祝日

紀元節

三等ノ御列

臨時行幸ノ御禮

離宮其外へ御騎馬并馬車等御輕裝等ニテ臨時行幸被爲遊候條爲心得此旨相達候事
但御道筋市中平常ノ通タルヘキ事

行幸前座ノ旗章

四年九月十五日御達
臨時行幸ノ節前座ニ左ノ旗章ヲ掲候條爲心得相達候事
旗章圖面(卷末ニ在リ)

行啓ノ旗章

六年四月御布告第三百三十四號
皇太后宮皇后宮行啓ノ節御馬車ハ別紙ノ旗章ヲ掲ケ候條御道筋通行ノモノ禮式ハ行幸同様可相心得候事

同上ノ改正

十年七月十二日宮内省番外布達
皇太后宮皇后宮行啓ノ節御馬車へ旗章ヲ掲候旨明治六年第三百三十四號ヲ以テ公布相成居リ候處自今前驅騎兵ニテ右旗章相掲候條爲心得此旨布達候事

行幸御道筋ノ立禮

六年三月布告第九十六號
行幸ノ節其御道筋通行ノ者旗章ヲ見受候ハ、馬車ヲ下リ笠并帽等ヲ脱シ總テ路傍ニ立禮可致事

同改禮ノ通

七年十月内務省達乙第六十五號
行幸行啓ノ節禮式ノ儀ハ明治六年三月第九十六號同四月第三百三十四號公布之旨モ有之一般熟知ノ筈ニ候處猶通御之際敬禮ヲ失シ候者往々有之哉ニ相聞甚不相濟儀ニ付前條公布之趣下々ニ至ル迄普ク通徹候條可取計此旨相達候事

行幸先ノ新狀

九年三月御達第十三號
近來行幸ノ節御途中ニ於テ突然儀仗内へ衝入シ訴狀建言書ノ類差出候者往々有之右ハ國律ニモ明載有之儀ニテ甚以不相濟次第ニ候得共小民共情事切迫ノ餘リ心得違ニ依リ終ニ

米金ノ獻納

罪科ニ相觸ノ候様ニテハ愍然ノ至ニ候條向後右様心得違ノ者無之様諭達可致此旨相達候事
但訴願建言等規則ニ依リ其筋へ差出候ハ、取上ケ可相成旨ヲモ是又懇諭可及置事
四年六月十日御布告
華族元服家督等并ニ僧侶官位住職等ノ節諸献上物之儀自今一切被停止候事
四年八月十五日御布告
地方産物等献上ノ儀自今一切被停止候事
五年一月御布告第十一號
星迄御國恩冥加ノ爲メ米金獻納願出候者不少候處自今被差止候尤郷學ヲ開キ病院ヲ興シ或ハ水利堤防其他一切ノ諸工作及ヒ濟貧恤窮等ノ費用ヲ差出度志願之者ハ奇特之儀ニ付於地方官開届其施設ノ方法委細取調可申出事

神樂傳習ノ許可

六年五月御布告第七十五號
神樂傳習ノ儀從前華族及舊樂人ニ限リ候處自今人民一般被差許候事
但志願ノ者ハ雅樂稽古所へ罷出差圖ヲ可受舞樂傳習ノ儀モ可爲同様事
七年一月内務省布達甲第一號
音樂歌舞ノ事務是迄教部省管轄之處今般當省管轄被仰出候條此旨布達候事

音樂歌舞ノ事務

七年十二月廿七日宮内省番外布達
音樂歌舞ノ事務是迄教部省管轄之處今般當省管轄被仰出候條此旨布達候事

御歌會始

每年一月御歌會始之節官員華士族僧侶平民ノ無差別詠進之向ハ採録ノ上
窺覽ニ相供候條各管轄廳へ可差出旨本年一月中及布達置候處向後各管轄廳ヲ經ルニ不及直ニ當省へ可差出候此旨更ニ布達候事
但書式并用紙ハ隨意タルヘシ尤官員ハ官氏名華士族及有位ハ本貫屬族位階氏名僧侶平民ハ管轄國郡村町寺號氏名等詳細可相認且郵便ヲ以テ差出候節ハ宮内省宛ニ可相認事

十一年十二月御布告第三十六號

帶勤有位ノ輩新年並紀元節天皇節参賀ノ儀左ノ通被定候條此旨布告候事

一非役勤六等以上在京ノ輩ハ参内拜賀シ他ハ所在ノ地方廳ヲ經テ賀表ヲ上ルヘシ
但在官職ト雖モ判任以下ハ仍ホ非役ニ同シ

一非役勤七等以下同正七位以下ハ其身所在ノ地方廳ニ参賀スヘシ
但等外吏タルノ類ハ仍ホ非役ニ同シ

一勤三等以上從三位以上ハ皇居中仕切門迄乘車馬ヲ得ヘシ
但在官ノ廉ヲ以テ参上ノ節ハ其官職ノ本分ニ從フヘシ

一勤六等以上從六位以上ハ皇居御門内迄乘車馬寄ロリ昇降ヲ得ヘシ
但在官ノ廉ヲ以テ参上ノ節ハ上ニ同シ

十六年九月御達第四十二號

奏任官及六位勤六等以上ノ輩在東京ノ外ハ新年紀元天皇節賀表差出來候處明治十七年
ヨリ京都御所ニ於テモ新年参賀式被爲行候ニ付京都住居在勤若クハ出張ノ向ハ参内拜賀
シ且紀元天皇節宮内省支廳へ参賀可致此旨相達候事

○戸婚之部

四年四月五日御布告

今般府藩縣一般戸籍ノ法別紙ノ通改正被仰出候條管内普ク布告致シ可申事

戸籍檢査編製ハ來申年二月一日ヨリ以後ノ事ニ候得共右ニ關係スル諸般ノ事ハ今ヨリ處
置致ス可ク尤三都府及各開港場ハ人民幅濶ノ地ニテ取締向速ニ不相立候テハ難相成ニ付
送籍入籍并旅行寄留ノ者へ鑑札渡方寄留表取調方等當六月廿九日ヨリ後ルヘカテサレ事
但不密ノ虞ハ民部省へ可承合事
右之通被仰出候事

戸籍法

一人生始終ヲ詳ニスルハ切要ノ事務ニ候故ニ自今人民天然ヲ以テ終リ候者又ハ非命ニ死
シ候者等埋葬ノ處ニ於テ其時々其由ヲ記録シ名前員數共毎年十一月中其管轄廳又ハ支
配所へ差出サセ十二月中辨官へ可差出候事

右之通管内社寺へ可觸達候事

戸數人員ヲ詳ニシテ撰テラサレシムルハ政務ノ最モ先シ重スル所ナリ夫レ全國人民ノ保
護ハ太政ノ本務ナリ事案ヨリ云フテ待タズ然ルニ其保護スヘキ人民ヲ詳ニセス何ヲ以テ
其保護スヘキヲ施スヲ得ノヤ是レ政府戸籍ヲ詳ニセサルヘカテサレ儀ナリ又人民ノ各
安康ヲ得テ其生ヲ遂ル所以ノ者ハ政府保護ノ庇蔭ニヨラサルハナシ去レハ其籍ヲ逃レ其
數ニ漏ル、者ハ其保護ヲ受ケサル理ニテ自ラ國民ノ外タルニ近シ此レ人民戸籍ヲ納メサ
ルヲ得サルノ儀ナリ中古以來各地方民治趣異ニセシヨリ僅ニ東西テ隔レハ忽チ情態ヲ異ニ
シ聊カ遠近アレハ忽チ志行ヲ同フセス體テ戸籍ノ法モ遂ニ錯雜ノ弊ヲ免レヌ或ハ此籍ヲ
逃レ或ハ彼ノ籍ヲ欺キ去就心ニ任セ往來規ニヨラス沿襲ノ習人々自ラ度外ニ附スルニ至

○戸婚

ル故ニ今般全國總体ノ戸籍法ヲ定メラル、ヲ以テ普ク上下ノ通義ヲ辨ヘ宜ク粗畧ノ一ナ
 カルヘシ ○第一則 戸籍舊習ノ錯雜アル所以ハ族屬ヲ分ツテ之ヲ編製シ地ニ就テ之ヲ
 收メサルヲ以テ遺漏ノ事アリト雖モ之ニ檢査スル便ヲ得サルニ依リテ故ニ此度編製ノ法
 臣民一般(華族士族卒祠官僧侶平民迄ヲ云以下準之)其住居ノ地ニ就テ之ヲ收メ專ラ漏
 スナキヲ旨トス故ニ各地方土地ノ便宜ニ隨ヒ豫メ區畫ヲ定メ每區戸長并ニ副ヲ置キ長并
 ニ副ヲシテ其區内戸數人員生死出入等ヲ詳ニスル事ヲ掌ラシムヘシ ○第二則 戸長ハ必
 ス長ト副トニ限ルヘカラス時宜ニヨリ長副數名アルモ妨ナシトス但戸長ノ務ハ是迄各所
 ニ於テ庄屋名主年寄觸頭ト唱ル者等ニ掌ラシムルモ又ハ別人ヲ用ルモ妨ナシ ○第三則
 凡ソ區畫ヲ定ムル營ヘハ一府一郡ヲ分テ何區或ハ何十區トシ其一區ヲ定ムルハ四五町若
 シハ七八村ヲ組合ハスヘシ然レモ其小ナルモノハ數十ニ及ビ大ナルモノハ一二ニ止マル
 モ都テ其時宜ト便利トニ任セ妨ナシ(華族士族住居ノ地從前武家地屋敷地ト唱ル類モ同
 様タル素ヨリ云テ待クヌ)但急ニ區畫ヲ定メ難キ所ハ假ニ便宜ニ隨ヒ一村一町ニテ檢査
 セシムルモ妨ナシ官ノ學校兵隊屯所等又ハ大社大寺ノ別ニ區域ヲナセシハ其官司ノ吏員
 其社寺ノ執事等ニテ戸長ノ事ヲ扱ハシムルモ妨ナシ ○第四則 戸長其區内ノ戸籍ノ式ノ
 如ク之ヲ集メ二通ヲ清書シ更ニ第一號ト第二號ト式ノ如ク其區内總計ノ戸籍表ト職分表
 トヲ作り其集ル所ノ戸籍ハ戸長ニ備ヘ置清書二通リト共ニ其支配所ニ差出スヘシ支配所
 之ヲ其廳ニ差出シ其廳之ヲ第五號第六號ノ式ノ如ク其管内總計ノ戸數表ト職分表トヲ作
 リ戸籍一通ハ其廳ニ備ヘ置キ一通ハ廳印ヲ推シ表ト共ニ六ヶ年目ニ改メ太政官ヘ差出ス
 ヘシ(支配所トハ管轄内廣遠ノ所別ニ小部分ヲ置キ支配セシムル所ヲ云フ總テ出張所ト
 云フノ類ナリ)其支配所ナキ所ハ直ニ其廳ニ出スヘシ以下準之 ○第五則 編製ハ自後六
 ケ年目ヲ以テ改ムヘシト雖モ其間ノ出生死去出入等ハ必ス其時々戸長ニ届ク戸長之ヲ其
 廳ニ届出テ(支配所アルモノハ支配所ニ届ケ支配所ヨリ其廳ニ届ク)其廳之ヲ受ケ人員

ノ増減等本書ヘ加除シ毎年十一月中戸籍表ヲ改メ十二月中太政官ヘ差出スヘシ(加除ハ
 生ル、者ト入ルモノヲ加ヘ死者ト出ルモノヲ除ク類ナリ) ○第六則 管轄廳ニ於テ戸籍
 專任ノ吏員ヲ置キ其事ニ擔當セシムヘシ若シ遺漏粗畧ノ事アルニ於テハ其吏員并ニ戸長
 (戸長ナキ大社大寺ハ執事)ノ責タルヘシ ○第七則 區内ノ順序ヲ明ニスルハ番號ヲ用ユ
 ヘシ故ニ每區ニ官私ノ差別ナク臣民一般番號ヲ定メ其住所ヲ記スニ都テ何番屋敷ト記シ
 編製ノ順序モ其號數ヲ以テ定ムルヲ要ス但區内ノ屋敷七所トナリ又ハ一箇ヲ割テ二箇ト
 シ二戸ヲ合セテ一戸トナスコトアルモ其由ヲ戸籍ニ記シ番號ハ其儘據置キ六ヶ年目ニ至リ
 改ムヘシ ○第八則 各地方貫屬或ハ平民等事務アリテ全戸他ノ管轄所ニ引移ルモノハ其
 由ヲ本貫管轄廳ヘ願出其廳ヨリノ送リヲ取り在留地ノ廳ニ届ケ出其所ノ籍ニ編入スヘシ
 又故アリテ元ノ管轄所ヘ引移ル時ハ之ヲ戻スコト其始メ出ル時ノ如クシ其所ノ籍ニ編入ス
 ヘシ但當時全戸既ニ引移リシ官員ノ如キハ其官省ヨリ名前書ヲ在留地ノ廳ニ達シ夫ヲ證
 トシ其住居ノ地區ニ其籍ヲ收ムヘシ又本貫管轄廳ニハ其由ヲ其官省ヨリ達シ其廳之ヲ聽
 キ其所ノ籍ヲ除クヘシ尤此ヨリ後引移ル者ハ此限ニアラス送籍スルコト本條ノ如クスヘシ
 (第八則ナリ)若シ全戸引移ルト雖モ情故アリテ本貫管轄廳ノ籍ニアルヲ願フ者ハ其地寄
 留ノ部ニ入シ情願ニ任スルモ妨ナシ ○第九則 他ノ管轄地ニ引移ル時元ノ廳ヨリ送籍ス
 ルニハ其當人ヨリ元住所ノ組合并戸長ニ其由ヲ届ケ長副連印シ其廳ニ届ケ其廳之ヲ受ケ
 其廳聽知ルノ證ヲ押シ當人ニ渡スヘシ但管轄内廣遠ノ場所別ニ支配所アラハ其支配所ニ
 テ之ヲ達セシメ往來困却ノ弊ナカシムルヲ要ス ○第十則 他ノ管轄所ヨリ此管轄所ニ
 入籍スル時ハ元ノ管轄所ニ證ヲ持參シ其入ル所ノ戸長ニ其由ヲ通シ戸長其相違ナキヲ
 シ其所ノ籍ニ入ルヘシ而シテ戸長其元廳ノ證ト其編入セシ事ノ由ヲ時々其廳ニ届クヘシ ○
 第十一則 管轄内甲ノ區ヨリ乙ノ區ニ移ルカ如キモ第八則ヨリ第十則迄ノ例ヲ見合スヘ
 シ但管轄内ナルヲ以テ送籍ハ戸長ヨリ之ヲ致シ入籍ノ上其入ル所ノ戸長ヨリ其廳ニ届ケ

○戸婚

其應之ヲ聽キ即チ本書ニ加除スヘシ(加除ハ甲ノ籍ヲ除キ乙ノ籍ニ入ルノ類ヲ云)但其區ニ於テ時々加除スルハ無論ナルヘシ ○第十二則 ○第十三則 ○第十四則 ○第十五則 (第十二則以下四年七月鑑札不及渡旨御達ニ付之ヲ削ル) ○第十六則 宿帳ハ七日目毎ニ驛遞ハ其驛出張驛遞掛ノ改ヲ受自餘ハ其戸長ヘ出シ改ヲ受クヘシ旅籠屋ニ限テ大都テ逗留三日以上ハ其戸長ニ届ケ(八民幅濠スル三都府ノ如キハ其時々戸長ヨリ其應ニ届クヘシ)九十日以上ハ寄留トシ第十二則ノ手續ヲナスヘシ旅人病氣又ハ異變ノ節速ニ届出ルハ勿論ナリ但シ戸籍改ノ節滞留スルモノハ其所持ノ鑑札ニ突合セ檢査スヘシ ○第十七則 各地ニ出張スル官員出入トモ其管轄應ニ届ケ其出張先ノ地方應ヘモ届クヘシ但地方應懸隔アリシ場所一時出張シ或ハ急遽ノ事務等アルハ其手續ナキコアルヘシ ○第十八則 (僧侶族籍ノ件七年七月御達ニ因リ之ヲ除ク) ○第十九則 (第十二則ニ全シ) ○第二十則 六ヶ年目戸籍改云々并追達不及施行旨六年七月御布告ニ付削之) ○第二十一則 凡ソ戸籍ヲ檢査スルハ遺漏アルヘカラス又重複スヘカラスニツノ者ノ弊アルハ檢査ノ要ヲ失フ尤甚シトイフヘシ故ニ戸長ヲ設ケ地ニ就テ戸籍ヲ收ムルハ遺漏ノ弊ヲ防ク所トイヘトモ其戸籍ヲ出入スルニ當リテ(出入ハ他ノ管轄内ヲ出此管轄内ニ入り甲ノ區ヲ出乙ノ區ニ入ル類ヲ云)深ク注意セサルハ又重複ノ弊ヲ免ル能ハス故ニ六ヶ年目毎ニ戸籍ヲ改正スルニ當リ其戸籍ヲ檢査スルノ日ハ天下府藩縣一般二月一日ヨリ五月十五日ヲ以テ終ルテ法トスヘシ(此間凡百日) ○第二十二則 (第二十則ニ同シ) ○第二十三則 (同上) ○第二十四則 寄留者ノ屆書ハ其寄留スル支配所ニテ(支配ナキモノハ其應)其時々之ヲ記録シ寄留表ヲ第七號式ノ如ク製シ出入人員増減ヲ隔月檢査シ其應ニ出シ其應之ヲ受ケ毎年十二月太政官ヘ差出スヘシ但支配所アルハ其支配所ト表ノ左傍ニ記スヘシ ○第二十五則 三都府ハ人民幅濠ノ地ナルヲ以テ寄留表ハ他ノ藩縣ニ拘ラス隔月檢査ノ時々即チ太政官ヘ差出スヘシ ○第二十六則 民産調ノ如キハ一般ノ御布告アルヘシト雖モ此迄地方

官ニテ戸籍中家産等書載サセ來リシハ其儘出スヘシ ○第二十七則 戸籍表ノ用紙ハ原紙ヲ用ヒ戸籍ノ用紙ハ美濃紙ノ寸法ヲ準トシ公用ノ野紙ヲ用ユヘシ戸長ト其應ヘ收ムル分其土地求メ易キ適宜ノ品ヲ用ユヘシ故ニ每區戸長ヘ本書分ノ公用野紙ヲ其應ヨリ下ケ渡スヘシ ○第二十八則 各地ノ戸籍一例ナルヲ要スレハ字ノ細大行ノ高低ハ其記筆ヲ標別スル爲メナルヲ以テ能ク注意シ成丈ケ細字ニ記スルヲ要ス ○第二十九則 此迄厄介ト號セシモノ或ハ縁故アリ養育スルモノ等ハ其族屬ト續柄ヲ肩書ニシ其由ヲ其名前ノ上ニ記スルヲ式ノ如クスヘシ ○第三十則 華族等ノ從僕其邸内ニ住居シテ一戸ヲナセルモノハ式ノ如ク其主人ノ次ニ記シ社中寺内ニアルモノ此例ニ準スヘシ ○第三十一則 凡ソ僧尼ハ式ニ依テ本貫得度ノ年月及ヒ其所ヲ記シ院内受職ノ外ハ皆弟子ヲ以テ記スヘシ ○第三十二則 (四年八月穢多非人ノ稱御廢止ニ付削之) ○第三十三則 都テ書式ハ臣民トモ休一ナレハ彼是相通シ參用シテ妨ケナシ

書式(畧之)

五年一月御布告第四號

戸籍法中心得方區々相成候箇條并改正ノ廢左ノ通ニ候條本書ニ照準シ取捨可致事

戸籍編制ノ事(畧之)

四年七月三日御布告

地方官地所管轄替相成候節管下之華士族卒等新地方官ノ可爲實族ハ勿論ノ儀ニ付戸籍法第四號戸籍書式中本屬ヲ以寄住ノ地ニ編籍スルノ例ハ御取消相成候條此旨更ニ相違候事

五年四月御布告第一百五號

自今華士族子弟厄介ノ輩平民籍ヘ加入爲致候儀可爲勝手事

七年七月御布告第七十三號

自今華士族分家ノ者ハ平民籍ニ編入候條此旨布告候事

○戸婚

戸籍編制ノ事
編籍ノ令取
氏籍加入
華士族ノ分家

僧尼族籍編入

但分祿ノ儀ハ不相成其宗家祿高ノ中適宜給與候儀ハ勝手タルヘキ事
七年七月御布告第七十四號

今般華士族分家候者ハ總テ平民籍ニ編入相成候ニ付本年十月第八號僧尼族籍編入ノ布告
自今左ノ通更正候條此旨僧侶ヘ布告スヘキ事

○僧尼ノ輩族籍被相定候條各自其原籍ニ復スヘキ事○原籍不分明又ハ復籍ヲ望マサル者
ハ現在地ヘ別ニ未籍相定メ若シ現在地ノ外ヘ本籍相定メ度望之者ハ一旦現在地ヘ定籍ノ
上其地ヨリ望ノ地ヘ送籍スヘシ(但別ニ本籍相定候者ハ元身分ニ不拘總テ平民籍タルヘ
キ事)○眞宗(維新已來華族ニ列セラレシ者ヲ除クノ外)并ニ舊修驗等世襲ノ者モ一般平
民タルヘキ事○本末寺共其住職タルモノ宗教事務管理ノ儀一般職分同様タルヘキ事(但
一寺住職ノ者ハ平民タリニ總テ身分取扱士族ニ準シ候儀ハ從前ノ通タル可キ事)○戶籍
法中右等ニ抵觸ノ廉ハ總テ廢止候事
八年十一月內務省達乙第百五十一號

同上ノ心得

僧尼ノ輩定籍ノ儀ニ付昨七年第七十四號ヲ以テ公布相成候處各自原籍ニ復スル分ハ格別
現在地ヘ本籍ヲ定ムルニ至ツテ自然各地方區々ノ處分ニ相涉リ候テハ不都合ニ付左ノ通
相心得速ニ可致編籍此旨僧尼ヘ布達スヘキ事
一原籍不分明又ハ復籍ヲ望マサル者ハ現今住所ノ區内ヘ別ニ本籍可相定尤本籍ヲ定ムル
ニ付更ニ土地及ヒ家屋ヲ設クルニ及ハス現住地區長ヘ申立其區(村)(町)ヘ定籍スヘシ
若住地ノ區内(村)(町)ノ外ヘ本籍ヲ定メ度者ハ一旦前條ノ如ク定籍ノ上其地ヨリ望ミ
ノ地ヘ送籍スヘシ

脫籍者ノ引戻シ

二年四月十五日御沙汰
脫籍浮浪人ノ儀ニ付昨年來毎々被仰出モ有之候處今以處々流寓罷在候趣畢竟本國復籍之
途不相開各所戶籍人別取調不行屆等ニ依ル事ニテ生民各其所ヲ得候様トノ篤キ御主意モ

復籍規則違

不相立隨テ窮迫ノ餘リ遂ニハ御政體ニ差障リ候儀ニモ可立到甚以不相濟事ニ候依テ今般
左ノ廉々被仰出候間府藩縣始諸采地中急々脫籍ノ者悉ク本地ヘ引戻シ候様其主宰ヨリ可
取計候自然復籍等閑ニ致置此後流寓不所業之輩於有之ハ總ヘテ本地主宰ノ越度タル事ニ
付其科ニ依リ屹度各方可被仰付候事
一都下始府藩縣戶籍人別明細取札可申候事
一御親兵並府縣兵及附屬等是マテ御用相勤居候者ノ内ニモ脫籍有之候ハ、鄉國明細取調
可申出事(但御用相勤候者ト雖脫籍致居候テハ後日復歸モ不相成御政體ニ差障候ニ付
此度改テ本國ヘ御掛合ノ上被召仕候事
一府藩縣共脫籍之者其主宰ヨリ急速引戻シ各其所ヲ得候様仕向可遣候自然其引戻シノ手
順行屆兼候分ハ姓名年齡脫籍年月取調可申出候事
附從前鄉國ノ法ヲ犯シ脫籍致シ候類鄉國ニ於テモ打捨本人モ其法ヲ犯シテ恐レ
復籍不致向モ可有之候得共大刑ヲ犯シ候分ハ格別其餘ハ昨年赦罪被仰出候事ニ付總
テ前罪差免可遣事
一宮堂上始中下太夫上士社寺等家來并采地之者脫籍致居吟味行屆兼候分ハ同様可申出事
一府藩縣共戶籍人別取調等閑ニ打過他方脫籍之者令潛伏自然不所業之輩有之節ハ其事大
小ニ依リ其主宰ノ罪輕重之科可被仰付事
一此後脫籍ノ者於有之ハ急速追捕ハ勿論萬一行方不知者ハ府藩縣ヘ順達致置姓名年齡月
日ヲ以テ可届出事
四年四月廿三日御布告
脫籍無產ノ輩復籍御規則昨午年九月被相定候別紙ノ通更ニ被仰出候條各地方官ニ於テハ
右御規則ニ隨ヒ送受方可取計候事 別紙 (畧之)

六年五月御布告第七十三號

○戶婚

復籍運送者ノ處分

跡目相續等ノ願方

華族隱居願

士族隱居願

華族死去ノ願方

華族平民ノ願方

脱籍人復籍ノ儀己巳四月十五日寛典之御處置被仰出候處今日ニ至リ尙復籍不致者モ有之哉相聞篤キ御主意ヲ奉體ヒス不都合ノ事ニ候自今右様ノ者於有之ハ律ニ照シ處分可致事

元年十二月二日御布告
跡目相續隱居家督養子縁組等ノ儀ニ付間々不正ノ筋モ有之哉ニ相聞以ノ外ノ事ニ候以來願出候節ハ於觸頭其筋合爲ト取札シ候上證書相添願書差出可申萬一不都合ノ儀於有之ハ屹度可被及御沙汰事

三年閏十月十七日御布告
一華族之輩年五十歳ヨリ隱居願ノ儀可爲勝手事
但癩疾及事故ニ罹リ候輩ハ此限ニ非ス

一嫡子嫡孫年十一歳ヨリ元服願ノ儀可爲勝手事
一實子無之輩ハ年齢ニ不拘養子願ノ儀可爲勝手事
右之通更ニ被仰出候條此旨相達候事

三年閏十月十七日御布告
一士族之輩年五十歳ヨリ隱居願ノ儀可爲勝手事
一實子無之候ハ、年齢ニ不拘養子願ノ儀可爲勝手事
右之通更ニ被仰出候條此旨相達候事

四年九月三十日御布告
華族士族ニ不拘病氣急篤ニ付家督相續願中死去候ハ、願濟ヲ不待直ニ可届出候事
六年一月御布告第二十七號

自今華族平民互ニ養子取組不苦候事
但華族ハ管轄廳ヨリ正院ニ伺出士族ハ管轄廳ニ聞届平民ハ戸長ニ可届出事
六年一月御布告第二十八號

華士族ノ家督相續

今般華士族家督相續ノ儀ニ付左ノ通被相定候條此旨相達候事

家督相續ハ必ス總領ノ男子タルヘシ若シ亡没或ハ廢篤疾等不得止ノ事故アレハ其事實ヲ詳ニシ次男三男又ハ女子ニ養子相續願出ツヘシ次男三男女子無之者ハ血統ノ者ヲ以テ相續願出ツヘシ若シ幼少ニテ家督爲致候節ハ親戚又ハ他人ニテモ相當ノ者相撰後見可爲致事

當主隱居致シ實子又ハ養子家督相續致シ候上其相續人多病或ハ不埒ノ儀有之歟又ハ病死致シ最前ノ隱居壯健ニテ再相續願出候節ハ聞届不苦事(但再相續人ト可稱事)

當主壯年ナレハ疾病其外無據事故有之養子致シ候處前當主疾病平癒又ハ事故相解候節再家督致シ右養子ハ實家ニ立戻リ候歟又ハ當主他ニ縁付候共雙方熟談ノ上願出候ハ、聞届不苦事

本家分家親戚等ノ内當主病死致シ云々(九年五月第七十五號ヲ以禁止因テ省之)
父兄伯叔総テ目上ノ者子弟甥等ノ目下ノ家ヲ繼承スルトキハ相續人ト稱シ養子ト稱スヘカラズ

當主死去跡嗣子無之婦女子ノミニテ已テ得サル事情アリ養子難致者ハ婦女子ノ相續差許從前ノ給祿可支給事
婦女子相續ノ後ニ於テ夫ヲ迎ヘ又ハ養子致シ候ハ、直ニ其夫又ハ養子ニ相續可相讓事

本家分家親戚等ニ非スニテ云々(九年五月第七十五號ヲ以テ禁止因テ省之)
右之通ニ候條華族ハ管轄廳ヨリ正院ニ伺出士族ハ管轄廳ニ於テ聞届可申事
九年五月御布告第七十五號

明治六年一月第二十八號第五項及ヒ同年八月第三百一號ヲ以テ合家之儀布告候處詮議ノ次第有之自今被禁止候條此旨布告候事
但從前已ニ合家ニシ分ハ今後左ノ通可取扱事

○戸婚

常備兵ノ令

士族家督相續等ノ願

士族養子相續人

私生兒子ノ引受

外國人ト婚姻ノ條規

一分家セント欲スル者ハ其合家セシ本人ノ一代中ニ限り復籍スルヲ許ス其子孫ニ至テハ七年第七十三號布告分家ノ例ニ據ルヘシ
一戸籍記載方及刑律上ノ關係ニ於テハ戸主ノ血屬ハ等親ニ依リ其血屬ナキハ等親外ノ親屬タルヘシ

十一年八月御布告第二十號

一士族平民合家セシモノハ總テ士族ニ編入スヘシ
常備兵役ヲ免ヘサル前分家致シ候儀不相成尤徵兵令第三章免役概則第三第四第五條ニ據ル者徵兵年齡ニ至リ同章第一第二條ニ照シ免役セラレタル者第五章第十一條但書ニ依リ除役セラレタル者及徵兵年齡ニ至ラズト雖モ第六章第十五條ニ照シ代人料金上納致ス者ハ分家不苦候此旨布告候事

十二年二月御達第八號

士族家督相續養子貫籍替ノ儀是迄管轄廳へ出願シ來リ候處自今出願ニ不及直ニ戸長へ届出シムヘシ此旨相達候事(但廢嫡ニ屬シテ特許ヲ經ヘキ者ハ従前ノ通タルヘシ)
十年十二月御達第九十九號

平民養子相續人等ノ儀ニ付明治九年六月第五十八號ヲ以テ相達候處士族ト雖モ同様取計不苦候條此旨更ニ相達候事

六年一月御布告第二十一號

妻妾ニ非サル婦女ニシテ分娩スル兒子ハ一切私生ヲ以テ論シ其婦女ノ引受タルヘキ事但男子ヨリ己ノ子ト見留メ候上ハ婦女住所ノ戸長ニ請テ免許ヲ得候者ハ其子其男子ヲ父トスルヲ可得事

六年三月御布告第三號

自今外國人民ト婚姻差許左之通條規相定候條此旨可相心得事

男女ノ戸主他へ入夫縁付等ノ願

離婚後等戸籍ノ登記

離婚ノ新

一日本人外國人ト結婚セントスル者ハ日本政府ノ允許ヲ受クヘシ
一外國人ニ嫁シタル日本ノ女ハ日本人タルノ分限ヲ失フヘシ若シ故有ツテ再ヒ日本人タルノ分限ニ復ヒノチ願フ者ハ免許ヲ得能フヘシ
一日本人ニ嫁シタル外國ノ女ハ日本ノ國法ニ從ヒ日本人タルノ分限ヲ得ヘシ
一外國人ニ嫁スル日本ノ女ハ其身ニ屬シタル者ト雖モ日本ノ不動產ヲ所有スルヲ許サス(但日本ノ國法并ニ日本政府ニテ定タル規則ニ違背スルヲナシハ金銀動產ヲ持携スルハ妨ナシトス)
一日本ノ女外國人ヲ婿養子ト爲ス者モ亦日本政府ノ允許ヲ受クヘシ
一外國人日本人ノ婿養子トナリタル者ハ日本國法ニ從ヒ日本人タルノ分限ヲ得ヘシ
一外國ニ於テ日本人外國人ト結婚セントスル者ハ其國或ハ其近國ニ在留ノ日本公使又ハ領事官ニ願出許可ヲ乞フヘシ公使及ヒ領事官ハ裁下ノ上本國政府へ届出ヘシ
六年五月御布告第六十二號

夫婦ノ際已ムテ得サルノ事故アリテ其離婚縁ヲ請フト雖モ夫之ヲ背セス之カ爲メ數年ノ久キ經テ終ニ嫁期ヲ失ヒ人民自由ノ權理ヲ妨害スル者不少候自今右様ノ事件於有之ハ婿ノ父兄弟或ハ親戚ノ内附添直ニ裁判所へ訴出不苦候事
六年十二月御達第二百九號

婚姻又ハ養子養女ノ取組若シハ其離婚縁假令相對熟談ノ上タリモ双方ノ戸籍ニ登記セサル内ハ其効ナキ者ト見做スヘシ候條右等ノ届方等閑ノ所業無之様精々説諭可致置此旨相達候事

十年八月御達第六十號

男女ノ戸主(其身養子養子女他女若シハ相續人タルト問ハス其家名ヲ廢シ他へ入夫縁付或ハ養子女トナリ又ハ實家へ復籍願出候ハ、地方廳限リ届届不苦此旨相達候事

○戸婚

軍人結婚願

十二年七月陸軍省達甲第十二號

陸軍々人結婚ノ節出願ノ儀別番ノ通相定候付テハ自今後備軍籍ニ在ル者結婚ノ節ハ郡區長及戶長ノ與書證印ヲ以テ直ニ其府縣駐在官ニ差出候様可取計此旨相達候事

但離婚若シハ其婦ノ死去スルキハ亦本文ニ準シ速ニ駐在官ニ届出候様可致事

陸軍武官恩給令發行相成候ニ付テハ自今軍人結婚ノ節ハ願書差出可取計可事

但準士官以上ハ各所管長官ヲ經テ本省ニ差出シ下士以下當歸服役ノ者ハ所管長ニ於テ

間届ケ後備軍籍ニ在ル者ハ駐在官ニ願書差出シ後備軍司令長官ニ於テ可聞届尤準士官

以上以下トモ追テ婚姻相達候節本人ヨリ爲差出下士以上ハ報告規則ニ依リ報告可致事

四年八月廿三日御達

一華族ヨリ平民ニ至ル迄互ニ婚姻被差許候條双方願ニ不及其時々戶長ニ届出ニキ事

但送籍方ノ儀ハ戶籍第八則ヨリ十一則迄ニ照準可致事

八年五月御達第七十四號

華族ノ輩旅行願并其他取計方自今左ノ通可相心得此旨相達候事

但明治五年二月第四十七號ハ廢止候事

一勤學治療其他要用ニテ管外旅行願出候節ハ管廳ニテ可聞届事

但海外留學事等ノ儀ハ此限ニアラス

一辟香問詰ノ輩前條同様ノ節ハ管廳ヨリ宮内省ニ可伺出事

一天機伺ノ儀ハ管廳ヨリ宮内省ニ可伺出事

一子女出生ノ届書ハ管廳ヨリ正院ニ上申ニ及ハサル事

一戸主并有位ノ隱居嫡子等ヲ除クノ外死去届書ハ管廳ヨリ正院ニ上申ニ及ハサル事

一別段事故無之養女願開届候節ハ管廳ヨリ正院ニ上申ニ及ハサル事

華族平民ノ婚姻

華族旅行願

華族家督隱居等ノ願

華士族相續ノ日限

右ノ外従前ノ通ナルニキ事

九年三月御達第廿六號

華族ノ輩家督隱居旅行願元服婚姻生死届等は迄管轄廳ヲ經由シ正院ニ差出來候處自今右願届等總テ宮内省ニ直ニ可差出此旨華族ニ可相達事

但願書ハ宮内省ニテ許可ノ上其管轄廳ニ可届出届書ハ宮内省并ニ管轄廳ニ同時ニ可差出事

十三年一月御布告第三號

華士族當主死亡後相續人無之親族協議ノ上家名預リ置追テ相續人ヲ定ムルハ當主死亡後

日數五十日ヲ過クヘカラス若不得已事情有之親族連印管轄廳ニ延期願出ルモノハ更ニ相

當ノ猶豫ヲ與フルト雖モ死亡後六ヶ月ヲ過キ仍ホ相續人ヲ届出サルトキハ其族稱ハ廢絶

候儀ト可相心得此旨布告候事

○軍事之部

十六年十二月御布告第四十六號
徵兵令別冊ノ通改正ス

徵兵令

別冊

第一章 總則

○第一條 全國ノ男子年齡滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ハ總テ兵役ニ服スヘキモノトス

○第二條 兵役ハ陸軍海軍共ニ常備兵役後備兵役及ヒ國民兵役トス ○第三條 常備兵役ハ別ナテ現役及ヒ豫備役トス其現役ハ三箇年ニシテ年齡滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ其豫備役ハ四箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス ○第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス ○第五條 國民兵役ハ年齡滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニシテ常備兵役及ヒ後備兵役中ニ在ラサル者之ニ服ス ○第六條 各兵役ノ期限已ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ ○第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服役

○第八條 陸軍現役兵ハ每年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵及ヒ雜卒職工ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ 海軍現役兵ハ海軍所要ノ人員ニ應シ沿海地方及ヒ嶋嶼ノ人民ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工等ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ就役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス ○第九條 陸軍雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ

短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ ○第十條 年齡滿二十歳ニ滿タスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ現役ヲ志願スルコトヲ得 ○第十一條 年齡滿十七歳以上滿二十七歳以下ニシテ官立府縣立學校(小學校ヲ除ク)ノ卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願ニ因リ一箇年間陸軍現役ニ服セシム 其技藝ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ歸休ヲ命スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ ○第十二條 現役中殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル者及ヒ官立公立學校(小學校ヲ除ク)ノ步兵操練科卒業證書ヲ所持スル者ハ其期末ヲ終ラスト雖モ歸休ヲ命スルコトアル可シ ○第十三條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集シ常備隊ヲ充實シ又補充隊ニ編制ス平常ニ在テハ技藝復習ノ爲メ毎年一度六十日以内之ヲ召集シ又兵員實査ノ爲メ毎年一度點呼ヲ爲ス但海軍豫備兵ハ技藝復習ノ爲メ召集スルコトナシ ○第十四條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集シ常備兵ノ補充ト爲ス平常ニ在テ其技藝復習ノ爲メニ召集シ及ヒ兵員實査ノ爲メニ點呼ヲ爲スコトアル可シ ○第十五條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員實査スルトキニ限リ之ヲ召集シ隊伍ニ編制シテ軍役ニ充ツ

第三章 免除及ヒ猶豫

○第十六條 兵役ヲ免除スルハ癩疾又ハ不具等ニシテ兵檢査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル ○第十七條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ猶豫ス但其年補充ニ不足スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ之ヲ徵集ス

第一項 兄弟同時ニ徵集ニ應スル者ノ内一人及ヒ現役兵ノ兄或ハ第一人

第二項 現役中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄或ハ第一人

第三項 戸主年齡滿六十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

○軍事

第四項 戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 戸主

○第十八條 左ニ掲クル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫ス

第一項 教正ノ職ニ在ル者

第二項 官立府縣立學校（小學校ヲ除ク）ノ卒業証書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者

第三項 官立大學校及ヒ之ニ卒業スル官立學校本科生徒

第四項 陸海軍生徒海軍工夫

第五項 身幹未ク定尺ニ滿タサル者

第六項 疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未タ勞役ニ堪ヘサル者

第七項 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

第八項 禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

第九項 公權停止中ノ者

○第十九條 官立府縣立學校（小學校ヲ除ク）ニ於テ修業一個年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六個年以内徵集ヲ猶豫ス

○第二十條 左ニ掲クル者ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトトナシ但シ戰時若クハ事變ニ際シテハ太政官ノ決裁ヲ經テ召集スルコトアル可シ

第一項 官吏（判任以上）及ヒ戸長

第二項 教導職（試補ヲ除ク）

第三項 官立公立學校教員

第四項 府縣會議員

第五項 官立府縣立醫學學校ノ卒業証書ヲ所持シテ醫術開業ノ者

○第二十一條 官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラサル技術ノ職ヲ奉スル者ハ太政官ノ決裁ニ依テ徵集ヲ猶豫スルコトアル可シ

○第二十二條 左ニ掲クル者ト第十七條ニ照シテ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラズ

第一項 附籍戸主及ヒ附籍戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第二項 癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ嗣子承祖ノ孫若クハ相續人ヲ罷メ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第三項 年齡六十歲未滿ノ戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ年齡六十歲以上ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 分家シ又ハ絶家廢家ヲ再興シタル戸主及ヒ其戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 嗣子承祖ノ孫失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第六項 第二項第三項第四項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

第七項 年齡六十歲未滿ノ者癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

第八項 嗣子承祖ノ孫又ハ相續人癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ノ死亡跡若クハ戸主ヲ罷メタル跡ヲ繼ガズ他ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主

第九項 戶主失踪シテ五箇年ヲ經サル者ノ跡ヲ繼ケタル戶主
○第二十三條 第十八條第一項第二項第三項第四項(陸海軍生徒ヲ除ク)第十九條第二十一條ニ當ル者ト雖モ第三十五條ニ示シタル徵兵各自屆出期限即チ九月十六日以後ニ係ル者ハ徵集ヲ猶スルノ限ニ在ラス

第四章 徵兵區及ヒ抽籤

○第二十四條 徵兵區ハ軍管師管及ヒ府縣ノ區域ニ從テ其軍管ニ從テモノヲ軍管徵兵區ト爲シ師管ト從テモノヲ師管徵兵區ト爲シ府縣ニ從テモノヲ府縣徵兵區ト爲ス但府縣ノ管地兩師管ニ分屬スルモノハ師管毎ニ一區ヲ設ク 軍管及ヒ師管ノ徵兵區域ハ別表ニ掲ク(本書卷首ニ在リ) ○第二十五條 各鎮臺ニ屬スル歩兵ハ其師管徵兵區限リ其他ノ諸兵ハ其軍管徵兵區限リ之ヲ徵集ス但現役徵員及ヒ其補充員不足スルトキ歩兵ハ他ノ師管其他ノ諸兵ハ他ノ軍管徵兵區ヨリ之ヲ補フ 海軍及ヒ近衛ノ諸兵ハ各軍管徵兵區ニ配當シテ全國ヨリ之ヲ徵集ス ○第二十六條 抽籤ハ各府縣徵兵區限リ之ヲ行フモノトス 府縣徵兵區ニ於テハ其區壯丁ノ身體檢査終リタル後兵役ニ適スヘキ人員ノ身材職業ニ從ヒ兵種ヲ區別シ番号ヲ定メ抽籤ヒシム ○第二十七條 籤ハ一郡區毎ニ籤丁ノ八撰ヲ以テ一名乃至三名ノ總代人ヲ出シテ之ヲ抽カシム ○第二十八條 抽籤ノ法ヲ籤丁ノ數ニ應シ籤札ニ兵種番号ヲ記シ籤箱ニ納レ籤簿掛ノ前ニ置キ籤丁名簿ノ順序ニ從ヒ其氏名ヲ呼ビ總代人ニ之ヲ抽カシメ籤簿掛ハ抽籤ノ正否ヲ監シ抽キ舉グル所ノ番号ヲ高聲ニ呼ハシメ其籤札ヲ受取リ籤簿ニ氏名番号ヲ記シ籤札ハ總代人ニ交付ス ○第二十九條 籤ハ其番号現役徵員ノ數ニ滿ル迄ヲ以テ現役籤トシ其餘ヲ以テ補充籤トス

第五章 補充員及ヒ豫備徵員

○第三十條 補充員ハ補充籤ヲ抽キタル者ヲ以テ一個年間之ニ充ツ其期限内現役兵欠員スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ其番号ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集ス
補充員ノ數ハ概テ現役徵員五分ノ二ヨリ少カラサルモノトス ○第三十一條 補充員ニシテ其期限内徵集ノ命ナキ者及ヒ第十八條第三項ノ生徒ニシテ二個年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ年齡滿二十七歲迄之ヲ第一豫備徵員トス ○第三十二條 第十七條ニ當ル者ニシテ其年徵集ノ命ナキ者第十八條第二十一條ニ當ル者ニシテ七個年間其事故ノ存スル者及ヒ第一豫備徵員ヲ終リタル者年齡滿三十二歲迄ハ之ヲ第二豫備徵員トス但第十七條ニ當ル者第二豫備徵員ト爲リタル後六個年間ニ該條ニ掲クル資格ヲ失ヒタルトキハ現役ニ徵集ス

第六章 雜則

○第三十四條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齡滿十七歲ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戶主(本人戶主ナレハ自身以下戶主トアルモノ皆同シ)ヨリ本人ノ氏名族籍住所誕生ノ年月日及ヒ職業ヲ記載シ本籍ノ戶長ニ届出可シ ○第三十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齡滿二十歲ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ書面ヲ以テ本籍ノ戶長ニ届出可シ若シ届出ノ後翌年四月十日迄ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戶長ニ届出可シ但二十歲未滿ニシテ現ニ服役スル者ハ届出ルニ及ハス ○第三十六條 第十七條ニ當ル者其資格ヲ失ヒ第十八條第十九條第二十一條ニ當ル者其事故止ミ及ヒ第三十二條但書ニ當ル異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戶主ヨリ本籍ノ戶長ニ届出可シ但九月十六日以後翌年四月十日以前本條ニ當ル者ハ三日以内ニ本籍ノ戶長ニ届出可シ ○第三十七條 他ノ府縣ニ寄留スル者其地ニ於テ徵集ニ應セント欲スルトキハ其地ニ居住スル者(戶主)ヲ以テ証人ト爲シ八月十五日迄ニ戶主ヨリ其旨ヲ本管廳ニ願出可シ但第三十五條ノ届書ハ寄留地ノ戶長ニ差出ス可シ ○第三十八條 現役兵在營在艦中ハ定額ノ日給ヲ與ヘ服食等ヲ給ス ○第三十七條 疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ其事由ヲ詳記シ其疾

病ニ罹ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ即日戸長ニ届出可シ其事故止ムトキ亦同シ ○第四十條 第三十九條ニ掲クル者其年九月一日ニ至ルモ事故猶止マサルトキハ之ヲ翌年廻シノ者ト爲シ翌年更ニ檢査ヲ遂ケ他ノ徵員ニ先テ徵集ス可シ但戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ翌年徵集ノ期ヲ待タズ徵集ス ○第四十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ故ナク檢査所ニ參會セズ又ハ第三十五條第三十六條ノ届出ヲ怠リタル者ハ抽籤ノ法ヲ用ヒス直ニ現役ニ徵集シ又ハ翌年檢査ヲ遂ケ第四十條ニ掲クル者ニ先テ抽籤法ヲ用ヒス徵集ス ○第四十二條 常備現役年期ノ計算ハ總テ其入營年ノ四月二十日(第四十一條ニ掲クル者ハ入營ノ日)ヨリ起算シ豫備役及ヒ後備役年期ノ計算ハ其定例編入スヘキ年ノ四月二十日ヨリ起算ス但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中ノ日數及ヒ逃亡中ノ日數ハ服役年期ニ算入セズ ○第四十三條 第三十四條第三十五條所ニ參會セサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス ○第四十四條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス ○第四十五條 本令施行ノ爲メニ要スル規則ハ別ニ布達ヲ以テ之ヲ定ム

十六年十二月陸軍省甲第四十四號

今般第四十六號布告徵兵令改正相成候處本年徵兵適齡即チ來十七年徵集ス可キ者ハ既ニ舊徵兵令ニ據リ調査シ最早諸名簿整頓後ニ係ルヲ以テ來十七年徵集ス可キ者ハ舊令ニ據リ徵集致シ新令第十一條第十七條乃至第十九條第二十一條第二十二條第二十五條第二項第三十條第二項第三十一條中ノ生徒第三十六條ニ當ル事項ハ來十七年適齡即チ十八年徵集スヘキ者ヨリ實施致候儀ト可心得此旨相達候事

同上施行方

後備軍ノ商

戒嚴令

十四年五月陸軍省達乙第二十八號

官吏商賈ノ營業不相成儀ハ明治八年第六十五號ヲ以テ御達相成居候處今般後備軍艦員(諸官廳ニ奉職スル判任以上ノ者ヲ除ク)ニ限リ營業被差許候ニ付其業体ニ依リ認可スヘキ旨御達相成候條自今右望ノ者ハ其業体ヲ詳悉シ所管鎮臺ヲ經テ當省ヘ可申出此旨相達候事 但營業上ニ付テハ其官名ヲ稱スルヲ不得儀ト可心得事

十五年八月御布告第三十六號

戒嚴令

戒嚴令別冊ノ通制定ス 右奉勅旨布告候事

第一條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地方ヲ警戒スルノ法トス ○第二條 戒嚴ハ戰時若クハ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ臨戰ノ區域トナス者ナリ ○第三條 合圍地境ハ敵ノ合圍若クハ攻撃其他ノ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ合圍ノ區域ト爲ス者ナリ

第三條 戒嚴ハ時機ニ應シ其要ス可キ地境ヲ區畫シテ之ヲ布告ス ○第四條 戰時ニ際シ鎮臺營所要塞海軍港鎮守府海軍造船所等處カニ合圍若クハ攻撃ヲ受クル時ハ其地ノ司令官臨時戒嚴ヲ宣告スルヲ得又戰界上臨機ノ處分ヲ要スル時ハ出征ノ司令官之ヲ宣告スルヲ得 ○第五條 平時土寇ヲ鎮定スル爲メ臨時戒嚴ヲ要スル場合ニ於テハ其地ノ司令官速カニ上奏シテ命ヲ請フ可シ若シ臨機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ道ナキ時ハ直ニ戒嚴ヲ宣告スルヲ得 ○第六條 軍團長師團長旅團長鎮臺營所要塞司令官或ハ艦隊司令官艦隊司令官鎮守府長官若クハ特命司令官ハ戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官トス ○第七條 戒嚴ノ宣告ヲ爲シタル時ハ直ニ其狀勢及ヒ事由ヲ具シテ之ヲ太政官ニ上申スヘシ 但其隸屬スル所ノ長官ニハ別ニ之ヲ具ス可シ ○第八條 戒嚴ノ宣告ハ

○軍事

襲ニ布告シタル所ノ臨戰若クハ合圍地境ノ區畫ヲ改定スルヲ得 ○第九條 臨戰地境
内ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ノ軍事ニ關係アル事件ヲ限リ其地ノ司令官ニ管掌
ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時
ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ ○第十條 合圍地境内ニ於テハ地方行政事
務及ヒ司法事務ハ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢
察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ ○第
十一條 合圍地境内ニ於テハ軍事ニ係ル民事及ヒ左ニ開列スル犯罪ニ係ル者ハ總テ軍衛
ニ於テ裁判ス

刑法 第二編 第一章 皇室ニ對スル罪 第二章 國事ニ關スル罪 第三章 靜謐ヲ

害スル罪 第四章 信用ヲ害スル罪 第九章 官吏瀆職ノ罪

第三編 第一章 第一節 謀殺故殺ノ罪 第二節 毆打創傷ノ罪 第六節 搶

奪ノ罪 第七節 脅迫ノ罪 ○第二章 第二節 強盜ノ罪 第

七節 放火失火ノ罪 第八節 決水ノ罪 第九節 船舶ヲ毀没スル罪 第十節

家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第十二條 合圍地境内ニ裁判所ナク又其管轄裁判所ト通路斷絶セシ時ハ民事刑事ノ別ナ
ク總テ軍衛ノ裁判ニ屬ス ○第十三條 合圍地境内ニ於ケル軍衛ノ裁判ニ對シテハ控訴
上告ヲ爲スコトヲ得ス ○第十四條 戒嚴地境内ニ於テハ司令官左ニ記列ノ諸件ヲ執行ス
ルノ權ヲ有ス但其執行ヨリ生ズル損害ハ要償スルヲ得ス

第一 集會若クハ新聞雜誌廣告等ノ時勢ニ妨害アリト認ムル者ヲ停止スルヲ 第二

軍需ニ供スヘキ民有ノ諸物品ヲ調査シ又ハ時機ニ依リ其輸出ヲ禁止スルヲ 第三

銃砲彈藥兵器火具其他危險ニ涉ル諸物品ヲ所有スル者アル時ハ之ヲ檢査シ時機ニ

依リ押収スルヲ 第四 郵便電報ヲ開封シ出入ノ船舶及ヒ諸物品ヲ檢査シ並ニ陸海

通路ヲ停止スルヲ 第五 戰狀ニ依リ止ムヲ得サル場合ニ於テハ人民ノ動産不動産
ヲ破壞燬燒スルヲ 第六 合圍地境内ニ於テハ晝夜ノ別ナク人民ノ家屋建造物船舶
中ニ立入り檢査スルヲ 第七 合圍地境内ニ寄宿スル者アル時ハ時機ニ依リ其地ヲ
退去セシムルヲ

第十五條 戒嚴ハ平定ノ後ト雖モ解止ノ布告若クハ宣告ヲ受ルノ日迄ハ其効力ヲ有スル
者トス ○第十六條 戒嚴解止ノ日ヨリ地方行政事務司法事務及ヒ裁判權ハ總テ其常例
ニ復ス

十五年八月御布告第四十三號

徵發令別冊ノ通制定ス 右奉 勅旨布告候事

徵發令

第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動かスニ方リ其
所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スル法トス但平時ト雖モ演習行軍ノ際ハ本條ニ
准ス ○第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ ○第三條 左ニ
記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

一 陸軍卿海軍卿鎮臺司令官及ヒ鎮守府長官 二 陸軍ニ於テハ特命司令官官軍團長
師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長 三 海軍ニ於テハ特命司令官艦
隊司令官官艦隊司令官分遣艦隊長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長

第四條 徵發ス可キモノ、種類ニ依リ徵發區(會社モ之ニ准ス)ヲ定ムルコト左ノ如ク

一 第十二條第一項ハ 府縣 二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ 郡區 三 第十二
條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ 町村 四 船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社

所有ノ瀛車ハ 會社

第五條 徵發ス可キモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル ○第六條 徵發書ハ徵發區

○軍事

ニ從ヒ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ ○第七條 徵發書ヲ受ケケル府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス ○第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス ○第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違フトキハ府知事縣令郡區長戸長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ナシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ ○第十條 徵發ヲ課セラレタルモノハ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得 ○第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領証票ヲ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ ○第十二條 徵發ス可キ者左ノ如シ

(一) 米麥秣糠鹽味噌醬油漬物梅干及ヒ薪炭 (二) 乘馬馱馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具 (三) 人夫 (四) 宿舍庭園及ヒ倉庫 (五) 飲水石炭

(六) 船舶 (七) 鐵道汽車 (八) 演習ニ要スル地所 (九) 演習ニ要スル材料器具

第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲グルモノ、外徵發ス可キモノ左ノ如シ但平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス

(一) 造船所工作所及ヒ軍事ノ工作ニ要スル材料器具 (二) 職工礦夫洗濯人ノ類

(三) 被服器具草鞋兵器彈藥船具縫具藥劑治療器械及ヒ綯帶 (四) 水車擔者ノ類 (五) 病院

第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

(一) 皇族所用ノ車馬 (二) 外國公使館弁ニ領事ニ屬スル車馬 (三) 乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹 (四) 郵便用ノ車馬 (五) 公認セラレタル種牛種馬

第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

(一) 公務ニ屬スル麻器 (二) 皇族ノ邸宅 (三) 外國公使館領事館及ヒ其所屬館 (四) 鐵道電信郵便用ノ建造物 (五) 陸海軍將校弁ニ同等官現住ノ家屋 (六) 博物館書籍館 (七) 病院盲啞院藥兒院 (八) 學校但臨戰合團地境內ニ在リテハ此限ニ在ラス (九) 製造場内機械室

第十六條 第十二條第二項ニ掲グルモノ、使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サズ但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス ○第十七條 第十二條第二項ニ掲グルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得 ○第十八條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ合團地境內ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス ○第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム ○第二十條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトヲ可シ ○第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サズ院倉庫亦同シ ○第二十二條 宿舍庭園ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス ○第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム ○第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲グルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトヲ可シ ○第二十五條 第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲グルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルコトヲ得 ○第二十六條 第十二條第六項ニ掲グルモノニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得 ○第二十七條 第十二條第六項ニ掲グルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及ヒ船隻ニ充

ツルモノハ此限ニ在ラス ○第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル瀛車其器具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル ○第二十八條 第十三條第五項ニ掲ケルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合州地境内ニ在リテハ全ク明渡サシムルコトヲ得 ○第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス ○第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送費ヲ支辨セス ○第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三月ヲ越ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス ○第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戸長停車場船會社ノ店長ヨリ之ヲ請求スヘシ ○第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス 其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ區戸長ニ届出可シ其届出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ユ可ラス若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限内持主若クハ操業者ニ於テ使用セントキハ無効トス

(一) 西洋形船舶 七日間 (二) 地所 評價委員ノ告示スル時日間 (三) 其他ノ物件 一日間

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ケ年間ノ平均價ヲ取リ之ヲ定ム其平均價ノ取リ難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス ○第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トヲ各個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ准シテ賠償ス ○第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラズ賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス ○第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲ケルモノ

ヲ買上ルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス ○第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ準シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス ○第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム ○第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外左ノ區別ニ從フ

(一) 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃 (二) 定路ヲ航スルモノ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乘載量五分ノ三ニ滿テタル以上ハ前項ノ例ニ準ス若シ之ニ滿テサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃 (三) 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トモサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航泊賃及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一ケ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス ○第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ損料トス但船舶及ヒ船艙ニ充テタルモノ、賠償金額ハ第四十一條第三項ニ準ス ○第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外平常ノ定賃トス ○第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス ○第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキニ限リ賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス ○第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス ○第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ損料ヲ賠償

○軍事

ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス ○第四十九條
 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス ○
 第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フテ賠償ス全ク明渡サ
 シムルトキハ第三十九條ノ例ニ准ス ○第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ規避シ或ハ漫リニ
 使役ヲ離シテシテモ及ヒ之ヲ敬唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三
 圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス ○第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡
 區長戸長停車場長船會社ノ店長其處置ヲ爲サ、ルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ
 處シ二拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出ルモノハ二十圓以上百圓以下ノ罰金
 ニ處ス ○第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有
 セサル官憲徵發書ヲ出シタルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劔官ヲ附加
 ス

同上費用志
納者ノ處分

十六年八月御布告第三拾壹號
 徵發令ニ依リ負擔スヘキ費用ノ意納者ハ明治十年(十一月)第七拾九號布告(租稅未納
 者ノ處分本書租稅ノ部ニ在リ)ニ依リ處分スヘシ但財產公賣ノ際買受屋入ナキトキハ徵
 發區ニ没入シ不足金アルトキハ其區ノ損失ニ歸ス
 右費用ニ關スル處分ニ就キ不服アル者ハ明治十五年(五月)第二十二號布告(課稅處分
 不服ニ付告訴ノ件本書租稅ノ部ニ在リ)ニ依ル可シ
 右奉勅旨布告候事

○衛生之部

明治十三年七月九日御布告(第三十四號)

虎列刺病豫防規則ヲ廢シ傳染病豫防規則左ノ通相定候條此旨布告候事

傳染病豫防規則

總則

第一條 此規則ニ稱ス 傳染病トハ虎列刺腸室扶私赤痢實布埒利亞發疹室扶私及ヒ痘瘡
 ノ六病ヲ云フ 但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルハ地方長官ハ內務省ニ具
 申シ豫防法ヲ施行スヘシ ○第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スル者ハ週ノモ二十四時間ニ
 之ヲ患者所在ノ町村衛生委員ニ通知スルヲ要ス衛生委員ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警察
 署ニ通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳(東京府下ハ府廳及ヒ警視本署)ニ届出ヘシ 但土
 地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直ニ警察署ニ届出警察署ヨリ衛生委員ニ通知スルモ妨ケナシ
 ○第三條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルハ其性狀ヲ記シテ速ニ之ヲ
 內務省ニ申報シ且ツ其管内及ヒ隣接若シハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其他碇泊ノ軍艦等ニ
 報告スヘシ 但流行ノ勢盛ナルハ毎週ニ新舊患者及ヒ治癒死亡ノ數ヲ內務省ニ申報ス
 ヘシ ○第四條 虎列刺發疹室扶私ノ病者アルハ地方廳ニ於テ直ニ此規則ヲ施行シ他
 ノ四病ハ其流行ノ勢盛ナルニ及ヒ之ヲ施行スヘシ ○第五條 諸官廳 兵營 軍監 監
 獄 及ヒ官立ノ學校 病院 製作所等ニ於テ傳染病者アルハ其主長 該地方官ト協議
 シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ ○第六條 虎列刺赤痢發疹室扶私痘瘡ノ流行ニ際
 シ地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要スヘキ認ムルハ內務省ニ具申シテ之ヲ設クル
 ヲ得 但人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許可ヲ請フヘシ ○第七條 醫師
 並ニ衛生委員ニ於テ傳染病者ノ看護行届カス若シハ病者ノ傳播ヲ防キ難シト認ムル者ハ

傳染病豫防
規則

○衛生

遊病院ニ入ラシムヘシ ○第八條 掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書シテ門戸ニ貼付シ要用ノ外人ト交通ヲ絶クシムヘシ 但患者治癒死亡又ハ遊病院ニ入りタル後ナ相當ノ消毒法ヲ行ハサルノ間ハ仍ホ本條ヲ遵守セシムヘシ

虎列刺病

第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ埋却セシムヘシ ○第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ濫リニ雜葬セシムヘカラス且他ニ改葬スルヲ許サス 但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシ其遺骨ハ改葬スルモ妨ナシ ○第十一條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具衣服器具及ヒ病室船室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ヒ之ヲ用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サス ○第十二條 虎列刺病流行ノ際ニハ井泉河流水道及ヒ厠園芥溜下水溝渠等總テ病毒萌生ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ ○第十三條 虎列刺病流行スルキハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨリ來ル所ノ船舶ヲ検査シ患者若クハ死者アルキハ此規則ニ從フテ處分スヘシ ○第十四條 虎列刺病流行ノ勢猛烈ナルキハ地方長官ハ內務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師衛生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適宜ノ人員ヲ撰ヒ檢疫委員ト爲シ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルヲ得 此場合ニ於テハ醫師タル者吐瀉ノ二症ヲ兼備スル病ヲ診斷スルハ總テ檢疫委員ニ届出ツヘシ但シ本項施行ノ終始ハ地方廳ヨリ之ヲ管内ニ告示シ內務省ニ申報スヘシ (本項十五年九月第四十八號布告ニテ追加) ○第十五條 前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群集ヲ禁止ルヲ得 虎列刺病已ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ホサ、ル様遮斷シ得ヘキモノト見認ムルキハ地方官ヨリ內務卿ニ稟議シ交通ヲ絶クシムルノ處分ヲ爲スヲ得 但要用ノ者ハ掛官吏檢察ノ上交通ヲ許スヲ得 (本項十四年十月第五十八號布告ニテ追加)

腸室扶私病

第十六條 腸室扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

赤痢病

第十七條 赤痢病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

實布埜里亞病

第十八條 實布埜里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用シ患者ノ痰唾及ヒ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

發疹室扶私病

第十九條 發疹室扶私病流行ノ際ハ第十條第十一條第十二條第十三條第十四條及ヒ第十五條ヲ適用スヘシ ○第二十條 發疹室扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタル車輿等ハ毎回消毒法ヲ行フニアラサレハ他用ニ供スヘカラス

痘瘡病

第二十一條 痘瘡病者アルキハ第十條第十一條及ヒ第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セシムヘカラス其流行ノ際ニハ第十二條ヲ適用スヘシ (此條十五年九月第四十八號布告ニテ改正)

罰則

第二十二條 醫師衛生委員此ノ規則ニ違背シタルキハ五十圓以内ノ罰金ニ處ス ○第二十三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルキハ百圓以内ノ罰金ニ處ス ○第二十四條 人民此規則ニ違背シタルキハ壹圓五十錢以内ノ科料ニ處ス

十三年十二月御布告第五十四號

同上改正

本年(七月)第三十四號布告傳染病豫防規則中左ノ通改正候條此旨布告候事

第二條ノ末ヘ増加 地方廳ハ一週間毎ニ新舊患者及ヒ治癒死亡ノ數ヲ內務省ニ申報スヘシ ○第三條但書削除 ○第四條削除 ○第十九條改正 發疹室扶私病者アルキハ第十

○衛生

病名票

傳染病ニ罹ル赤貧者

檢疫停船規則

船舶検査規則

條第十一條ヲ適用シ其流行ノ際ニハ第十二條第十三條第十四條及ヒ第十五條ヲ適用スヘシ

十五年八月御布告第四十七號

明治十三年(七月)第三十四號傳染病豫防規則第八條中病名票貼付ノ儀當分ニテ施行セ

ス 右奉勅旨布告候事

十六年二月御達第八號

明治十四年(四月)第三十號達左ノ通告正候條此旨相達候事

傳染病ニ罹リタル者身元赤貧ニシテ資力ナキハ本籍寄留旅行ヲ問ハス其費用ハ總テ發

病地ノ地方稅中衛生費ヲ以テ支辨スヘシ但流行ノ勢盛ナルトキハ時宜ニ依リ官費支給スルコトアルヘシ

十二年七月御布告第二十九號

檢疫停船規則(畧之)

十五年六月御布告第三十一號

虎列刺病流行ノ地方ヨリ來ル船舶検査規則左ノ通制定ス

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則

第一條 凡ソ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶ハ檢疫官ノ検査ヲ受ケ其記名セル許可ノ証

書ヲ得タル後ニアラサレハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並

ニ積荷ノ陸揚ヲ爲スヘカラス ○第二條 其船中該病患者又ハ該病死者ナキトキハ檢疫

官直ニ其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ

陸揚ヲ爲スノ許可ヲ與フヘシ ○第三條 若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルキハ

檢疫官其船舶ヲ陸地及ヒ他船ニ傳染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊

セシム可シ 該病患者ハ之ヲ避病院若シハ其住居若シハ其他檢疫官ノ適當ト認ムル場所

ニ送致スヘシ其死者ハ(若シ縁故人ノ望アルトキハ其望ニ從ヒ)地方官所定ノ場所ニ火葬シ若シハ十分ノ消毒法ヲ施シタル後チ之ヲ埋葬スヘシ 前項ノ手續ヲ終リ檢疫官ハ其乗組人船客ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後チ上陸ノ許可ヲ與ヘ其船舶及ヒ傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後チ其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ積荷ヲ陸揚ケスルノ許可ヲ與フ可シ ○第四條 此規則ニ違背シタル者若クハ此規則ノ執行ヲ妨害シタル者ハ刑法ニ依テ之ヲ處分スヘシ ○第五條 此規則施行始終ノ期日并ニ場所ハ其都度内務卿ヨリ之ヲ指定スヘシ

十四年七月内務省乙第三十二號達

明治十二年十二月當省乙第五十六號ヲ以テ相達候町村衛生委員撰舉ノ儀ハ自今地方ノ便宜ニ從ヒ町村會ニ於テ公選セシムルモ不苦候條此旨相達候事

十六年十月御布告第三十五號

醫師免許規則別冊ノ通制定シ明治十七年一月一日ヨリ施行ス但明治十五年(二月)第四号布達同年(八月)第三十九號布告ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

醫師免許規則

第一條 醫師ハ醫術開業試験ヲ受ケ内務卿ヨリ開業免狀ヲ得タル者トス但此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ証ハ仍ホ其効アリトス ○第二條 開業免狀ヲ得ントスル者ハ試験及第證書ヲ以テ地方廳チ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ ○第三條 官立及府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ントコトヲ願出ツルトキハ内務卿ハ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ ○第四條 外國ノ大學醫學部若クハ醫學校ニ於テ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ醫術開業免許ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ントコトヲ願出ルトキハ内務卿ハ其證書ヲ審査シ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアル可シ ○第五條 醫師ニ乏シキ地ニ於テハ府知事縣令ノ具

醫師免許規則

衛生委員

衛生委員

衛生委員

衛生委員

衛生委員

○衛生

三百廿九

狀ニヨリ内務卿ハ醫術開業試験ヲ經サル者ト雖モ其履歴ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ ○第六條 開業免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ム可シ ○第七條 開業免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ醫籍ニ登錄シ時々之ヲ公告ス可シ ○第八條 開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニ由リ免狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ ○第九條 開業免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免狀下付ノ節手数料金壹圓ヲ納ムヘシ ○第十條 醫師廢業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ内務省ニ返納ス可シ ○第十一條 醫師其業ニ關シ犯罪若シハ不正ノ行爲アルトキハ中央衛生會ノ審議ヲ經内務卿ニ於テ其業ヲ停止若シハ禁止スルコトアルヘシ但シ其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖モ本條ニ準シ處分スルコトアルヘシ ○第十二條 前條ニ據リ醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直チニ其開業免狀ヲ取上ケ之ヲ内務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書シ應印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ ○第十三條 内務卿ハ醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖モ本人ノ行狀ヲ勘査シ中央衛生會ノ審議ヲ經特ニ其禁止ヲ解クコトアルヘシ

醫術開業試験規則

十六年十月御布達第三十四號
今般第三十五號ヲ以テ醫師免許規則布告相成候ニ付醫術開業試験規則別冊ノ通り相定メ明治十七年一月一日ヨリ施行ス但明治十二年(二月)内務省甲第三號布達ハ同日ヨリ廢止ス 右布達候事

醫術開業試験規則

第一條 醫術ヲ開業セントスル者ハ此規則ニ據リ試験ヲ受クヘシ ○第二條 内務卿ハ毎年二回醫術開業試験ヲ舉行スヘシ但試験ヲ舉行スヘキ地方及ヒ試験期日ハ六ヶ月前之ヲ内務卿ヨリ告示スヘシ ○第三條 内務卿ハ醫術開業試験ヲ舉行スル毎ニ官立及ヒ府

縣立醫學校病院ニ從事スル者又ハ地方ニ於テ學術名望アル醫師理化學者等ヲ選ビ試験委員ヲ命スヘシ但齒科醫術開業試験ニ於テハ齒科醫官名ヲ試験委員ニ加フルコトアルヘシ ○第四條 内務卿ハ主事者ヲ派遣シ試験一切ノ事ヲ監督整理セシムヘシ ○第五條 醫術開業試験ハ之ヲ二期ニ分チ前期試験後期試験トス前後二期ノ試験ヲ同時ニ受クルコトヲ得ス但齒科醫術開業試験ハ全科一時ニ受クルモノトス ○第六條 試験科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 前期試験科目 第一物理學 第二化學 第三解剖學 第四生理學
- 後期試験科目 第一外科學 第二內科學 第三藥物學 第四眼科學 第五產科學 第六臨床實驗

第七條 齒科試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ
第一齒科解剖及生理 第二齒科病理及治術 第三齒科用藥品 第四齒科用器械 第五實地試驗

第八條 前期試験ハ一ヶ年以上後期試験ハ更ニ一ヶ年半以上修學セシ者ニ非レハ之ヲ受クコトヲ得ス ○第九條 前期試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ履歴書ヲ副ヘ後期試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ履歴書及ヒ前期試験及第ノ證書ヲ副ヘ毎年六月十二月中地方廳ニ差出スヘシ地方廳ハ翌月五日迄ニ其書類ヲ取纏チ内務省ニ進達スルモノトス但履歴書ニハ其師若シハ他ノ開業醫師二名以上ノ保證アルヲ要ス ○第十條 地方廳ニ於テ試験出願者中醫事ニ關シ犯罪若シハ不正ノ行爲アリト認ムル者アルトキハ之ヲ内務省ニ具狀スヘシ内務省ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經其情狀ニ因リ期限ヲ定メ試験ヲ許サハルコトアルヘシ ○第十一條 試験問題ハ試験主事者試験委員協議ノ上之ヲ撰定シ試験場ニ臨ミ受験人ヲシテ筆答セシム但時宜ニヨリ口答セシムルコトアルヘシ ○第十二條 試験主事者ハ試験終ルノ後試験委員ト與ニ其成績ヲ評定シ及第シタル者ニハ直チニ

衛生

及第證書ヲ與フヘシ但及第證書ニハ試驗主事者試驗委員連署スヘシ ○第十三條 試驗ニ落第シタル者ハ半年ヲ終ルニ非サレハ再試驗ヲ請フコトヲ得ス ○第十四條 醫術開業試驗開場ノ前日迄ニ左ノ手数料ヲ納ムヘシ
 前期試驗手数料金三圓 後期試驗手数料金五圓 齒科試驗手数料金五圓
 第十五條 受驗中疾病及ヒ其他ノ事故アリテ試驗ヲ中止シ又ハ落第シタル者ト雖モ前條ノ手数料ヲ返付セス
 十六年十二月內務省甲第二十六號
 今般太政官第三十四號ヲ以テ醫術開業試驗規則布達相成候ニ付右受驗人心得左ノ通相定候條此旨告示候事

受驗人心得

○第一條 醫術開業試驗ハ當省ヨリ告示シタル試驗舉行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得ヘシ ○第二條 醫術開業試驗ヲ受ケント欲スル者ハ本年第三十四號布達醫術開業試驗規則第九條ニ準據シ其願書ヲ居住ノ地方廳ヘ差出スヘシ ○第三條 前條許可ノ指令ヲ受ケタル者ハ當省ヨリ告示シタル期限迄ニ試驗舉行ノ地ニ若シ宿所氏名ヲ其地方廳ヘ届出ツヘシ ○第四條 試驗手数料ハ試驗舉行ノ前日迄ニ醫術開業試驗場ヘ相納ムヘシ ○第五條 試驗場ノ取締上不都合ト認ムヘキ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場セシムルコトアル可シ ○第六條 前期試驗ニ於テ二日後期試驗ニ於テ三日以上欠席スル者ハ主事者ヨリ其期ノ試驗ヲ終フルコトヲ得ス
 (書式零之)

○商法之部

四年十二月十八日御布告

華士族ノ職

官吏商賣營業ノ區分

華士族卒在官ノ外自今農工商ノ職業相營候儀被差許候事
 但職業相營候者ハ其業體人名等管轄府縣ニ於テ取調大藏省ヘ可届出事
 八年四月御達第六十五號
 官吏商賣ノ營業不相成ハ勿論ニ候處其區分判然ラザルニ付自今左ノ通被定候條此旨相違候事

但從前ノ指令之ニ抵觸スルモノハ廢止ト可心得事
 第一條 凡ソ官吏タルモノ并ニ其家族トモ他ノ物品ヲ買入レ之ヲ餘人ニ賣以テ利ヲ得ルモノ或ハ他ノ生産ヲ買入レ製作ヲ加ヘ之ヲ販賣シテ利ヲ獲ル等ノ業ハ一切禁止ノ事
 但神官教導職區戶長郵便取扱人學區取締役及ヒ等外吏ノ分ハ此限ニアラス
 第二條 官吏ノ家族自己レ財ヲ以テ商賣ノ業ヲ營マント欲スル者ハ分籍別居ノ上相營ムヘキ事
 第三條 左ノ數件ハ商賣ノ業ニアラサルニ付官吏タル者ト雖モ制禁ニアラサル事
 但商賣同様ノ店ヲ開クハ不相成事

○鐵山借區營業及ヒ田地ヲ所有シ其利ヲ得ル事 ○田地家屋ヲ貸シテ地代宿賃ヲ獲ル事
 ○金銀ヲ貸シテ利息ヲ獲ル事 ○所有地ヨリ生スル物産ニ製作ヲ加ヘ賣拂
 八年五月御布告第八十七號
 諸品賣買取引心得方定書去ル明治四年九月布告ニ及ヒ置候處自今相廢シ候尤向後賣買ノ約定ハ勿論其他諸取引ノ約定ヲ爲ス證書ニハ成ルヘキ丈ケ其約定ノ趣意ヲ明確ニ書キ職セ疎漏曖昧ノ事之レナキ様注意可致此旨布告候事

諸品賣買取引心得方定書廢止

○商法

各縣ヨリ受
紙貼用方

外國人銅鑄
出ノ差許

米麥輸出ノ
差許

米麥粉同上

消石輸出差
許

內國製造ノ
西洋紙等當
分無稅輸出

八年七月御布告第二十號

諸商業又ハ諸職業ニテ各縣ヨリ用向被申付候者ヨリ差出候受書類ノ中其事柄受負并約定筋ニ相涉リ候モノハ自今證券印稅規則第二條第一條第二類諸證書中諸受負證書及ヒ金錢約定證書ニ照シ證券印紙界紙可相用此旨布告候事

但本文同様ノ受書ニシテ金高記載セサル分ハ同規則中第三種金高記載無之約定證書ニ準シ證券界紙可相用事

二年三月九日御布告

從來外國人ニテ銅鑄出ノ儀政府入札ノ外ハ堅ク御禁止ノ處今度他品同様五步稅ニテ輸出可致御差許ニ相成候ニ付テハ向後御國內商人共銅鑄買ノ儀可爲勝手旨被仰出候事

六年七月御布告第二百四十六號

米麥ノ儀是迄海外輸出制禁候處國內ノ都合ニ依リ海關無稅ヲ以テ來ル八月一日ヨリ輸出差許候尤時宜次第此布告ヲ變換候節ハ二ヶ月以前ニ可相達此旨布告候事

六年十一月御布告第三百八十五號

本年七月第二百四十六號布告米麥ノ儀海外輸出被差許候ニ付テハ米麥粉ノ儀モ同様海關無稅ヲ以テ輸出被差許候尤時宜次第此布告ヲ變換候節ハ二ヶ月以前ニ可相達此旨布告候事

六年二月御布告第四十七號

從來消石輸出ノ儀ハ御禁止ノ處自今他品同様五分ノ稅額ニテ輸出被差許候條此旨相達候事

九年八月御布告第一百十號

內國製造ノ西洋紙及ヒ內國製ノ土錠當分ノ內無稅輸出差許候條此旨布告候事

內國製ノ水
錠同上

內國製ノス
リソケ水同
上

內國製木綿
等無稅輸出

內國製ヲラ
チル等同上

硫黃同上

新發明品專
賣免許廢止

製氷ノ何

九年十一月御布告第三百二十九號

內國製ノ水錠當分ノ內無稅輸出差許候條此旨布告候事

但課稅ノ節ハ二ヶ月前ニ布告スヘシ

十年三月御布告第二十六號

內國製ノ摺附木當分ノ內無稅輸出差許候條此旨布告候事

但輸出稅賦課ノ節ハ二ヶ月前ニ布告スヘキ事

十年十二月御布告第八十六號

內國製木綿ノリヤス編絆股引無稅輸出差許候條此旨布告候事

十一年十二月御布告第二十四號

內國製テラチル紋羽絨木綿ノ三種無稅輸出差許候條此旨布告候事

十四年四月御布告第二十七號

明治十四年五月十五日ヨリ硫黃無稅輸出差許候條此旨布告候事

但課稅ノ節ハ二ヶ月前ニ布告候事

五年三月御布告第一百五號

新發明品專賣免許ノ儀昨未四月及布告置候處御詮議ノ次第有之當分被廢止候尙御取調ノ上追テ被仰出候品モ可有之事(但向後諸物品新發明致候者有之候ハ、其管轄地方官ニテ發明品及其工夫ノ手續等詳細取調書ヲ以テ工部省へ可届出事

十一年九月內務省布達甲第廿五號

近年製氷營業人不潔ノ氷ヲ製シ營者有之不都合ノ儀ニ付自今右營業ノ者ハ毎年製造ノ節并ニ翌年發賣ノ節共前以管轄廳(東京府下警視本署)へ伺出檢査ヲ受候様可致此旨布達候事

十年三月內務省達乙第三十六號

煤制ノ取扱
類差止

從來煤製ノ鼠取藥ヲ以テ賣藥トナシ候儀開屆鑑札下渡候向有之候處右ハ毒藥ニテ到底民間誤用ノ慮ナキヲ免レヌ殊ニ本年太政官第二十號海藥劇藥取扱規則公布相成取締上ニモ關係候儀ニ付自今一切禁止候條右營業者有之府縣ハ其旨相達速ニ鑑札返納可取計此旨相達候事（但請賣營業ノ者モ同様賣藥規則ニ照シ禁止ノ處分可相達事）

毒藥劇藥取扱規則違

十年二月御布告第二十號
藥品中性効峻烈ニシテ若其用方ヲ誤ル時ハ人命傷害スヘキモノ少カラス然ルチ或ハ輕忽ノ取扱有之候テハ實ニ不容易義ニ付右取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事
毒藥劇藥取扱規則（規則略之）

石炭酸ノ販賣

十年九月御達第六十九號
石炭酸并ニ硫酸ハ劇藥ニ付本年二月第二十號毒藥劇藥取扱規則ヲ以テ妄リニ販賣不相成旨及布告置候處流行病有之節ニ限リ五十倍以上ノ水ニ溶解シタル分及ヒ他ノ藥物ト混和調製シタル分ハ地方應限リ販賣可差許此旨相達候事

彈藥雷管賣買ノ手續

十一年五月御布告第十一號
銃獵免許ノ者及ヒ有害ノ鳥獸威シ銃室内射の場營業免許ノ者需用ノ彈藥雷管ニ限リ賣買ノ手續左ノ通り相定候條此旨相達候事
銃獵免許ノ者及ヒ有害ノ鳥獸威シ銃室内射の場營業免許ノ者需用ノ彈藥等ヲ買ハント一欲スル時ハ其免狀若クハ免許證ヲ以テ彈藥賣買免許商人ニ示シ以テ其免許人タルヲ證スヘシ
彈藥賣買免許商人ハ右ノ免狀若クハ免許證ヲ認メ正確ナリトスルキハ左ノ程限ニ照シ之ヲ賣渡シ其姓名及ヒ數量等ヲ詳記シ月々其管轄廳東京ハ警視本署へ届出ツヘシ
西洋形獵銃用 彈藥（散彈ハトロンノ類）貳千發
同上用 雷管 四千粒

米商會所條列違

九年八月御布告第五十號
從來各地方ニ於テ差許置候米油限月賣買一切差止メ自今米穀賣買相場取引致シ度者ハ會社規則取調可願出旨明年七月十二月第三百三十七號ヲ以テ布告候處今般更ニ米商會所條列別冊ノ通相定候條營業致度者ハ右ニ照準可願出此旨布告候事

米商會所規則違

九年八月內務省布達甲第二十九號
本年八月太政官第五百五號公布米商會所條例ヲ遵奉シ營業致度者ハ自今別冊米商會所成規ニ照準出願可致此旨布告候事
但昨八年大藏省甲第十六號同十九號及ヒ同年六月心得違ノ趣ハ取消候事
米商會所規則（略之）

米油限月賣買禁止ノ延期

九年九月內務省布達甲第三十四號
米油限月賣買被禁候以後取引取纏ノ爲メ延期ノ儀追々開屆置候向モ有之處本年太政官第五百五號公布ノ趣モ有之候ニ付テハ最前開屆候期限內ノ分自今一切延期不相成候尤更ニ營業致度向ハ右公布及當省甲第二十九號布達ニ照準可致此旨布達候事

米商會所支分社等ノ制

十一年一月大藏省達乙第二號
米商會所并同仲買人共ニ於テ支社分店又ハ出張所等取設ケ其業務取扱候者モ有之哉ノ趣右ハ決シテ不相成等ニ候條若シ右様ノ向有之候ハ、差止可申候此旨相達候事
十一年五月御布告第八號

一 火繩銃用

火藥

壹貫目

室內銃用

雷管

壹方粒

右一次賣渡シ最多ノ程限トス若シ一次此程限外ノ彈藥雷管ヲ買ハント欲スルキハ銃砲取締規則第二則ニ從フヘシ

◎商法

株式取引所
條例

同上設置ノ
場所

洋銀取引所

米商會所等
臨時停止

米商株式類
似ノ取引ナ
高シタル者
處分方

明治七年十月第七號布告株式取引條例相廢シ更ニ別冊ノ通相定候條此旨布告候事

株式取引所條例(零之)

十一月五日大藏省御布達甲第十四號
今般太政官第八號ヲ以公布相成候株式取引所ノ儀ハ當分ノ内東京大坂ニ於テ一ヶ所宛ニ
相限リ候筈ニ候條爲心得此旨相達候事

十二年二月御布告第八號

從來神奈川縣下橫濱港ニ於テ洋銀相場取引致シ候者有之處右ハ一切禁止候條自今洋銀取
引所設立營業致シ度者ハ昨十一月五日第八號布告株式取引所條例ニ照準シ大藏省へ可願
出此旨布告候事

但資金ハ拾萬圓以上賣買証據金ハ百分ノ三以上タルヘシ
十五年八月御布告第四十六號

米商會所及ヒ株式取引所ノ賣買ニ不正惡弊アルカ又ハ賣買取引上ノ景況穩當ナラサル爲
メ公共ニ妨害ヲ及ホスト認ムルトキハ農商務卿ハ其會所及ヒ株式取引所又ハ仲買人ノ營業ノ
一部又ハ全部ヲ停止若シハ禁止シ又ハ役員ヲ退罷セシムルコトアルヘシ
但本年第二十六號布告米商會所條例追加第十二條ハ削除ス
十三年四月御布告第二十一號

法律定規ニ遵ヒ官許ヲ得タル米商會所株式及ヒ橫濱取引所外若クハ内タリモ竊カニ米穀
並金銀貨及株式ノ限月若クハ現場(定期ヨリ起リタル現場云フ)賣買其他之ニ類似シ
タル取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘
助シタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ無効トナスヘシ
但本條ヲ犯シタル者ヲ告發シタル者ニハ其告發ニ因テ科シタル罰金ノ全部ヲ給ス其自
ラ犯シタル者事未タ發覺セサル前ニ於テ自首シタル者ハ其罪ヲ問ハス

同上犯則者
處分方

同上限月賣
買

同上犯則者
處分方

神戸株式所
設置

同上取引ノ
許可
國立銀行條
例違

十六年一月御布告第四号

米商會所株式取引所ノ限月若クハ現場賣買ノ方法ニ倣ヒ又ハ之ニ類似ノ方法ヲ用ヒ諸物
品ノ賣買取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引
ヲ誘助シタル者ハ總テ明治十三年(四月)第二十一號布告ニ據リ處分スヘシ

十六年八月御布告二十七号

東京大阪橫濱神戸株式取引所ニ於テ金銀貨幣取引ノ儀當分ノ内二ヶ月以内ノ定期取引差
許ス但其取引ニ係ル規程ハ農商務卿ノ認許ヲ受ク可シ

十六年八月御布告第二十九号

米商會所及株式取引所ノ仲買人コシテ竊カニ米穀并金銀貨幣公債證書株式ノ限月若クハ
現場(定期ヨリ起リタル現場云フ)賣買又ハ其類似ノ取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣
買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ五拾圓以上千圓以下ノ
罰金ニ處シ其賣買取引ハ米商會所條例及株式取引所條例ノ手續ヲ爲サシム

十六年七月御布告第二十四号

明治十一年(五月)第八号布告株式取引所設立ノ儀更ニ今般兵庫縣下神戸港ニ於テ一個
所差許ス

十六年七月御布告第二十五号

神戸株式取引所ニ於テ當分ノ内金銀貨幣取引ヲ差許ス

九年八月御布告第六号

明治五年十一月第三百四十九号布告國立銀行條例ノ儀詮議ノ次第有之別冊ノ通改正致シ
舊條例ハ自今相廢シ候條新ニ國立銀行ヲ創立セントスル者ハ勿論從來舊條例ヲ遵奉シテ
創立シタル者ト雖モ右改定條例ニ準據シ大藏省へ出願ノ上其免許ヲ受テ候條可致此旨布
告候事

○商法

日本銀行條例
手形條例

國立銀行條例 (零之)

十五年六月御布告第三十二号
日本銀行條例左ノ通制定ス

日本銀行條例 (零之)

十五年十二月御布告第五十七号

爲替手形約束手形條例

第一章 爲替手形

第一節 爲替手形性質及ヒ法式

第一條 爲替手形ハ振出人ヨリ支拂人ニ宛テ記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケケル人ニ拂渡サシムル證券ヲ謂フ

第二條 爲替手形ニハ左ノ件々ヲ記載シ振出人記名調印ス可シ

一 金額

二 振出ノ年月日及ヒ場所

三 支拂ノ期限及ヒ場所

四 支拂人ノ氏名

五 受取人ノ氏名

六 受取人又ハ其所有權ヲ受ケケル人ニ支拂フ可キ旨

第三條 爲替手形ハ一ノ爲替ニ付キ同文ノ手形ニ通又ハ三通ヲ振出スヲ得此場合ニ於テハ各通ニ番号ヲ附シ内一通ニ對シ支拂ヲ爲シタル時ハ他ノ各通ハ無効タル可キヲ記載ス可シ

第四條 爲替手形ノ金額ハ五圓以上ニ限ル者トス

第二節 支拂期限

第五條 爲替手形ノ支拂期限ハ左ノ如ク區別ス

一 一覽拂

二 定期拂

三 一覽後定期拂

第六條 一覽拂ノ手形ハ其呈示ヲ受ケタル時直ニ支拂フ可キ者トス

第七條 定期拂ノ手形ハ手形ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ者トス

第八條 一覽後定期拂ノ手形ハ一覽濟ノ日ヨリ其日數ヲ起算シ手形ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ者トス

第九條 一覽拂ノ手形及ヒ一覽後定期拂ノ手形ハ振出ノ日ヨリ三ヶ月以内ニ之ヲ呈示ス可シ

第十條 定期拂ノ期限ハ振出ノ日附ヨリ一覽後定期拂ノ期限ハ一覽濟ノ日ヨリ六ヶ月以内トス

第三節 爲替資金

第十一條 振出人ハ支拂人ニ對シ爲替資金ヲ交付スルノ義務アル者トス

第十二條 振出人ヨリ支拂人ニ對シ貸方計算アル時ハ之ヲ以テ爲替資金ニ供用スルヲ得

第四節 裏書

第十三條 爲替手形ハ裏書ヲ以テ其所有權ヲ移轉スルヲ得

第十四條 裏書ニハ買受人又ハ讓受人ノ氏名及ヒ年月日ヲ記載シ賣渡人又ハ讓渡人氏名住所ヲ記シ調印ス可シ

第十五條 裏書人ハ振出人及ヒ自己以前ノ裏書人ト共ニ自己以後ノ裏書人及ヒ手形所持人ニ對シ相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス

第十六條 手形ノ裏面ニ餘白ナキ時ハ補箋ヲ爲シ裏書ヲ爲スヲ得

第五節 保證
第十七條 振出人裏書人及ヒ支拂人ハ他人ヲシテ手形ノ支拂ヲ保證セシムルヲ得

保証人ハ其保證ノ旨ヲ手形又ハ別紙ニ記載ス可シ

第十八條 振出人裏書人ノ保証人ハ本人義務ヲ欠キタル場合ニ於テ本人ニ代リ他ノ義務者ト相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス

第十九條 保証人支拂ヲ爲シタル時ハ本人ニ代リ其權利ヲ有スル者トス

第六節 引受
第二十條 定期拂手形及ヒ一覽後定期拂手形ノ所持人ハ支拂人ニ其引受ヲ求ムルヲ得

第二十一條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ其旨及ヒ年月ヲ手形ニ記載シ記名調印ス可シ

第二十二條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ振出人身代限ノ處分ヲ受ケタル場合ト雖モ其取消ヲ爲スヲ得ス

第二十三條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ所持人ハ引受ノ拒ミ證書ヲ受ク可シ

第二十四條 所持人拒ミ證書ヲ受ケタル時ハ其旨ヲ電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ振出人又ハ裏書人ニ通知シテ爲替金額及ヒ諸費用ニ相當スル抵當又ハ保証人ヲ以テ保證ヲ立テシムルヲ得

通知ヲ受ケタル裏書人ハ振出人又ハ自己以前ノ裏書人ニ對シ所持人同一ノ處置ヲ爲スヲ得

第二十五條 振出人又ハ裏書人ノ内既ニ相當ノ保證ヲ立テタル者アル時ハ其以後ノ裏書人ハ保證ヲ立ルノ義務ヲ免カル、者トス

第七節 支拂

第二十六條 手形ニ貨幣ノ種類ヲ記シタル時ハ其貨幣ヲ以テ支拂フ可シ

第二十七條 手形所持人ハ支拂期限ニ於テ其支拂ヲ請求ス可シ若シ定式ノ祝日祭日或ハ慣習ノ休業日ニ當ル時ハ其翌日之ヲ請求ス可シ

第二十八條 手形所持人支拂金ヲ受取ル時ハ手形ニ領收ノ旨ヲ記載シ記名調印シテ金額ト引換ヘ支拂人ニ交付ス可シ

第二十九條 一ノ爲替ニ付キ手形數通アル時ハ支拂人ハ其引受ケテ記載シタル手形ニ對シ支拂ヲ爲ス可シ

第三十條 支拂人期限ニ至リ手形ノ支拂ヲ爲サ、ル時ハ手形所持人ハ支拂ノ拒ミ證書ヲ受ク可シ

第三十一條 支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル者ハ其旨ヲ電信書留郵便其他證據トナル可キ手續キテ以テ振出人及ヒ各裏書人ニ通知ス可シ

第八節 拒ミ證書
第三十二條 支拂人手形ノ引受又ハ支拂ヲ拒ム時ハ手形ニ附箋ヲ爲シ其旨及ヒ年月日ヲ記載シ記名調印ス可シ之ヲ拒ミ證書ト爲ス

第三十三條 支拂人拒ミ證書ヲ作ルヲ肯セヌ又ハ其住所分明ナラス又ハ不在ニテ代理人ナキ時ハ所持人自ラ其始末ヲ記シ記名調印シテ郡區役所若シハ戶長役場ノ證印ヲ受ケ拒ミ證書ニ代用ス可シ

第三十四條 支拂人身代限ノ處分ヲ受タル場合ニ於テハ支拂期限前ト雖モ手形所持人ハ拒ミ證書ヲ受クルヲ得

第九節 償還ノ要求

第三十五條 手形所持人支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル時ハ其日附ヨリ十五日以内ニ振出人裏書人ノ中一人若シハ數人ニ對シ爲替手形ノ金額期限後ノ利子及ヒ拒ミ證書並ニ通知

ノ費用ノ償還ヲ要求スルヲ得

第三十六條 第三十五條ノ要求ニ對シ償還ヲ爲シタル裏書人ハ其日ヨリ十五日以内ニ自己以前ノ裏書人又ハ振出人ノ中一人若クハ數人ニ對シ自己ノ償還シタル金額及ヒ其利子ヲ要求スルヲ得

第三十七條 振出人ハ爲替資金ヲ支拂人ニ交付シタルノ故ヲ以テ償還ノ要求ヲ拒ムヲ得ス

第三十八條 要求ヲ受ケタル者ハ拒ミ證書ヲ付シタル爲替手形及ヒ證據ヲ添ヘタル計算書ト引換ヘニ非レハ償還ヲ爲スニ及ハス

第三十九條 第九條ノ呈示期限第二十七條ノ支拂請求期限及ヒ第三十五條第三十六條ノ要求期限ヲ怠リタル者ハ裏書人及ヒ爲替資金ヲ交付シタル振出人ニ對シ要求ノ權利ヲ失フ者トス但引受ヲ爲シ若クハ爲替資金ヲ受ケタル支拂人又ハ資金ヲ交付セザル振出人ニ對シ第九條第二十七條ノ期限ニ係ル者ハ振出ノ日附ヨリ起算シ第三十五條第二十六條ノ期限ニ係ル者ハ拒ミ證書ノ日附ヨリ起算シテ三ケ年間償還ヲ要求スルヲ得

第十節 紛失

第四十條 手形所持人手形ヲ紛失シタル時ハ直ニ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ其手形ノ流通ヲ止ムル旨ヲ廣告シ又電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ支拂人ニ通知シ其支拂ヲ止メシム可シ

第四十一條 手形紛失人ハ振出人ニ紛失ノ旨ヲ證シ代手形ヲ請受ケ各裏書ヲシテ再ヒ之ヲ裏書セシメ更ニ其手形ヲ流通スルヲ得但振出人ハ手形紛失人ヲシテ保證ヲ立テシムルヲ得

第四十二條 手形紛失人代手形ヲ受ケ得サル時ハ支拂期限ニ至リ支拂人ニ對シ真正ノ所持人タル旨ヲ證明シ支拂ヲ請求スルヲ得但支拂人ハ手形紛失人ヲシテ保證ヲ立テシ

ムルヲ得

第二章 約束手形

第四十三條 約束手形ハ振出人記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ自ラ支拂フヘキ旨ヲ約束シタル證券ヲ謂フ

第四十四條 約束手形ハ定期拂ニシテ金額ハ二十五圓以上ニ限ル者トス

第四十五條 爲替手形ニ付キ定メタル規則ハ第三節第六節其他約束手形ノ性質ニ反スル條目ヲ除ク外之ヲ約束手形ニ適用ス可シ

第三章 通則

第四十六條 第三十五條第三十六條ノ要求期限ハ路程ニ要スル日數八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與フルモノトス

第三十五條第三十六條ノ要求期限及ヒ第九條呈示ノ期限外國ト關係スルモノハ其路程ニ要スル相當日數ノ猶豫ヲ與フルモノトス

第四十七條 第一節第四節及ヒ第四十三條第四十四條ノ規程ニ合セサル手形ハ裏書ヲ以テ所有權ヲ移轉スルヲ得ス

十三年一月御布告第一號

藥品取扱規則左ノ通相定來ル二月十五日施行シ明治十年二月第二十號布告毒藥劇藥取扱規則ハ右同日限相廢條此旨布告候事

藥品取扱規則

藥品取扱規則

第一條 凡藥品中最モ注意シテ精選スヘキモノヲ第一類(注意藥)トシ其性効峻烈ニシテ僅少ノ分量ト雖モ直ニ性命ヲ傷害スルニ足ルヘキモノヲ第二類(毒藥)トシ其性効第二類ノ如ク峻烈ナラサルモ用量ニ因テ容易ニ危害ヲ來スモノヲ第三類(劇藥)トス其類目別表ノ如シ

○商法

但新クニ發見及ヒ舶齋シタル藥品ハ先ツ最寄司藥場ニ出シテ試験ヲ受ケ其告示スル所ニ從フヘシ

第二條 第一類藥品ハ其性効ノ緩劇ニ拘ハラズ若シ精良ナラサルトキハ醫師ノ目的ヲ誤リ以テ人命ヲ危フスルカ故ニ其粗製品(故意ニ他物ヲ混シタルニアラス全ク化學製造上或ハ採取ノ際其法疎漏ニシテ純精ナラサルモノ、類ヲ云フ)ハ之ヲ藥用トシテ販賣スヘカラス

但藥舖ニ於テ自ラ其真否ヲ鑑別シ能ハサルトキハ最寄司藥ニ請ヒ無費ニテ其試験ヲ受クルヲ得

第三條 第一類中ノ粗製品ト雖モ仍ホ學術上工職上等ノ用ニ供スルニ足ルモノハ粗製ノ字ヲ其器ニ明記シ之ヲ販賣スルヲ得

第四條 第二類第三類ノ藥品ハ醫師ノ處分書ニ據テ調合スルノ外醫師藥舖化學者製藥者工職者等ヨリ品名量數需用ノ目的年月日及ヒ住所姓名ヲ詳記シタル證書ヲ以テスルコトヲ決シテ販賣或ハ授與スヘカラス

但證書處方書ハ之ヲ保存シ臨時ノ點檢ニ供スヘシ且本條ノ手續ニ依ルモノト雖モ幼稚ノモノ其他不安心ト認ムル者ニハ一切交付スヘカラス

第五條 第二類第三類ノ藥品ヲ販賣スルトキハ其器若シハ包紙ニ必ス普通ノ名稱ヲ記シ且第二類ハ毒ノ字第三類ハ劇ノ字ヲ明書スヘシ

但醫師ノ處方書ニ據ラズシテ封緘ヲ開キタル第二類第三類ノ藥品ヲ小賣若シハ授與スルハ本條ノ外更ニ適應ノ器ニ入レ密閉封印スヘシ

第六條 第二條第四條本文ニ背戻シ又ハ贗品(故意ニ他ノ物品ヲ本品ニ混合シテ其容量重量ヲ増スモノ若シハ他ノ物品ヲ以テ本品ニ擬シ或ハ名箋ヲ變換スルモノ、類ヲ云)敗品(總テ酸敗、風化、或ハ潮解シ若シハ黴爛ヲ生シ陳敗ニ傾ク等ニ因リ其藥品本性ノ

効力ヲ變シ或ハ其効力ヲ失スルモノ、類ヲ云)ヲ販賣スルモノハ其贗敗品ヲ没入シ三十拾圓以上五百圓以下ノ罰金若シハ一月以上壹年半以下ノ懲役第一條但書第四條但書及第三條第五條ニ背戻スルモノハ一圓以上貳拾五圓以下ノ罰金若シハ一日以上廿五日以下ノ懲役科シ又ハ罰金懲役ヲ併セ科スヘシ

第七條 右ノ罰則ヲ再犯スルモノハ其本罰ノ最多限ニ二倍以下ノ罰ヲ科シ三犯スルモノハ本罰ノ最多限ニ三倍以下ノ罰ヲ科スヘシ

第一類(注意藥)表

- 印度大麻葉及其製劑
- 番木鱈子及其製劑
- 礮砂糖(アンモニア水)
- 肝油 ユヂウム
- 第一コロル乘(甘汞、カロメル)
- 炭酸アンモニヤ(礮砂華)
- 蒞刺巴脂并球根及其製劑
- コロラルヒドレート
- アトロヒテ鹽類
- 醋酸アンモニヤ水(シンデノリ精)
- 機那皮 規尼涅鹽類
- 失鳩答草及製劑
- ニイテル(アートル)
- 莫爾比涅鹽類
- 第二類(毒藥)表
- 莖若葉并根及其製劑
- 乳酸鐵
- チキタリス葉及其製劑
- 沃土加里
- 第二コロル乘(昇汞、猛汞、ソビル、マート)
- 老利爾結兒私水并苦扁桃水
- 芫菁(斑蝥)
- 阿片製劑
- 齒爾撒根
- 綿馬及其製劑
- 臭素加里(ブロームカリウム、臭素制篤亞私)
- ヒュス葉及其製劑
- 水素還元鐵
- 麥奴及其製劑
- 吐根
- カラハル豆及其製劑
- 第一沃土汞(黃色沃汞)
- 葛陀羅華及其製劑
- コロ、フオルム
- 格魯華篤實及其製劑
- サントニーナ
- サリシール酸及鹽類
- 硝酸銀
- 鏡麻子油

○商法

燐 カンダリチーチ クラートレ(矢毒、ウラ、)
 亞砒酸(異名、白砒石、礬石、アルセニッキ)其製劑及砒抱合物(雞冠、雄黃雌黃ノ類)
 揮發苦扁桃油 有毒性アルカロイド并其鹽類
 ニコチ子。ヂキタリ子。ナルセー子。ヴェラトリ子。ソルシ子。コニー子。コデー子。
 アトロヒ子。アコニ子。エメチ子。ヒユシアミ子。モルヒ子。ストリキニー子。等
 猛劇未劑
 白降汞。第一沃汞。第二沃汞。昇汞。赤降汞。硝酸亞酸化汞。青酸汞。生々乳
 青酸其製劑

第三類(劇毒)表

印度大麻葉及製劑 莨菪葉并根及其製劑 番木鱈及其製劑
 巴豆及巴豆油 麥奴及其製劑 ボドヒリオン ヘルンボル根及其製劑
 吐根及其製劑 吐酒石其他安質莫尼製劑 硫酸 カラバル豆及其製劑 毒高莖及其製劑 藤黃
 ナキタリス葉及其製劑 芥子油及芥子精 ヨチウム鐵 ヨードホルシウム
 苛性曹達(腐蝕曹達) 沃土加里 ヨチウム鐵 ヨードホルシウム
 ヨチウム及其製劑 雙鸞菊球根(烏頭、附子)其製劑 老利爾結兒私水并苦扁桃水 ヴニラトリ根
 過酸滿掩酸加里及曹達 芎藭(斑猫)及其製劑 ケレチノイト プロミウム(ブローム、臭素)
 コローム酸 コルシウム實并根及製劑 コロシント實及其製劑
 コロ、フォルム(迷障水)コロトノコロラルヒドライト コロラルヒドライト 阿片及其製劑
 コロダイン コローム酸加里及重コローム酸加里 錯酸鉛(鉛糖)其他鉛製劑
 亞鉛華其他亞鉛製劑 サヒナ葉及其製劑

石油取締規則

十六年二月御布告第六號

明治十四年(八月)第四十號及同年九月第五十號布告石油取締規則左ノ通改定ス

但施行日限ノ儀ハ明治十五年(八月)第四十四號布告ノ通タルベシ

第一條 石油ヲ分テ二種トシ閉塞發煙試驗法ヲ用ヒ攝氏驗温器三十度(華氏八十六度)以上ノ温度ニ達セザルハ發煙セサルモノヲ第一種トシ三十度ニ達セスシテ發煙スルモノヲ第二種トス ○第二條 點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二種ノ石油ハ醫藥調劑及ヒ物理學化學工業上ニ於テ業用ニ供スルノ外ニテ用フルヲ許サス ○第三條 石油營業者ヲ分テ擴張業者精製者問屋及ヒ小賣商ノ四類トス其營業者ハ都テ管轄廳(東京府下ハ警視廳)ノ許可ヲ受クヘシ但二類以上兼業スルトキハ別ニ其許可ヲ受ク可シ ○第四條 石油ノ種類ハ内務卿ノ必要トスル地方ニ於テ檢査員ヲシテ之ヲ檢査セシムヘシ 石油ハ檢査済ノ證アルモノニアラザレハ之ヲ販賣スルヲ許サス但擴張業者ヨリ精製者ニ販賣スルハ此限ニアラス ○第五條 檢査済ノ石油ヲ家屋内ニ貯藏スルヲ得ルハ第一種ノ石油五石以内第二種ノ石油五斗以内トシ容器ハ漏出ノ虞ナキ不燃質ニ限ルヘシ ○第六條 石油營業者前條制限外ノ石油并ニ檢査未済ノ石油ヲ貯藏スル場所建物及ヒ精製所ノ構造方ハ都テ管轄廳(東京府下ハ警視廳)ノ認可ヲ受ク可シ ○第七條 第二種ノ石油ハ精製者問屋ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限リ販賣スルヲ得ルモノトス ○第八條 第二種ノ石油ヲ販賣スル者ハ購買者ヨリ其數量及ヒ需用ノ趣意年月日

○商法

同上施行期

同上延期

印紙賣捌手

住所氏名ヲ詳記シタル書付ヲ取リ置キ一年間保存スヘシ但販賣時限ハ日出ヨリ日没マテトス ○第九條 石油ヲ運搬スルトキハ其石油タルコトヲ表記スヘシ但其積卸ニ必用ナル時間ノ外物揚場又ハ路傍ニ置クヘカラス ○第十條 此規則ヲ犯シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

十五年八月御布告第四十四號
明治十四年(九月)第五十號布告石油取締規則施行日限ノ假更ニ明治十六年七月一日ト改定ス

十六年三月御布告第十號
明治十五年(八月)第四十四號及本年(二月)第六號布告石油取締規則施行日限ノ假更ニ十五年十二月御布告第二十七號

印紙賣捌手續別紙ノ通相定明治十六年一月一日ヨリ施行ス但從前賣捌免許ヲ受ケタル者ハ當分ノ内是迄ノ通心得ヘシ 右布達候事

印紙賣捌手續

第一條 印紙類ノ賣捌ハ陸軍恩給令海軍退隱令巡查看守給助例ニ依リ恩典ヲ受クル者ニ限リ之ヲ許可スヘシ但賣捌ノ出願者少クシテ需用人ニ支障ヲ生スル地方ニ於テハ當分從前ノ手續ヲ以テ許可スヘシ ○第二條 印紙類ノ賣捌ヲ爲サントスル者ハ其旨地方廳ニ願出テ賣捌所看板ヲ受ク可シ ○第三條 此手續ニ依リ賣捌クヘキ印紙類左ノ如シ
一 証券印(界)紙 一 烟草印紙 一 訴訟用野紙 一 賣藥印紙

第四條 印紙類代金ハ其下渡ヲ乞フ時三分ノ一ヲ納メ其餘ハ左ノ期限ニ從ヒ納ム可シ

第一期 二月廿八日限 第二期 五月三十一日限 第三期 八月三十一日限
第四期 十一月三十日限

古物商取締條例

第五條 賣捌手数料ハ賣捌代金高十分ノ一ヲ支給スヘシ ○第六條 賣捌人ハ保證人ヲ立テ第四條ノ期限ニ從ヒ印紙類代金ヲ納ムルハ勿論印紙類ヲ亡失又ハ損傷スルモ該代金ハ辨納スヘキ旨ヲ記載シタル証書ヲ作リ保證人連署ノ上之ヲ地方廳ニ差出スヘシ但シ避ク可カラサル事變ニ遭遇シタル者ハ事狀ヲ具シテ處分ヲ乞フ可シ ○第七條 賣捌人恩典ノ定期盡キタル時又ハ其停止ヲ受ケタル時又ハ廢業シタル時ハ第四條ノ期限ニ關セズ其賣捌殘餘ノ印紙類及ヒ賣捌代金ヲ完納スヘシ但賣捌所看板ハ其節之ヲ返納スヘシ ○第八條 印紙類ノ損傷汚染シタルモノアル時ハ其代價百分ノ五ノ金額ヲ添ヘテ返納ヲ許スコトアルヘシ

十六年十二月廿八日御布告第五拾號
古物商取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年二月一日ヨリ施行ス
(別冊)

古物商取締條例

第一條 古物商トハ古道具古本古書古畫古若古銅鐵鍍金銀ヲ賣買スル營業者ヲ云フ 袋物屋小間物屋籠甲屋時計屋飾屋宿打屋煙管屋ニシテ其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スル者及ヒ刀劍商ハ此條例ニ準據スヘシ ○第二條 古物商ハ管轄廳(東京府ハ警視廳)ノ免許ヲ受クヘシ ○第三條 古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタルトキハ警察官ニ於テ其物品及ヒ賣主讓主ヲ調査スルニ差支ナキ簿冊ニ記載シ且買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ ○第四條 身元詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス但身元詳ナル者其証人タルトキ又ハ警察官若クハ巡查ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限リニアラス ○第五條 十五年未滿ノ者白痴風癪者及ヒ雇人(雇主ノ家ニアル者)ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者其証人タルトキハ此限ニアラス 官廳町村學校病院社寺會社ノ印章記號アル物品ハ其賣却シ得ヘ

○商法

キコトヲ證明スル證人貳名以上アルニ非サレハ之ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス 前
 二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニヨリ無代價ニテ物品ヲ取戻サルコトアルヘシ ○
 第六條 古物商ハ營業者タルト否ト問ハス盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條
 第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏スルトキハ警察官
 ノ許可ヲ受クヘシ違フ者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮又ハ三拾圓以上三百圓以下ノ罰金
 ニ處ス ○第七條 古物商ハ自宅又ハ許可ヲ受ケタル市場及ヒ賣主讓主ノ居室ノ外ニ於
 テ物品ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス ○第八條 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ハ身
 元詳ナラサル者及ヒ盜罪賭博ノ處斷ヲ受ケタル者ニ賣渡讓渡シ又ハ露店及ヒ路傍ニ於テ
 賣渡讓渡スルコトヲ得ス ○第九條 古物商物品ヲ他府縣ニ運送セントスルトキ又ハ他府
 縣ヨリ受取リタルトキハ其物品ノ目錄ヲ所轄警察署ニ届出ツヘシ 警察官ハ時宜ニ依リ
 荷作ヲ解キ物品ヲ檢査シ之ヲ差押フルコトアルヘシ但費用ハ届人ノ之ヲ擔當スヘシ ○第
 十條 贖物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ ○第十一
 條 品觸到達以後一年内ニ類似ノ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏シタルトキ若クハ其
 以前ニ之ヲ得タルマ、所持シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ若シ届出テスシテ
 其理由ヲ辨解スルコト能ハサル者ハ第六條ノ刑ニ同シ ○第十二條 物品ノ賣買交換ヲ
 記載シタル簿冊及ヒ品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直ニ所轄警察
 署ニ届出ツヘシ ○第十三條 警察官ハ何時タリトモ古物商ノ店舗ニ臨ミ物品及ヒ簿冊
 ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ時々簿冊ヲ差出サシメ之ヲ檢査スルコトア
 ルヘシ古物商ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス ○第十四條 第二條第三條第四條第五條第七條第
 八條第九條第十條第十二條第十三條ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ貳圓以上二
 百圓以下ノ罰金ニ處ス ○第十五條 第六條第十一條第十四條及ヒ刑法第三百九十九條
 第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル古物商ハ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ於テ三月以上三年以下

ノ特別取締ニ付スルコトヲ得 ○第十六條 特別取締ニ付セラレタル者ハ尙ホ左ノ項目
 ニ從フヘシ

- 一 物品ヲ買取リ又ハ交換シタルトキハ其賣主讓主ノ住所氏名年齢及ヒ物品ノ形状
 (徽章番號柄柄模樣損所ノ類ヲ云フ)價額年月日時ヲ簿冊ニ記載スヘシ
- 二 日出前日歿後ハ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏スルコトヲ得ス
- 三 營業者ニアラサル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換シタルトキハ其物品ヲ原狀ノ儘
 五日間保存スヘシ
- 四 物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタルトキハ其物品ノ形状價額年月日時ヲ簿冊ニ記載シ
 且買主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知り得タルトキハ之ヲ記載スヘシ
- 五 毎月一度物品賣買交換ノ簿冊ヲ所轄警察署ニ差出シ其檢査ヲ受クヘシ
- 六 住所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊同居セシメントスルトキハ所轄警察署
 ノ認可ヲ受クヘシ

○第十七條 前條ニ違背シタル者ハ三圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス ○第十八條 特
 別取締ニ付セラレタル者第六條第十一條第十四條第十七條ニ依リ罰金ニ處セラレタルト
 キハ直ニ之ヲ納完セシム若シ納完セサル者ハ留置セラレ、コトアルヘシ ○第十九條
 古物商一年内ニ此條例ヲ再犯シタルトキハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止ス
 ルコトヲ得 ○第二十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス ○第
 二十一條 此條例ヲ犯シテ買取リ又ハ交換シタル物品贖物ニ係ルモノハ營業者ニ係ルト
 否ト問ハス警察署ニ於テ之ヲ追徵シテ被害者ニ還付スヘシ若シ被害者知レサルトキハ
 之ヲ領置シ一年ノ後官沒ス ○第二十二條 商業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ
 營業者其責ニ任スヘシ ○第二十三條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事
 (東京府ヲ除ク)縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ツヘシ

○商法

○財產之部

四年五月廿三日御布告

古器舊物ノ類ハ古今時勢ノ變遷制度風俗ノ沿革ヲ考証シ候爲メ其裨益不少候處自然厭舊競新候流弊ヨリ追々遺失毀壞ニ及候テハ實ニ可惜事ニ候條各地方官ニ於テ歷世藏貯致居候古器舊物類別紙品目之通細大チ不論厚ク保全可致事但品目并ニ所藏人名委詳記載シ其管廳ヨリ可差出事

別紙品目 (零之)

五年八月御布告第二百四十號

地代店賃ノ儀從來東京府下ヲ始メ間々制限ヲ立置候向モ有之哉ニ相聞候處以來ハ双方共相對テ以テ取極致賃借候儀可爲勝手事

一諸奉公人諸職人雇夫等給金雇料ノ儀是亦自今双方共相對テ以テ取極候儀勝手ナルヘシ尤諸職人等はマテ得意或ハ出入場ト唱ヘ常ニ備レ先チ極メ置候分雇主方ニテ他ノ職人雇入候節彼是故障筋申掛候者モ有之由向後右様心得違無之様可致事

右之通相達候條各府縣ニ於テ管内無洩可告示事

五年二月御布告第五十號

地所永代賣買ノ儀從來禁制ノ處自今四民共賣買致所持候儀被差許候事

五年二月大藏省布達第二十五號

今般地所永代賣買被差許候ニ付今後賣買并讓渡ノ分地券渡方等別紙規則ノ通可相心得事

地券渡方規則

第一條 地券相渡候節地券ハ最前ノ雛形通りニ製シ地主ニ相渡地券大帳ハ二ツ折ニ仕立半枚ニ三筆ツ、記載シ券狀ト割印可致置事(腹書多分有之分ハ見計タルヘキ事)

古器舊物ノ保

地代店賃ノ取極

地所永代賣買

地券渡方規則

第二條 地券大帳ハ年々收稅ノ照準ニ致シ地券渡濟ノ上一村限地所ノ段別地券金高トモ總合高取調租稅寮ニ可差出事(總合高取調方別紙表式ノ通可相心得尤表式ハ追テ可相渡事)

第三條 地券申受ノ儀ハ別紙願面書式ノ通り相認爲差出可申事

第四條 右願出有之節ハ雙方情實篤ト相糺相違無之候ハ、地券相渡可申事

第五條 一筆ノ地所ヲ裂キ賣買致度旨願出候ハ、實地ニ於テ總步數改換地帳ニ照合シ引分ケ方偏頗無之様篤ト檢査ノ上願ノ趣開届地券相渡可申事

第六條 右地券ハ地所持主タル確證ニ付大切ニ可致所持旨兼テ相論置可申候萬一水火盜難ニテ地券ヲ失ヒ候節ハ二人以上ノ證人ヲ立村役人連印ヲ以書替ノ儀爲願出可申事(但盜難等ニテ失ヒ候分後日相知ノ候ハ、早速可差出旨請書取置可申事)

第七條 初度地券相渡候以後賣買讓渡シ并ニ代更リ其外實地流込等ニテ持主相代リ候節ハ地券ノ裏ニ雛形ノ通相認地券書替ノ儀爲願出可申事

第八條 右書替願出候節ハ其情實ヲ吟味シテ後新地券ヲ渡シ舊券ヲ取消スヘシ尤大帳ニモ地主相代リ候趣并地代金増減ノ有無年月日共詳記シ置一ケ年分取纏メ大藏省ニ届出ツヘキ事

第九條 山林原野其他ノ地所共賣買讓渡ニ付地券相渡候分總テ同様可相心得事

第十條 願ニヨリ荒蕪ノ地所拂下ケ候節ハ同様地券可相渡事

第十一條 新規書替共地券申受候節證印稅トシテ左ノ通上納可爲致候事

地券ニ記セシ

同 金高 貳圓未滿

同 貳圓以上百圓迄

同 千分ノ五即チ百圓ニ付 五錢

券狀壹通ニ付

壹錢

○財產

地券書替印

第三十一條 本田畑ト雖モ村民退轉致シ持主無之荒地ハ其反別ヲ點檢致シ入札拂ノ積相
心得管内普ノ布告可致事

第三十二條 持主有之荒地ハ反別坪數等綿密ニ遂檢査起返ノ手數勘辨ノ上至當ノ年期チ
定メ代價ヲ記セサル券狀ヲ其持主ニ相渡年期中無稅ト可相定事(但荒地券狀印稅ハ
反別ノ多少ニ不拘一筆ノ地所ヨリ五錢ノ印稅ヲ收入スヘシ)

第三十三條 持主無之荒地并持主有之荒地共一郡限リ反別仕譯給圖面相添可届出事
第三十四條 村持ノ山林郊原其地價難定土地ハ字反別ノ記セル券狀ハ從前ノ買頼ヲ記
シ肩ニ何村公有地ト記シ其村方ヘ可相渡置事(但池沼ノ種類モ同類ノ事)

第三十五條 兩村以上數村入合ノ山野ハ其村々ハ組合トシ前同様ノ仕方ヲ以テ何村何村
ノ公有地ト認メ券狀可渡置尤其券狀ハ組合村方年番持等適宜ニ可相定事
第三十六條 總テ山林原野ノ類反別難相分分ハ先以テ無反別ニ致シ漸次點檢ノ積可相心
得事

第三十七條 總テ右種類ハ地界ヲ券狀ニ記載スヘシ譬ヘ東耕地西字何山南某川北某村字
何原ト如斯詳カニ記註ス可キ事

第三十八條 從前無稅地ニ住民有之候得共地位下等ニシテ他ヨリ望入ナキヲ以テ地價ノ
目的難相立節ハ一反步(即チ三百步)ノ地成ニ付十圓以上ノ地價ニ定ムヘキ事
第三十九條 地所引合相濟候ハ、落地無之旨地主一同調印ノ上戸長以下ノ誓文請書可申
付事

第四十條 右種類地有稅無稅ノ區界ヲ仕譯村限リ地券裏帳ノ末ニ記載可致事
右之通相達候事

六年十二月御布告第三百九十六號
地券渡方規則中證印稅ノ儀代替授與并水火盜難ニヨリ書替候分ハ今後券面書載ノ代價ニ

切歩賣買差

地券証印稅

地券西ノ更

官地拂下等
ノ地券雜形

地所賣買等
後ノ証印

拘ハラス券狀一枚ニ付五錢ツ、收入可致此旨布告候事
八年五月內務省布達甲第八號

明治五年九月大藏省達第百二十六號地券渡方規則第十八條屋敷地ノ外切歩ノ儀ハ百坪以
下ハ難相成旨揭曉候處自今人民便利ノ爲メ耕地宅地山林等總テ畝步多少ニ拘ハラス切歩
賣買不苦候條此旨布達候事

九年九月御布告第百十八號
地券書換證印ノ儀地租改正ノ後ハ時々ノ賣買地價ニ不拘五ケ年間据置候地價ニ據リ證印
稅收入候條此旨布告候事

十年二月地租改正局達乙第一號
本年第一號公布有之候ニ付地分面ノ儀ハ新規書換共別紙雜形ノ通リクルヘク既ニ渡濟ノ
分ハ漸次更正候儀ト可相心得此旨相達候事

十年三月地租改正局達乙第三號
當局本年乙第一號同第二號ヲ以テ地券雜形相達置候處今年ヨリ以降再改正年度迄ノ間
ニ係ル官地拂下荒地免稅并開墾地銀下年季明等ノ分ハ別紙雜形ノ通書載可致此旨相達候
事

十二年二月御布告第六號
地所賣買讓與等ノ節ハ總テ地券書換下ケ渡スヘキ成規ノ處自今其券狀餘白アルモノハ管
轄廳ニ於テ其裏面ヘ確認ノ證ヲ記シテ下ケ渡スヘシ此旨布告候事
但證印稅ノ儀ハ從前ノ通

十二年七月地租改正局達乙第六號

○財產